

金沢工業大学 御中

平成20年度 授業調査 報告書

2009.09.14

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	15
<4>学部・学科別の分析	21
<5>科目区分別の分析	39
<6>同一学生群の分析	46
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	52
<8>全体のまとめ	56

<1>本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから、現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度から質問項目を変更しており、今回が4年目となるため、4年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。

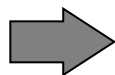
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容					
有効回答数	1年次生	31,564件				
	2年次生	38,414件				
	3年次生	25,939件				
	4年次生	8,577件				
	合計有効回答数	104,494件				
年別回答数推移	回答数の推移は下記の通り。					
	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135	旧調査票 (比較不可)
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919	
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	
対象科目	654科目					
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。 ・ 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 ・ 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 					
調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント					

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

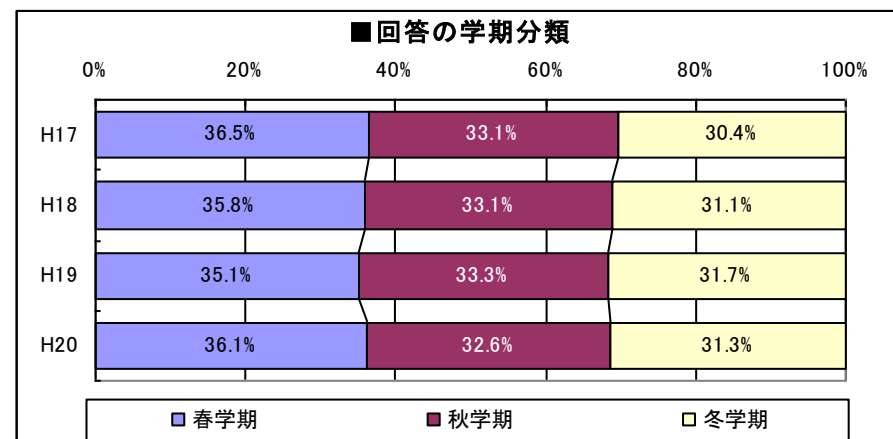
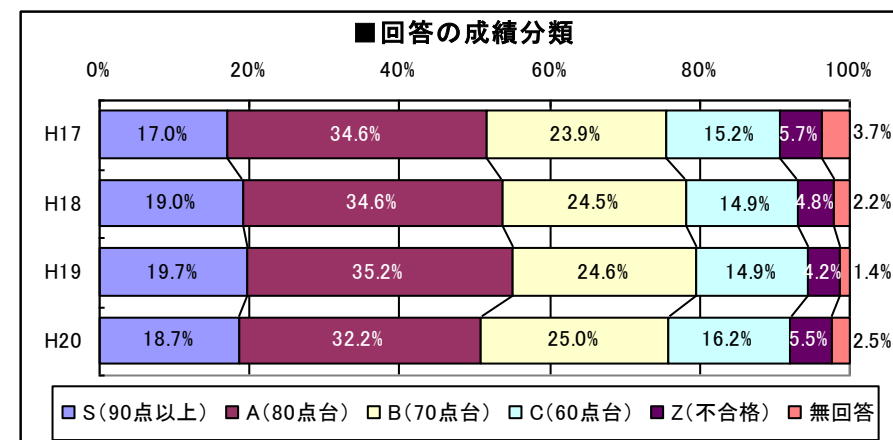
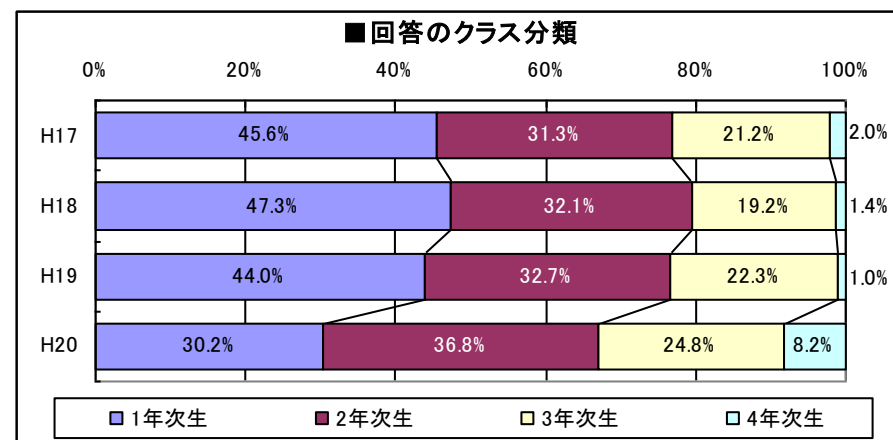


	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることはできましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

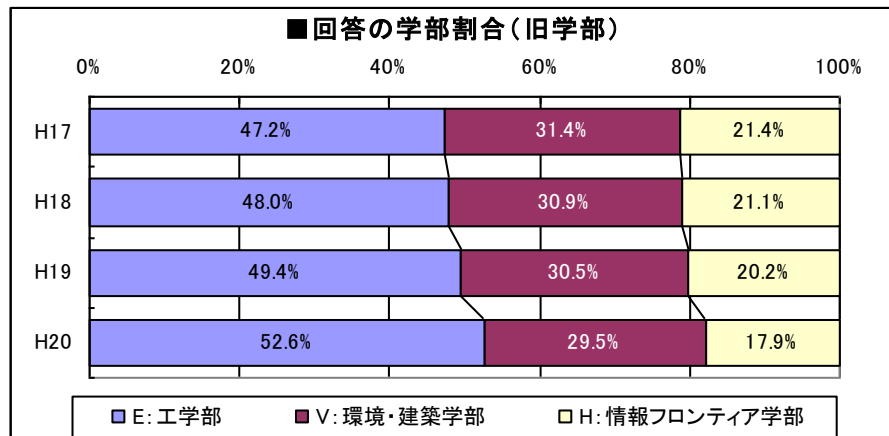
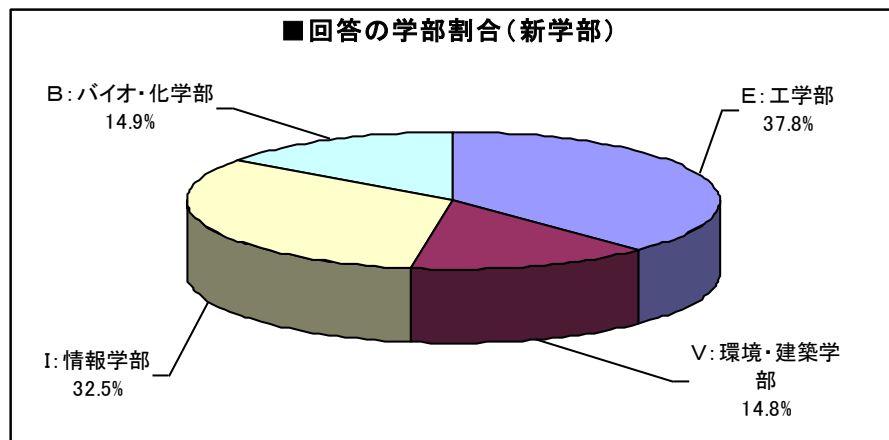
下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 設問の「D」「F」「H」「K」は平成15年度より同じ内容となっているため、全ての期間に渡って比較ができるが、他の設問はH17年の変更後のみの期間で比較を行っている。

- 今回の回答者の基本属性は下記の通りであった。
- 回答のクラス分類では「1年次生」が30.2%、「2年次生」が36.8%、「3年次生」が24.8%、「4年次生」が8.2%であり、過去の回答者属性と比べると「1年次生」の減少が大きく、他の学年はわずかつ増加していた。
- 回答の学期分類を見ると「春学期」が36.1%、「秋学期」が32.6%、「冬学期」が31.3%であり、過去の調査と比べて大きな差は見られなかった。
- 成績分類に関しては「S(90点以上)」が18.7%、「A(80点台)」が32.2%となっており、この2つで約5割を占めていた。過去の調査と比べると「A(80点台)」がやや減少し、「C(60点台)」「Z(不合格)」がわずかつ増加しており、全体としてはやや成績は低下しているようであった。

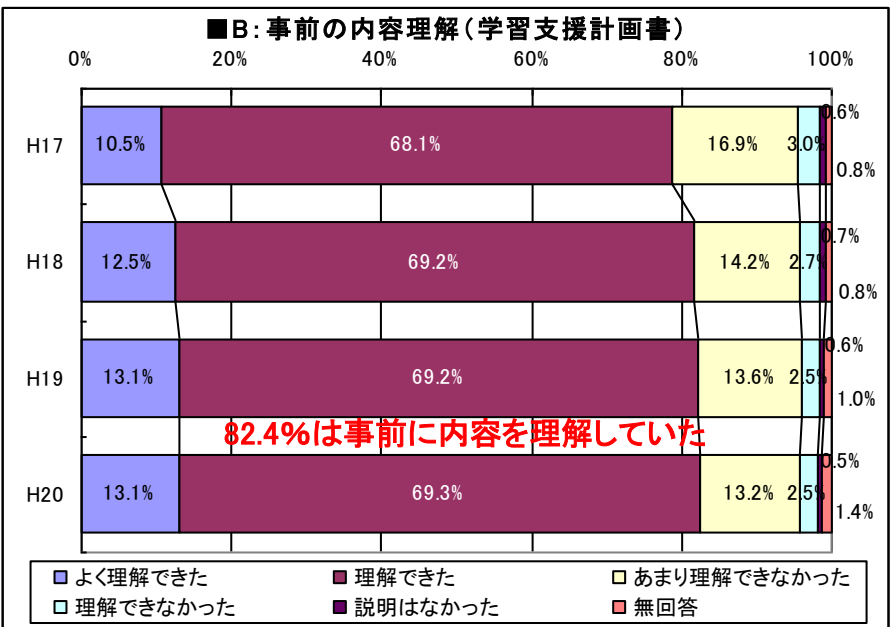
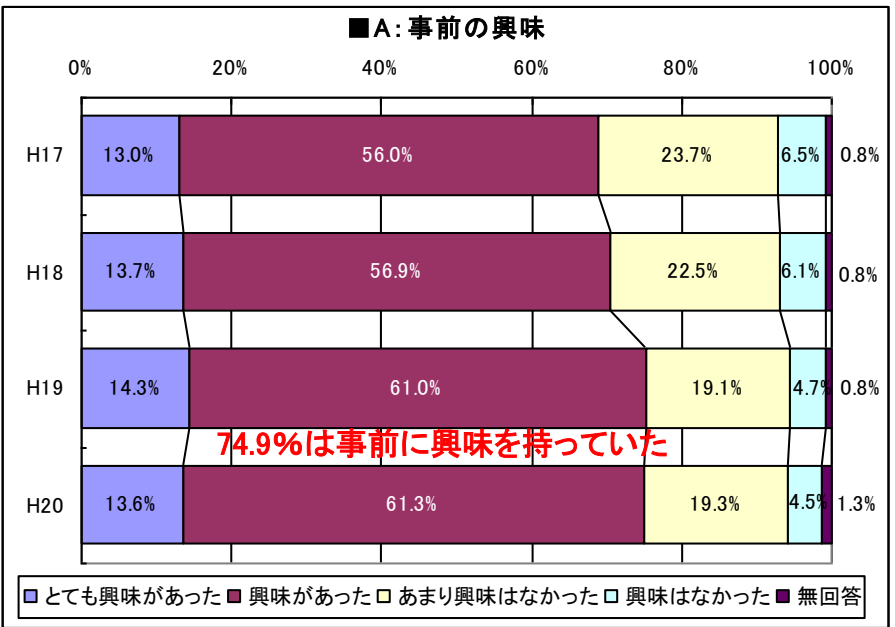


- 今回の調査では「1年次生」が新学部体制、「2年次生」～「4年次生」が旧学部体制となっているため、学部毎の割合も新旧の2つの体制で確認した。
- 4学部の新学部体制では「E:工学部」が37.8%と最も多く、次いで「I:情報学部」(32.5%)、「B:バイオ・化学部」(14.9%)、「V:環境・建築学部」(14.8%)と続いていた。
- 3学部の旧学部体制では「E:工学部」が52.6%と過半数を占め、次いで「V:環境・建築学部」(29.5%)、「H:情報フロンティア学部」(17.9%)と続いており、過去の調査と比べると「E:工学部」が増加し、他の2学部は減少していた。

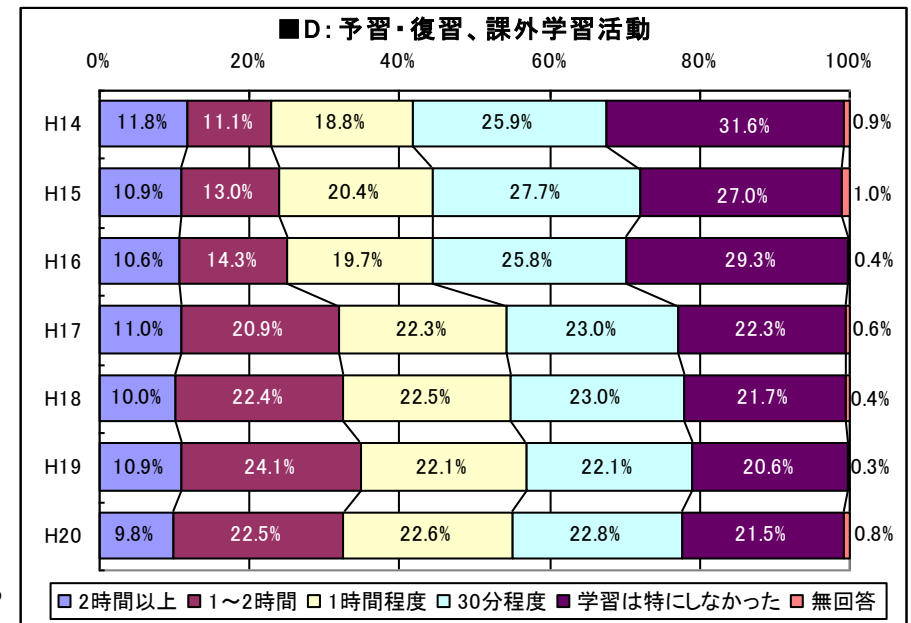
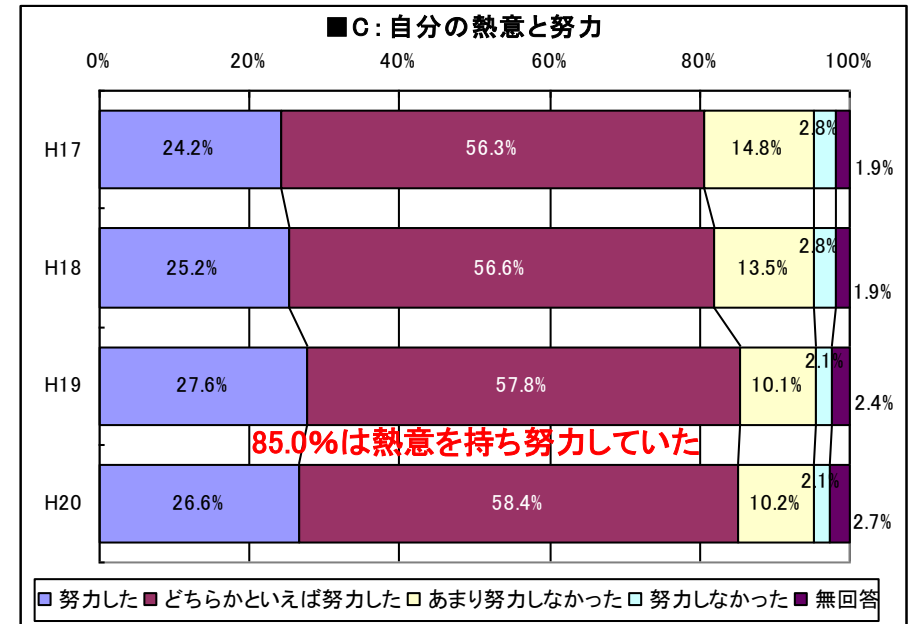


<2> 基本的な分析

- 「A:事前の興味」に関しては、「とても興味があった」が13.6%、「興味があった」が61.3%であり、合わせると74.9%が興味を持って授業を受けていたという回答であった。
- 過去の結果と比べるとH19とはほとんど差はないが、H17、H18と比べると授業に対する事前の興味は強くなっていると言える。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の質問は「最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか?」というものであるが、「理解できた」が69.3%と大多数を占めており、「よく理解できた」の13.1%と合わせると82.4%が事前に理解できているようであった。
- 過去の調査と比べると、H18以降はほとんど変化はなく、約15%の学生が授業の概要などを理解できないまま授業を受け始めている様子であった。

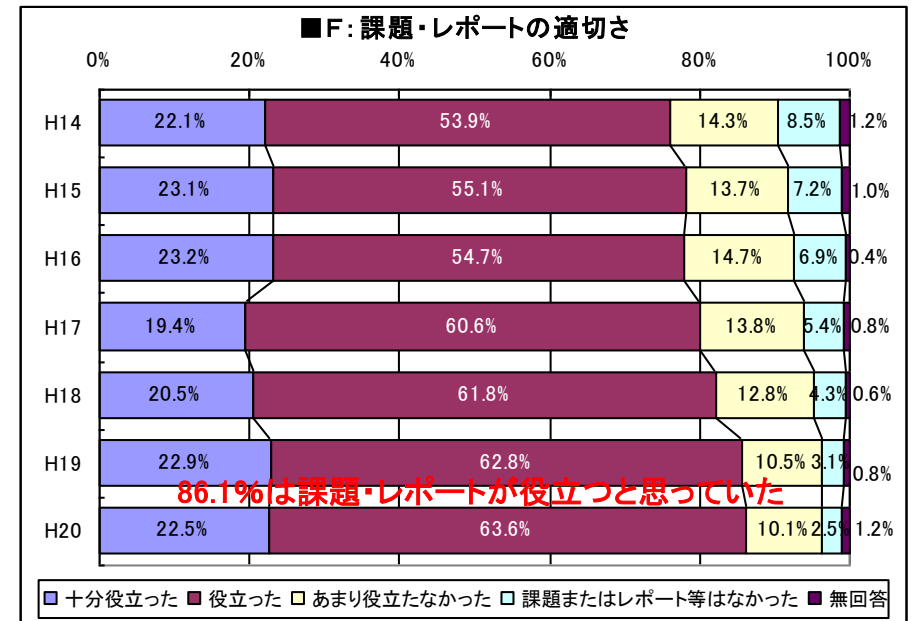
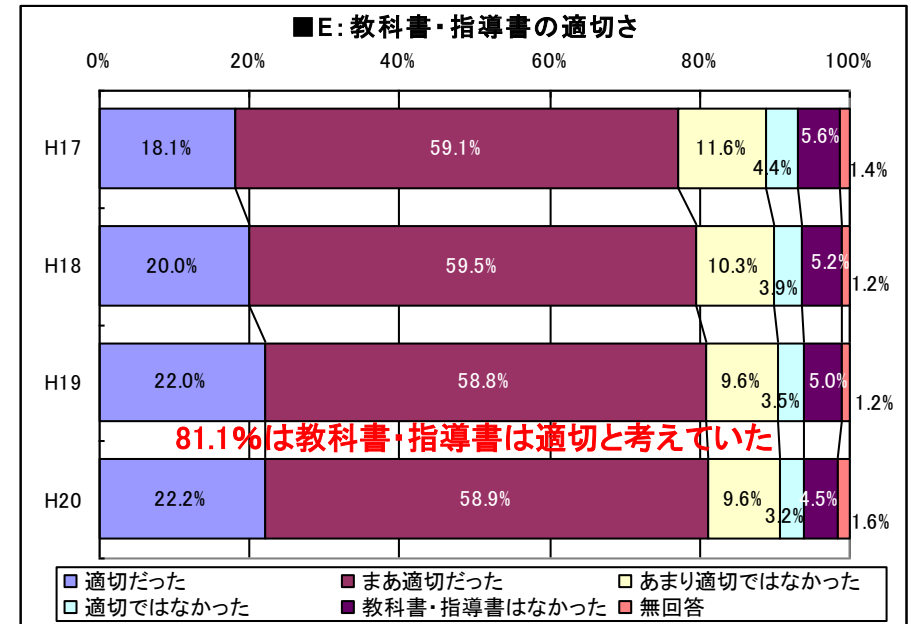


- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問であるが、「努力した」が26.6%、「どちらかといえば努力した」が58.4%であり、合わせると85.0%が努力したと答えており、学生の積極性がうかがえた。
- 過去の調査と比べると、H19とはほとんど差がなかったが、H17、H18と比べると、H19、H20は積極性が増しており、良い状態にあるものと思われる。
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか?」という質問で具体的な時間数を聞いているが、「学習は特にしなかった」が21.5%であり、残りの約8割は長短はあるが予習・復習などに時間を充てていることが分かる。
- 「2時間以上」は9.8%と1割に満たなかったが、「1～2時間」は22.5%、「1時間程度」は22.6%であり、約半数が1時間以上の時間を充てているようであった。
- H19と比べると「学習は特にしなかった」がわずかに増加し、「2時間以上」「1～2時間」がわずかに減少しており、学習時間はやや減少する傾向が見られたが、H17以降の変化は非常に小さいと言える。

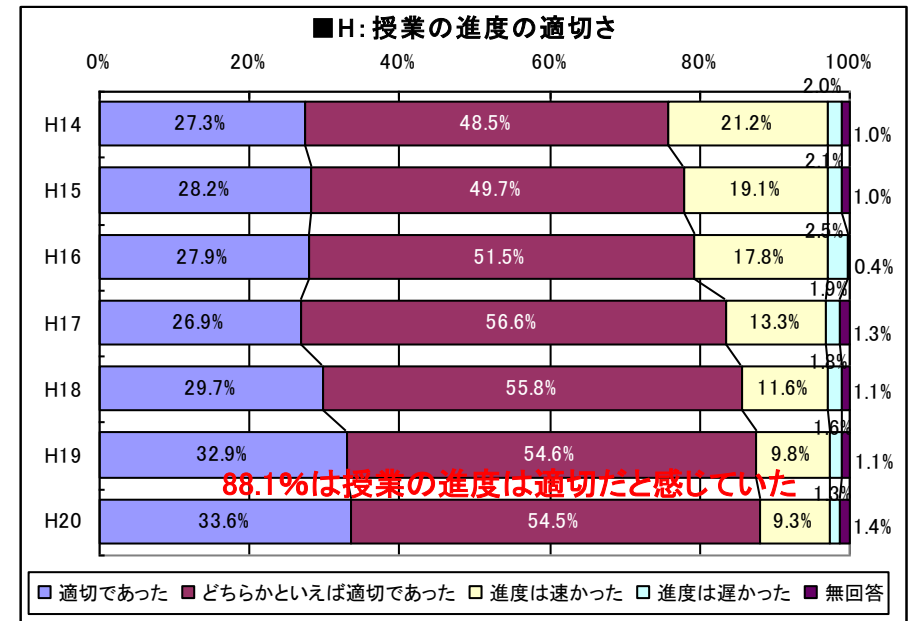
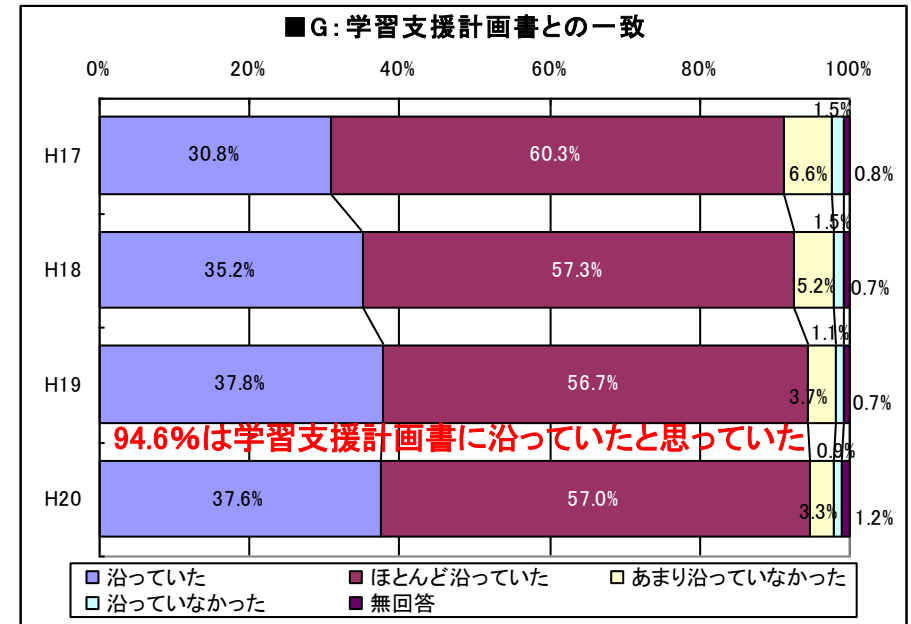


※H16までの設問:「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」

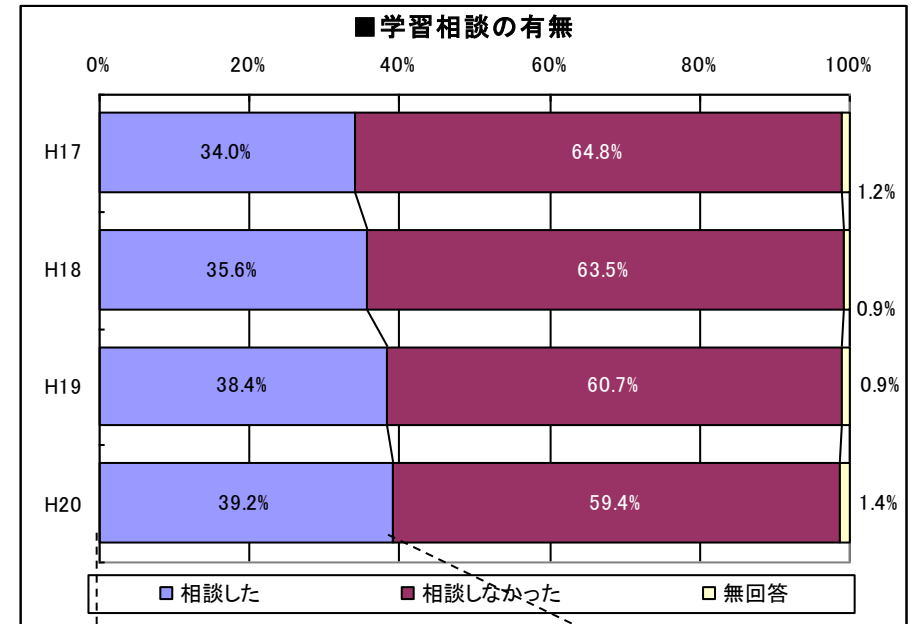
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」は22.2%、「まあ適切だった」は58.9%であり、合わせると81.1%であり、大きな問題はないものと思われる。
- 過去の調査と比べると、H19からの変化はほとんどなく、評価は変わっていないと言える。H17、H18と比べると評価は良くなっており、何らかの改善がなされて、その評価が維持されているものと思われる。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか?」という質問であるが、22.5%は「十分役立った」、63.6%は「役立った」と答えており、合わせると86.1%が肯定的な評価となっていた。
- H19の結果と比べると、わずかではあるが肯定的な意見が増加していた。「十分役立った」と「役立った」を合わせたものは、わずかずつではあるがH14から継続的に増加してきており、今回も前回は上回る結果となっていた。



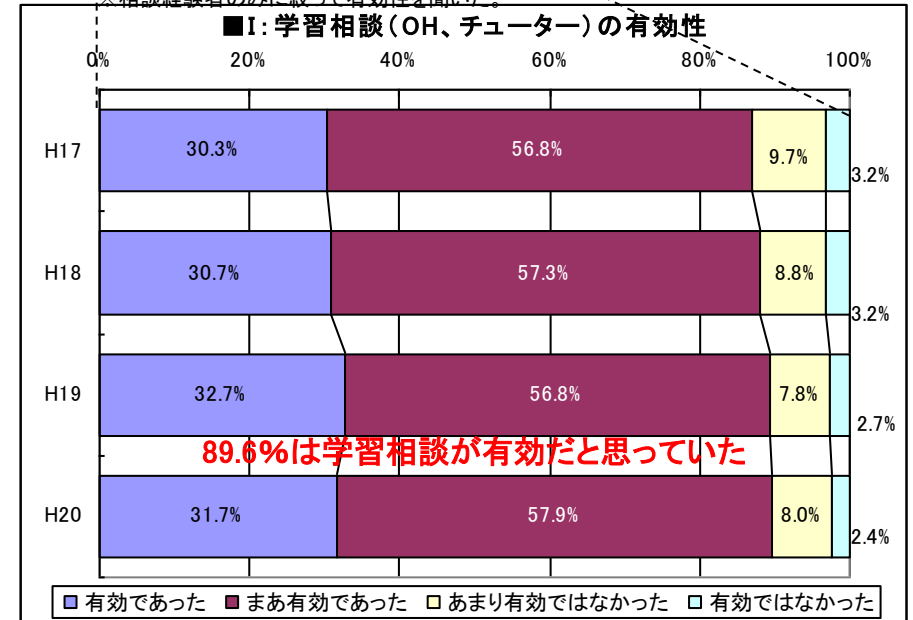
- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」が37.6%、「ほとんど沿っていた」が57.0%で、合わせると94.6%となり、ほとんどの科目は学習支援計画書にしっかりと沿っていたと言える。
- 過去の調査と比べると、H19からの変化はほとんどなかった。100%近くが肯定的な意見であり、これ以上、肯定的な意見が増加する余地は少なく、今後は「沿っていた」の増加を目指すことになると思われる。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」が33.6%、「どちらかといえば適切であった」が54.5%で、合わせると88.1%が肯定的な意見であり、進度に大きな問題はないと言える。
- ただし、9.3%が「進度は速かった」と答えていることから、約1割は進度が速いと感じており、これらのフォローも重要と言える。
- H19と比べると変化はほとんどなく、評価は変わっていないと言えるが、調査を開始したH14、H15などと比べると評価は非常に良くなっており、改善が進んだものと思われる。



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」と聞いており、「有効であった」～「有効でなかった」という評価と、「相談しなかった」の5つの選択肢で回答を得ている。
- 学習相談の利用率を見るため、「学習相談の有無」だけを抽出して確認したところ、「相談しなかった」は59.4%であり、「相談した」の39.2%を20.2ポイント上回っていた。
- 過去の調査と比べると、わずかずつではあるが年々、利用率は高まってきており、今回はH19を0.8ポイント上回っていた。
- 相談経験者に絞って内容の「有効性」を確認したところ、「有効であった」は31.7%、「まあ有効であった」は57.9%であり、合わせて89.6%が学習相談を有効であったと感じていた。
- H19には肯定的な意見が89.5%であり、今回の調査とほぼ同じであったが、H17、H18と比べると評価は高まってきており、何らかの改善がなされたものと思われる。



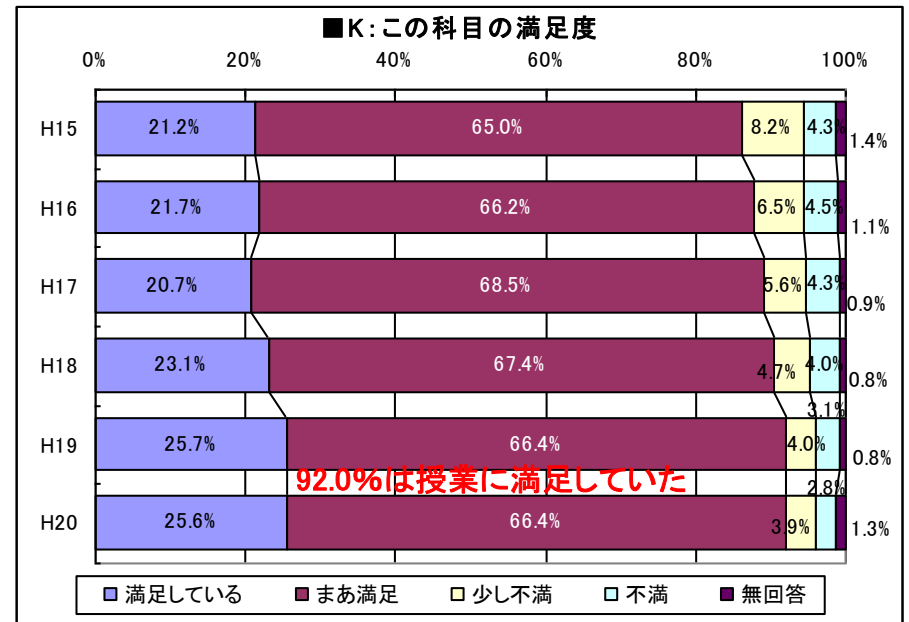
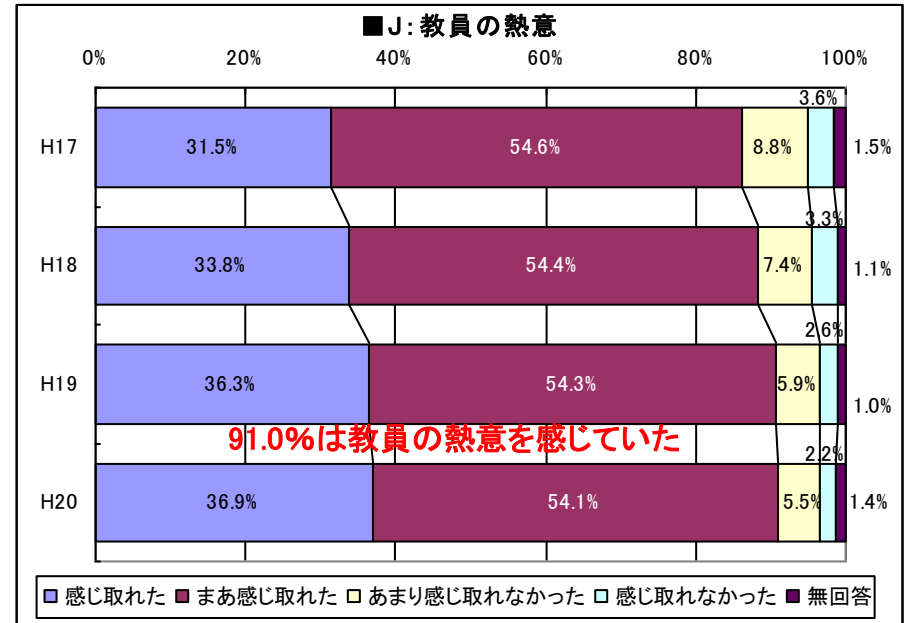
※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であったが、「感じ取れた」は36.9%と多く、「まあ感じ取れた」の54.1%を加えると91.0%が教員の熱意を感じ取れたという意見であった。
- 過去の調査と比べると、他の指標と同様にH19との差はほとんどなかったが、H17、H18と比べると評価は上がっており、教員の努力が伝わったものと思われる。
- 「K:この科目の満足度」はここまでの指標を全て含み、科目の最終的な満足度となるが、全科目で見ると「満足している」が25.6%、「まあ満足」が66.4%であり、合わせると92.0%が科目に満足しているという回答であり、満足度は非常に高いと言える。
- H19と比べるとほぼ差はなく、評価は変わっていないと言えるが、H15からの変化を見ると、一度も前年を下回ることなく、継続的に満足度が上がっていることが分かる。

■満足している層の経年変化

年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	—
H16	87.9%	+1.7
H17	89.1%	+1.3
H18	90.5%	+1.4
H19	92.1%	+1.5
H20	92.0%	-0.1

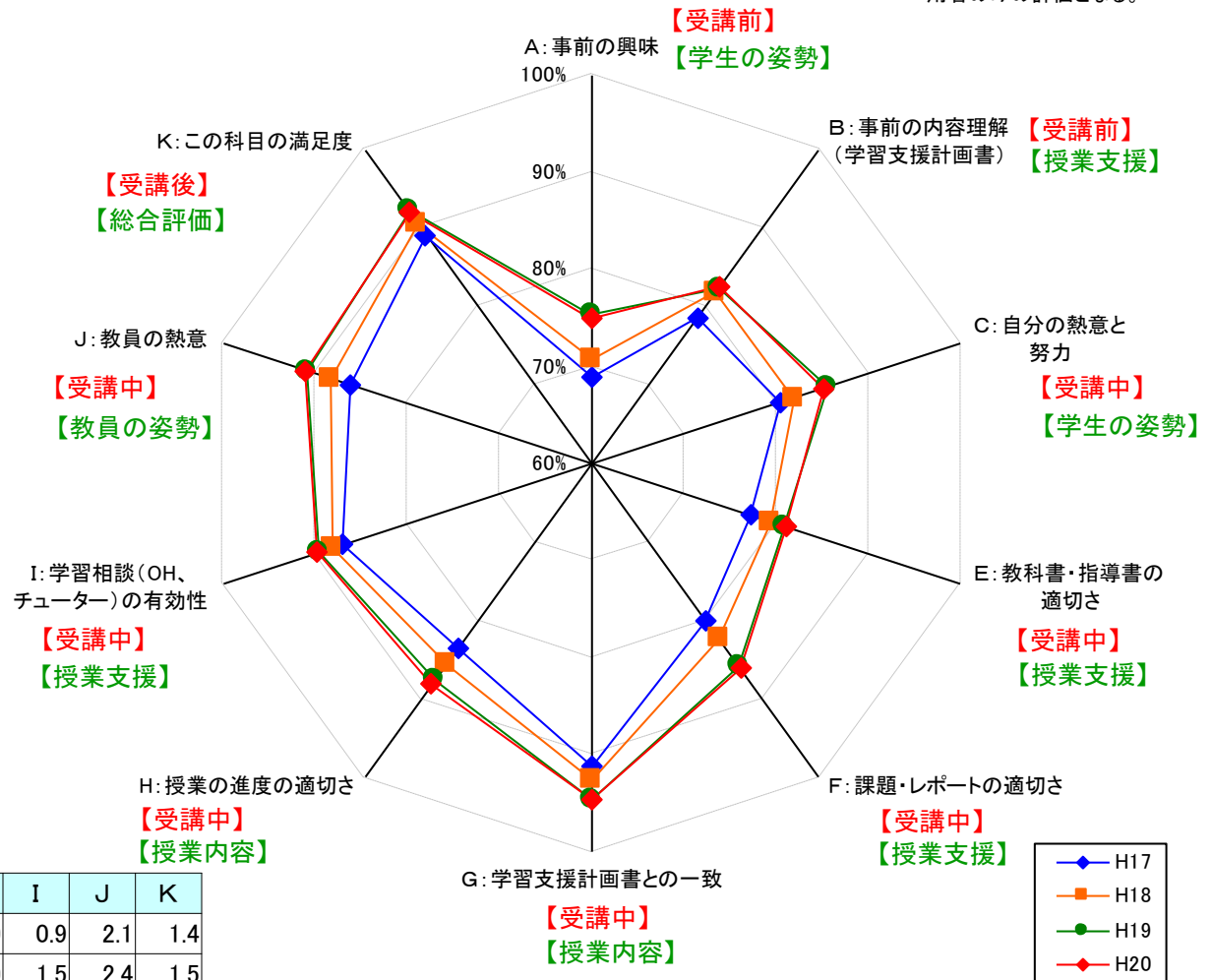


<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 全体的な傾向を確認するため、肯定的な意見の割合をレーダーチャートにまとめた。なお、肯定的な意見として集計できない「D: 予習・復習、課外活動」は加えておらず、「I: 学習相談の有効性」は利用経験者の意見のみを集計している。
- 並列で比較できるものではないが、全体的な傾向を見ると、「A: 事前の興味」「B: 事前の内容理解」「E: 教科書・指導書の適切さ」といった項目の評価がやや低めであり、本格的なカリキュラムに入る前に興味を持たせたり、どのような内容であるかを事前に理解させるといった事前準備に改善の余地があるのではないかとと思われる。
- 一方、「K: この科目の満足度」をはじめとして、「G: 学習支援計画書との一致」「I: 学習相談の有効性」「J: 教員の熱意」などは肯定的な意見が9割を超えており、授業の進め方や学生サポートなどの評価は高く、教員の熱意も伝わっていると言える。
- 前項までに各指標の経年変化を見ているが、ここでも同様にH19とほとんど差がないことが確認できた。しかし、H17、H18と比べると評価は高く、改善が進んでいるものと思われる。

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。

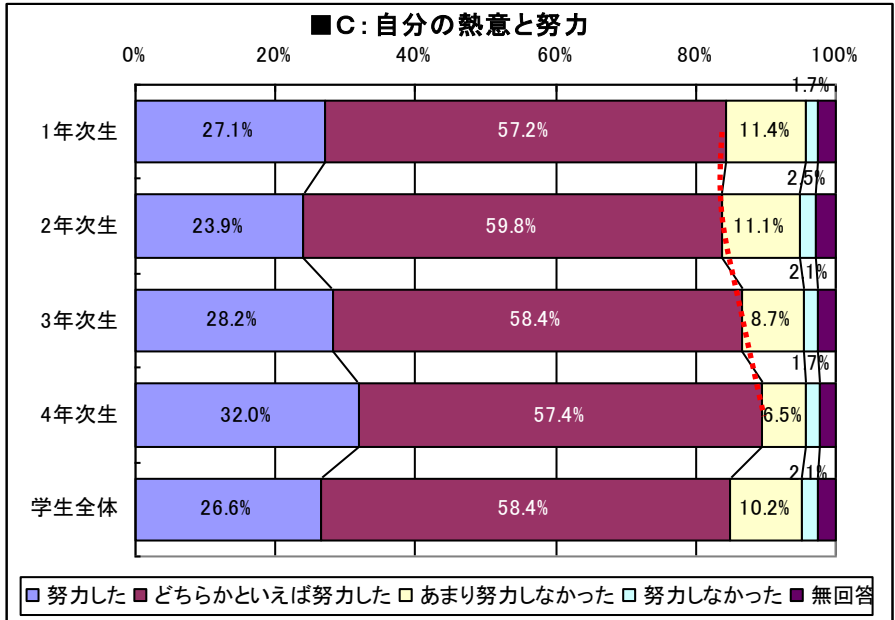
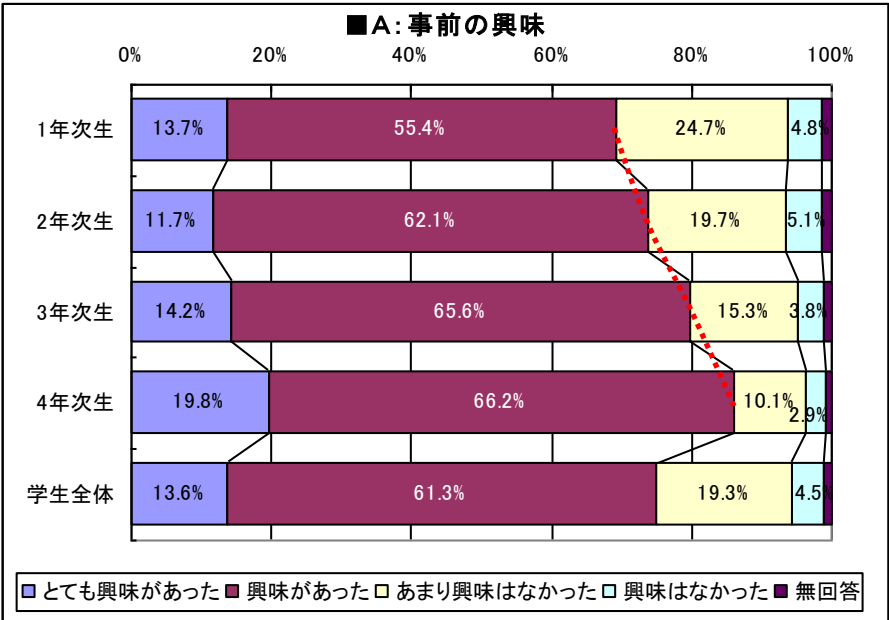
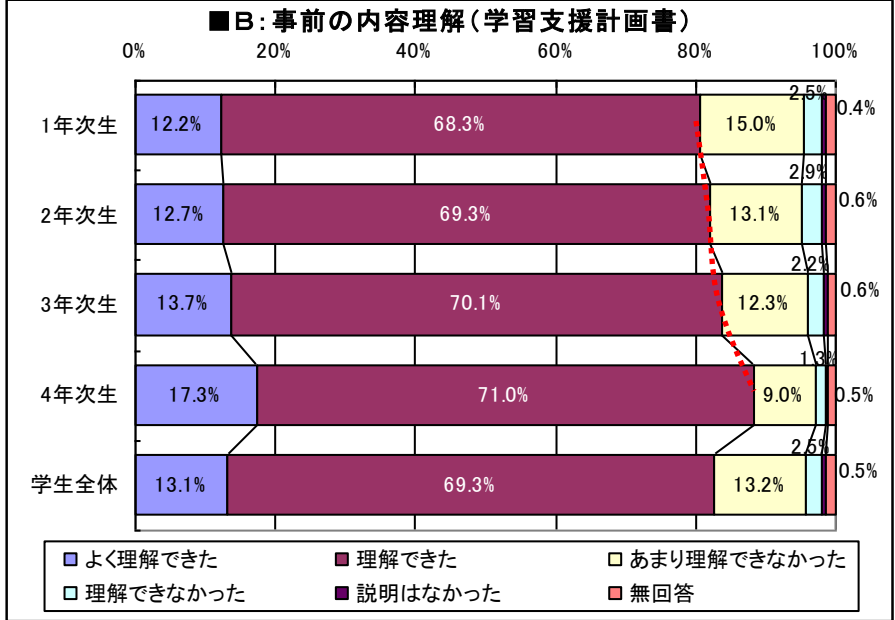


■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

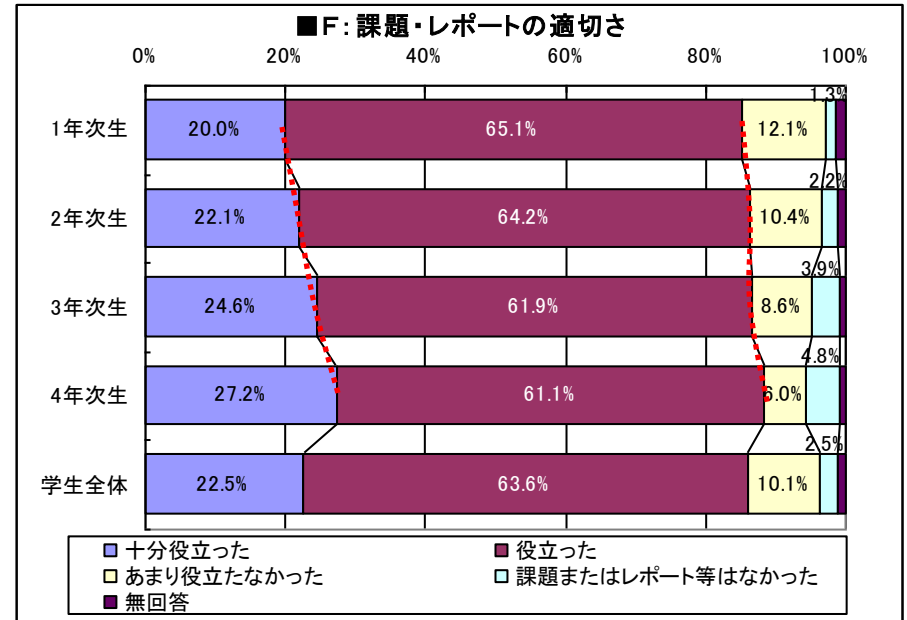
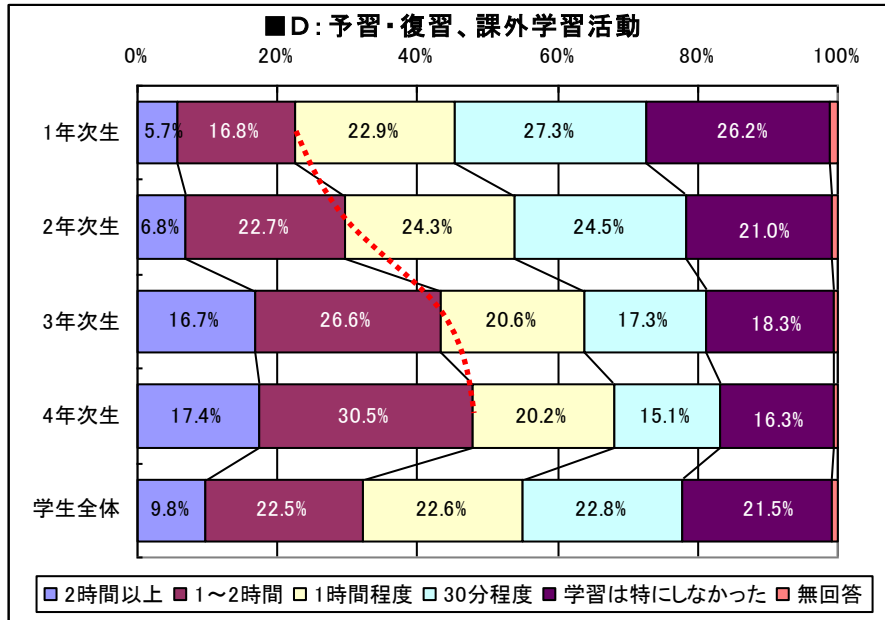
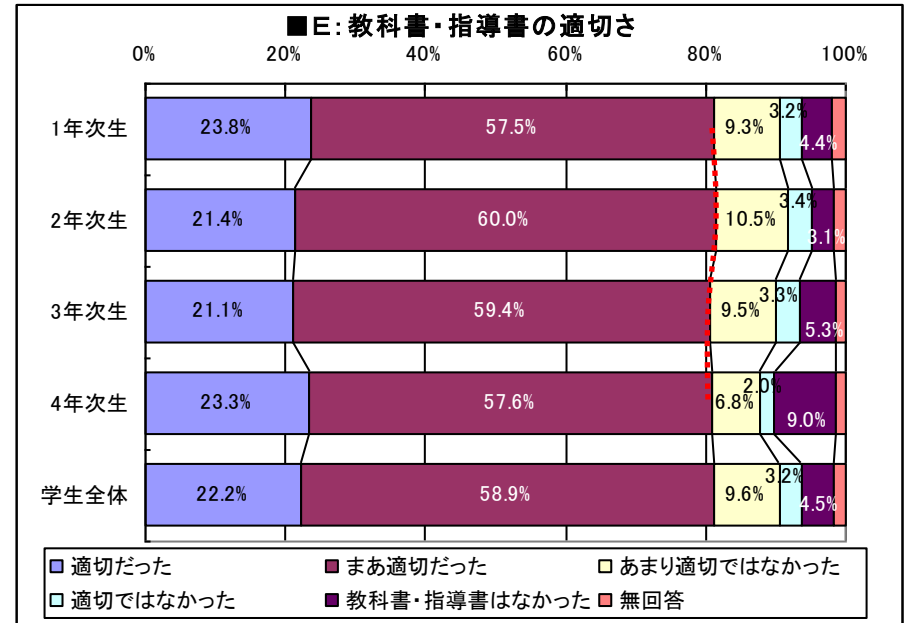
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1

<3> 学年別の分析

- 「A: 事前の興味」を学年別に比較したところ、「とても興味があった」だけでは大きな特徴は見られなかったが、「興味があった」までを合わせたもので比較すると、高学年ほど事前の興味が強いことが分かった。
- 「B: 事前の内容理解」も「1年次生」～「3年次生」の差は少ないものの、高学年ほど肯定的な意見が多く、学年が上がるに連れ事前の理解が進んでいる様子がうかがえた。特に「4年次生」では88.3%が肯定的な意見であり、4年間のうちに授業を受けるための前準備に慣れたものと思われる。
- 「C: 自分の熱意と努力」は差は少ないものの「2年次生」で肯定的な意見が少ない点が目立っていた。そして、「1年次生」「3年次生」は同程度であり、「4年次生」が最も熱意を持ち、努力しているようであった。ここで見られた「2年次生」の段階での意識の低下を防ぐことが一つのポイントになるものと思われる。

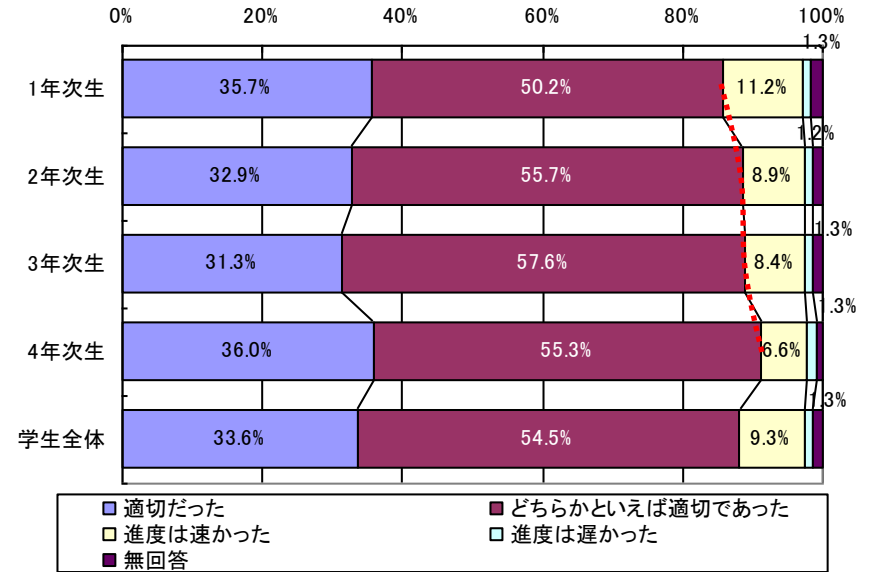


- 「D:予習・復習、課外学習活動」を見ると、「学習は特にしなかった」は高学年ほど少なくなっていた。そして、「2時間以上」「1~2時間」は高学年ほど多くなっており、高学年ほど予習・復習にしっかり時間を充てている様子がうかがえた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では、「適切だった」は「1年次生」がやや多く、「教科書・指導書はなかった」は「4年次生」が多めであった。しかし、学年毎の差はそれほど大きくなく、学年が異なっても教科書・指導書の評価には差がないと言えそうであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は、「十分役立った」と「役立った」を合わせたものでは学年による差は大きくなかったが、「十分役立った」だけを見ると高学年ほど「役立った」という意見が多くなっており、学年が上がるにつれ課題・レポートを高く評価しているようであった。

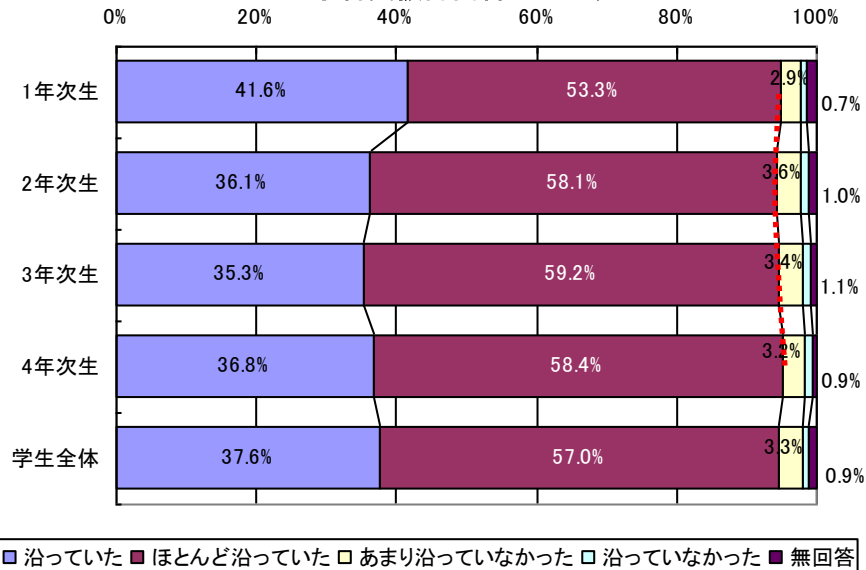


- 「G:学習支援計画書との一致」は「沿っていた」と「ほとんど沿っていた」の合計では学年による差はほとんどなかったが、「沿っていた」だけでは「1年次生」が多く、1年次生の段階では授業内容は学習支援計画書に沿っていると感じているようであり、「2年次生」～「4年次生」の間には差が見られなかった。
- 「H:授業の進度の適切さ」では、割合は少ないものの低学年ほど「進度は速かった」が多く、「1年次生」では1割以上が速と感じていた。そして、「適切だった」は「4年次生」と「1年次生」が多く、「どちらかといえば適切だった」は「3年次生」が多かった。ただし、どの学年も9割前後は進度に不満は感じておらず、大きな課題は見られなかった。
- 「I:学習相談の有効性」で「相談しなかった」だけを見ると、「2年次生」が最も多くて「4年次生」が最も少なく、学年による意識の差が見られた。また、「4年次生」は19.8%が「有効であった」と答えており、オフィスアワーやチューターを上手に活用している様子がうかがえた。

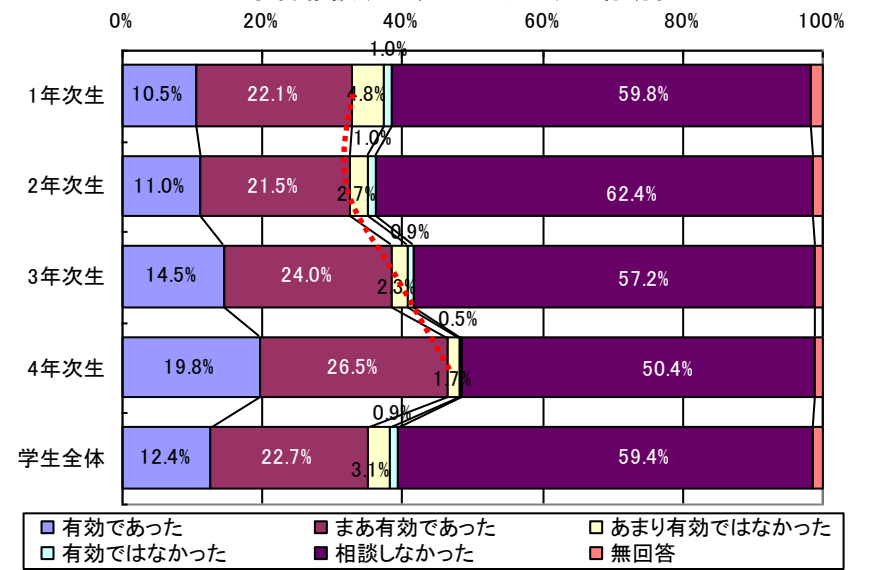
■H: 授業の進度の適切さ



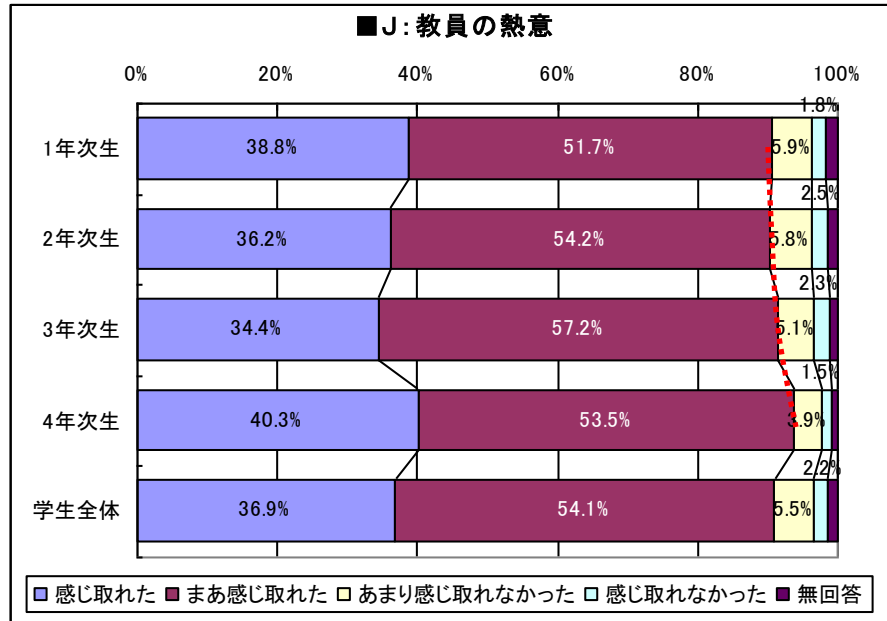
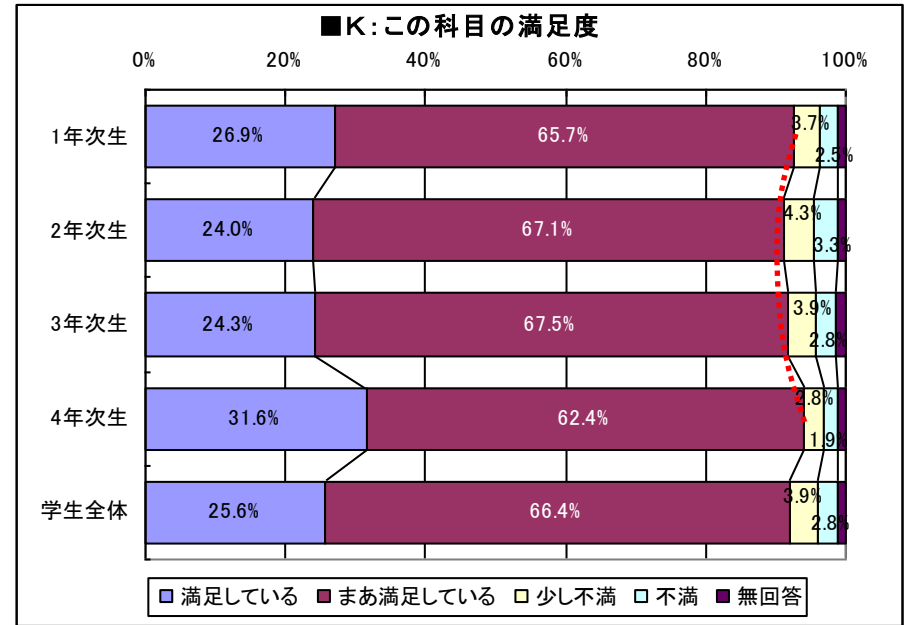
■G: 学習支援計画書との一致



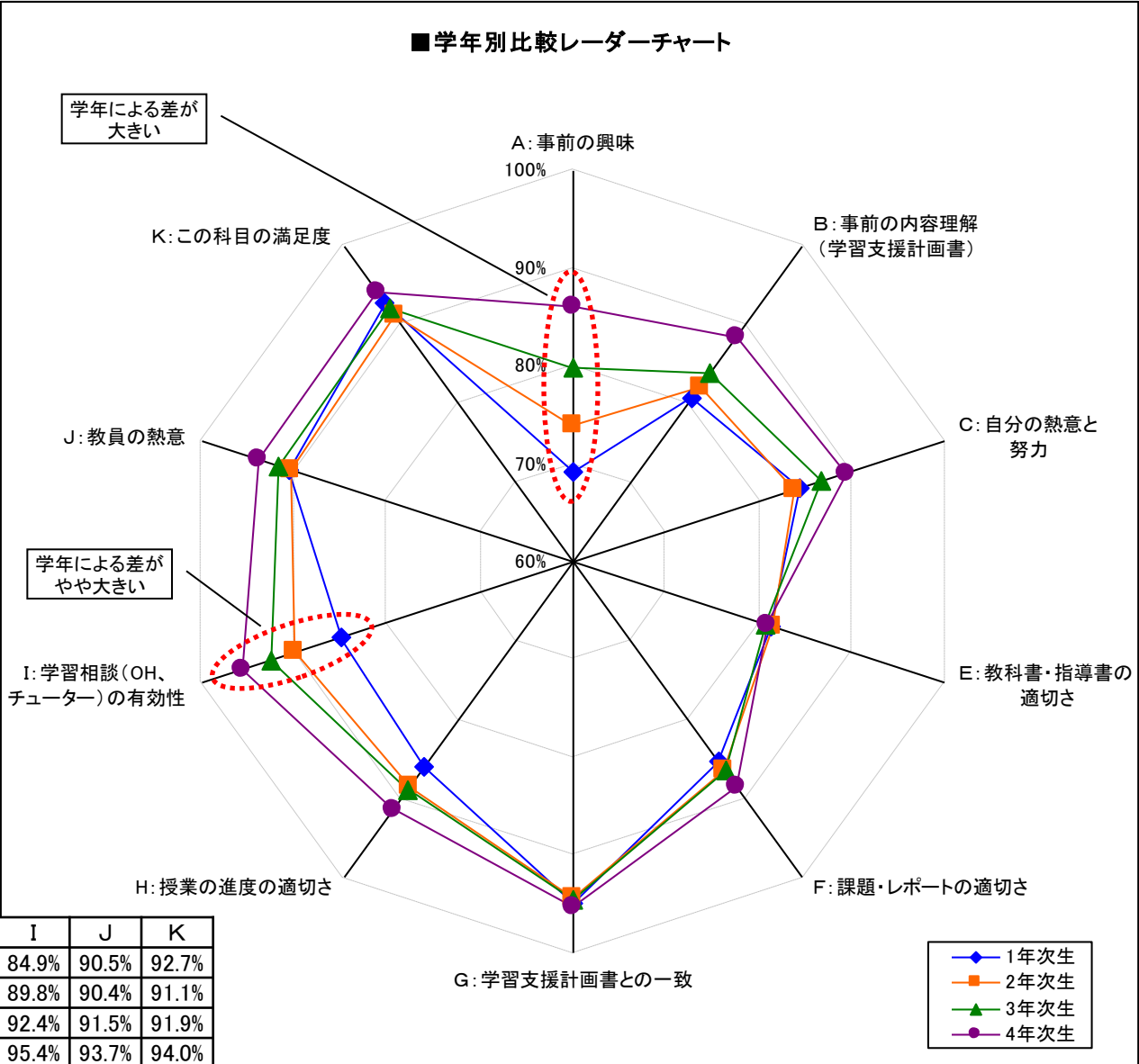
■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



- 「J:教員の熱意」では、「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」を合わせるとわずかではあるが高学年ほど肯定的な意見が多かった。しかし、「感じ取れた」だけで見ると「4年次生」に次いで「1年次生」「2年次生」「3年次生」と下がってきており、「4年次生」「1年次生」が教員の熱意を強く感じており、「3年次生」はあまり強く感じていないという傾向がうかがえた。
- 「K:この科目の満足度」では、「満足している」だけを見ると「4年次生」「1年次生」が高めで「2年次生」「3年次生」がやや低かった。「まあ満足している」を加えたものでも同様に「4年次生」「1年次生」の満足度が高めであり、入学直後と卒業直前の満足度が高いことと、「2年次生」～「3年次生」での満足度の低下が確認できた。
- この「2年次生」と「3年次生」の段階での学生の状況を分析し、入学直後の満足感を維持させることが全体的な満足度の向上につながるものと思われる。



- 学年別に比較するため、肯定的な意見の割合をレーダーチャートにプロットした。
- 全体として目立っていたのは「4年次生」であり、ほとんどの項目で最も肯定的な意見が多かった。特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」が高く、前にも確認しているように事前の興味や内容理解が満足度の高さにつながっているのではないかとと思われる。
- 一方、「1年次生」は低めの項目が多く、「A:事前の興味」「H:授業の進度の適切さ」「I:学習相談の有効性」などで肯定的な意見が少なく、ややとまどっているものと思われる。
- 学年による差が大きかったのは、「A:事前の興味」「I:学習相談の有効性」であった。低学年は大学の授業の進め方に慣れていないということではないかと思われる。
- 学年による差が少なかったのは「E:教科書・指導書の適切さ」「K:この科目の満足度」の差も少なく、全体的に高い評価で一致していると言える。

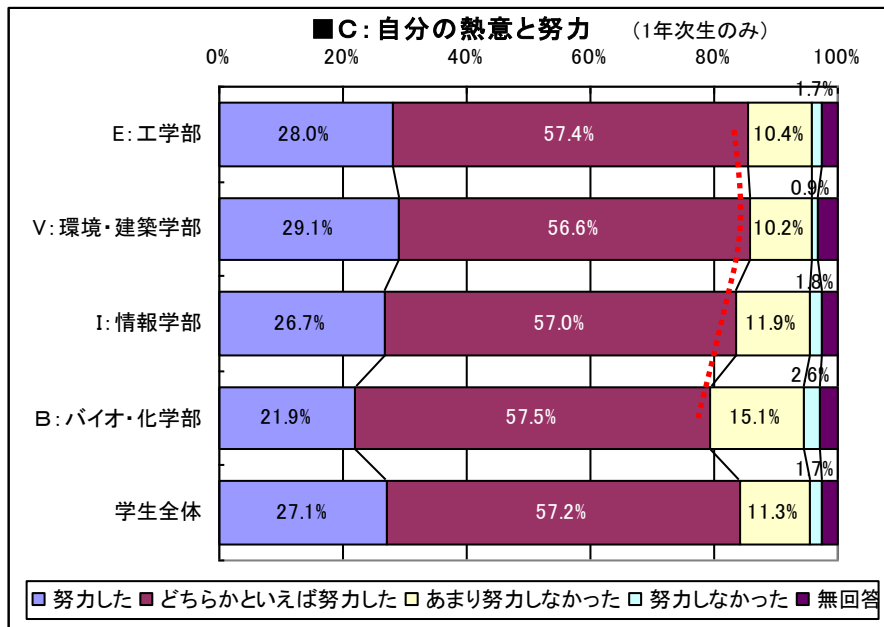
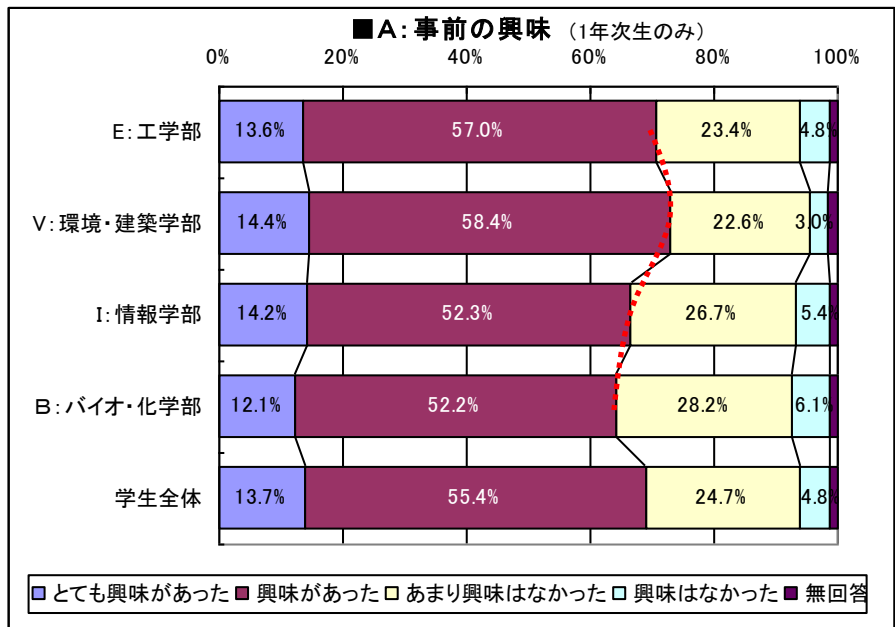
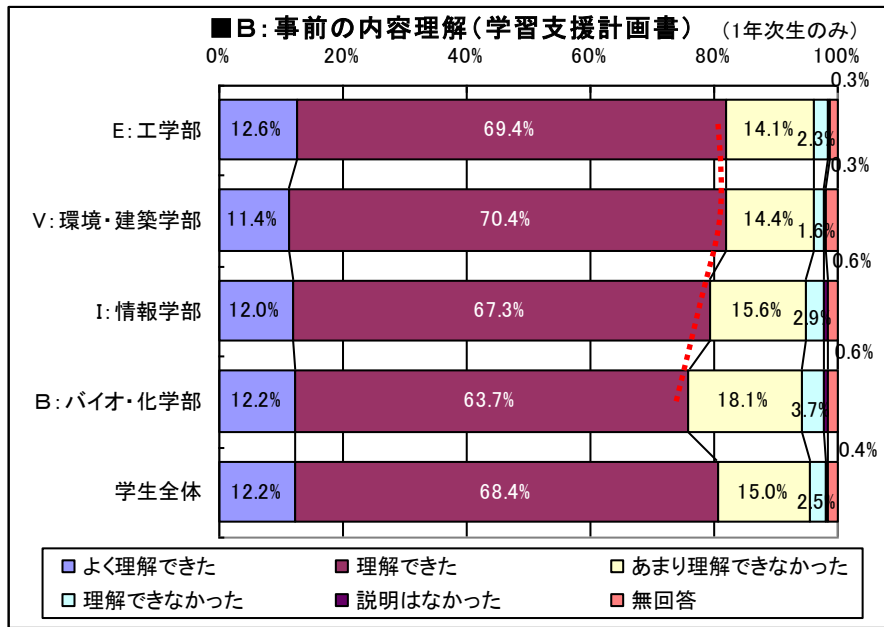


■ 学年別比較

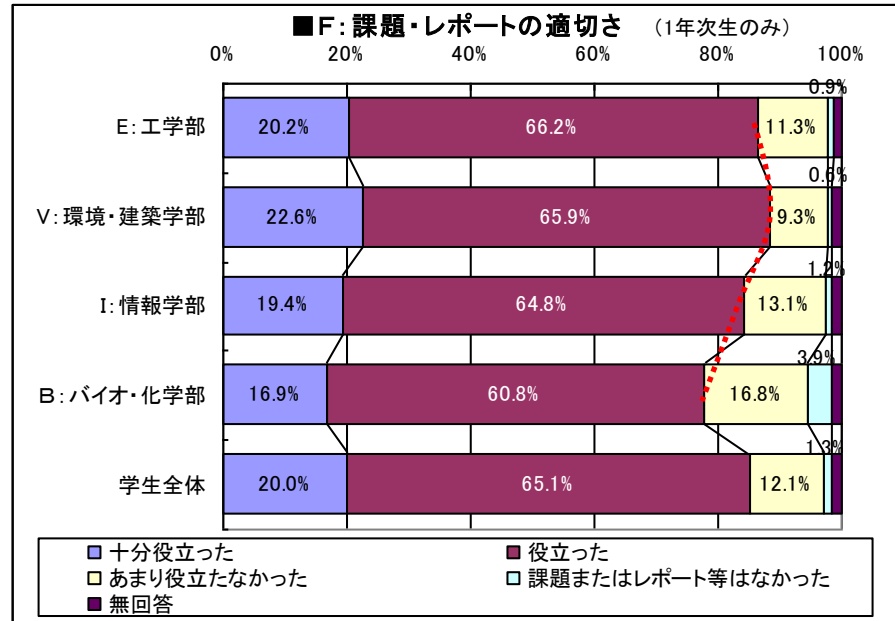
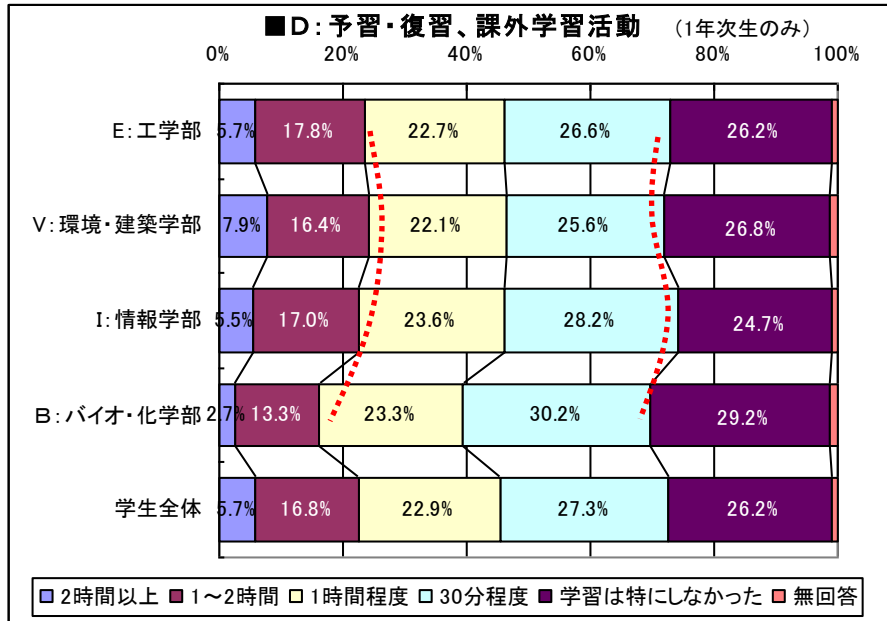
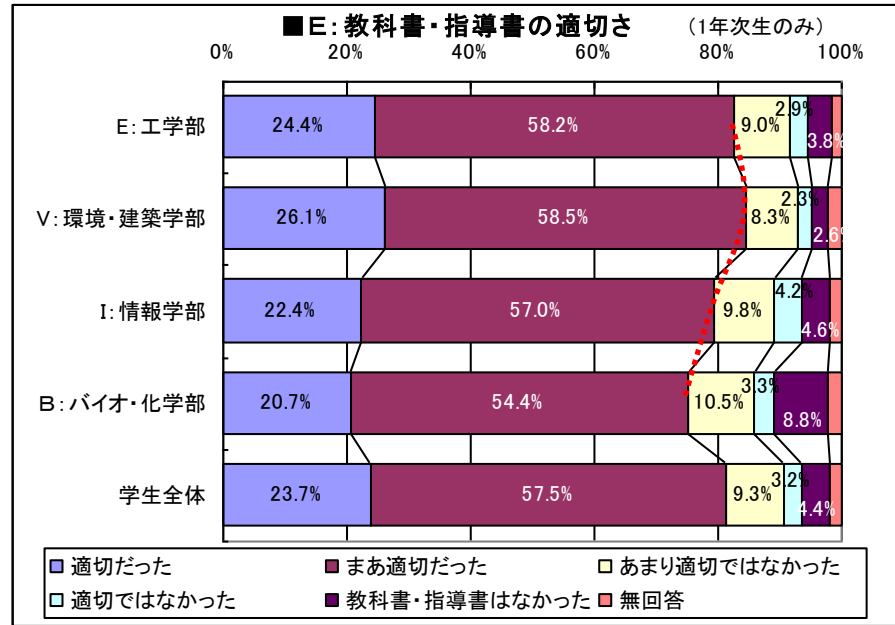
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	69.1%	80.5%	84.3%	81.2%	85.1%	94.9%	85.9%	84.9%	90.5%	92.7%
2年次生	73.9%	81.9%	83.6%	81.4%	86.3%	94.2%	88.5%	89.8%	90.4%	91.1%
3年次生	79.7%	83.8%	86.6%	80.5%	86.5%	94.5%	88.9%	92.4%	91.5%	91.9%
4年次生	86.0%	88.2%	89.3%	80.9%	88.3%	95.2%	91.2%	95.4%	93.7%	94.0%

<4> 学部・学科別の分析

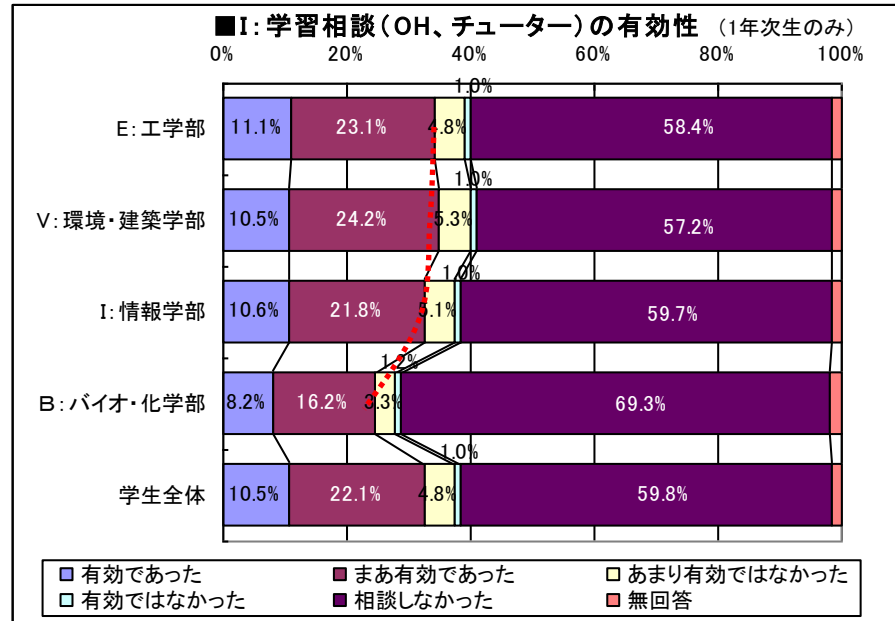
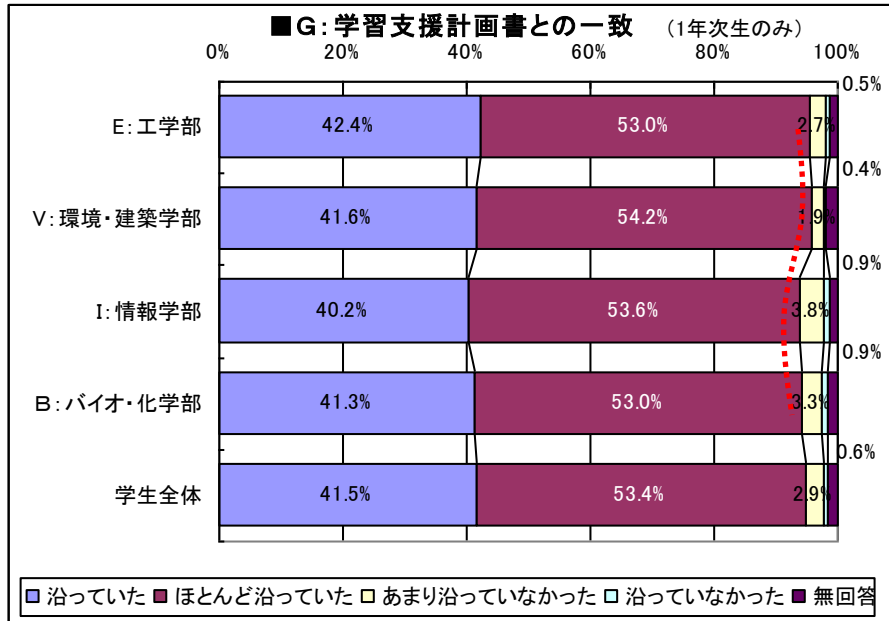
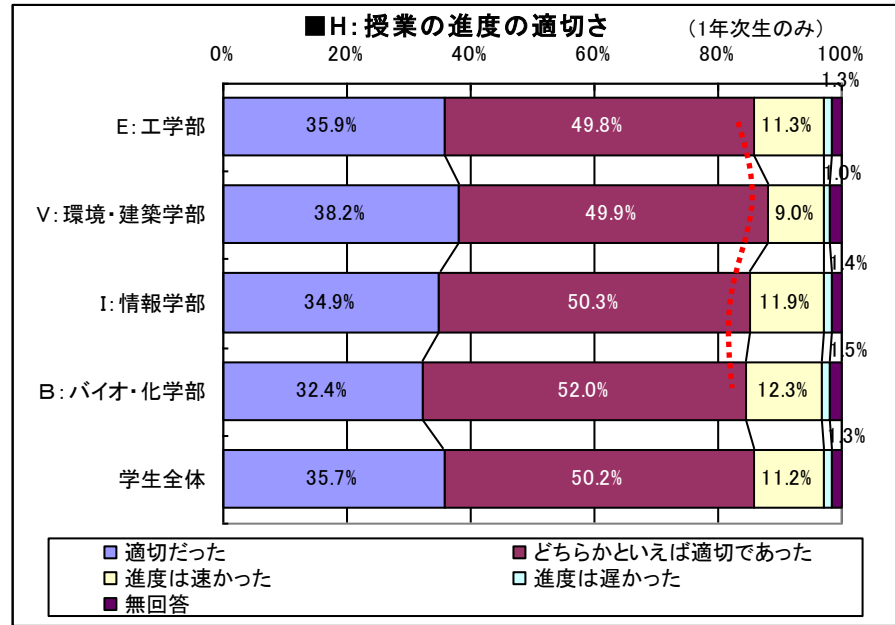
- 学部は新学部体制と旧学部体制があるが、まず、「1年次生」の新学部体制で学部毎の授業評価の比較を行った。
- 「A:事前の興味」で「とても興味があった」と「興味があった」の合計で比較したところ、「V:環境・建築学部」の興味が強く、次いで「E:工学部」「I:情報学部」「B:バイオ・化学部」という順であり、「V:環境・建築学部」と「B:バイオ・化学部」の間には8.5ポイントの差があった。
- 「B:事前の内容理解」は[E:工学部]と[V:環境・建築学部]で肯定的な意見が多く、両者の間には差が見られなかった。次いで、「I:情報学部」「B:バイオ・化学部」の順となっていた。
- 「C:自分の熱意と努力」も「V:環境・建築学部」がやや高いものの「E:工学部」とほとんど変わらず、この2学部が熱意を持って努力していることが分かった。そして、「I:情報学部」が続いており、残念ながら「B:バイオ・化学部」が最も低い結果となっていた。



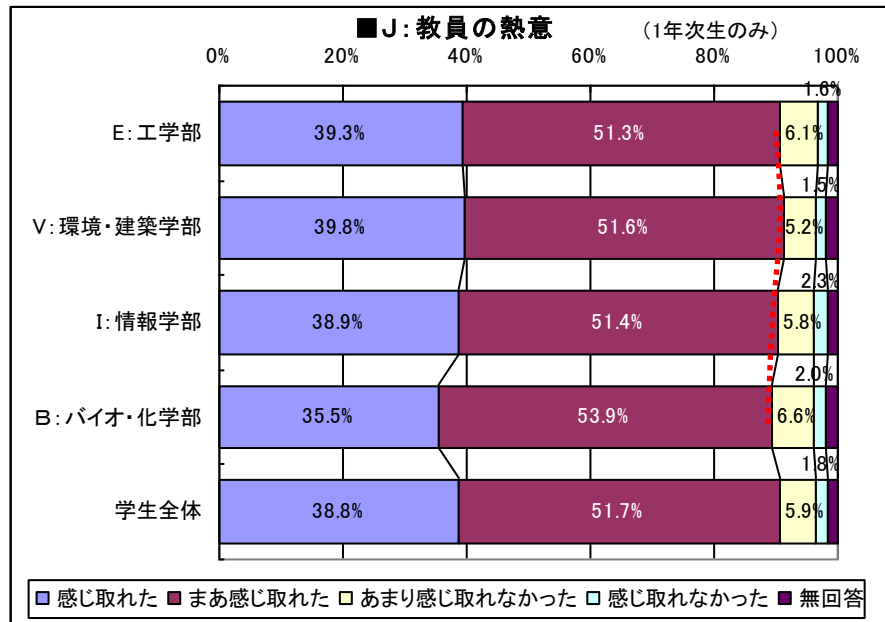
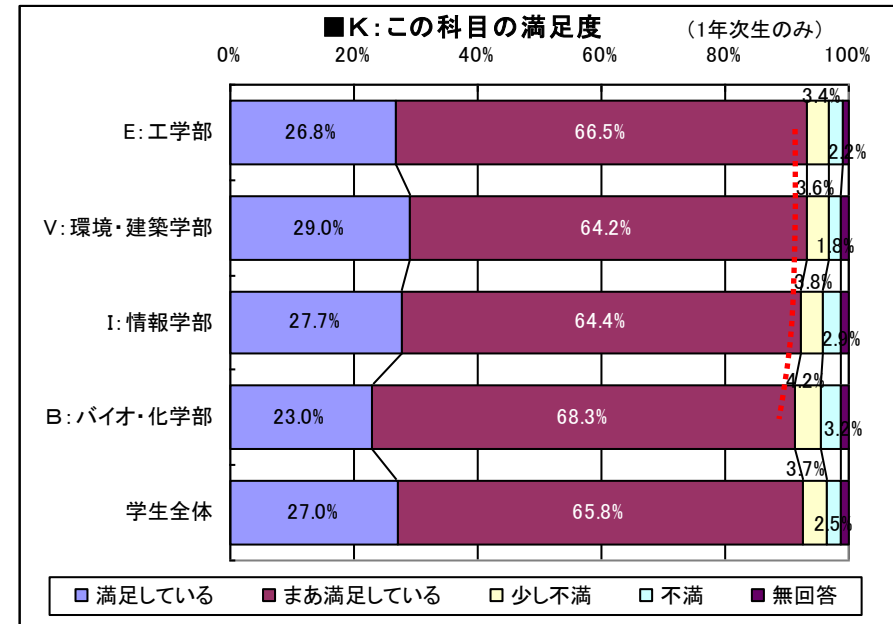
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「2時間以上」「1~2時間」を合わせたもので比較すると、差は少ないものの「V:環境・建築学部」が最も多く、「E:工学部」「I:情報学部」が同程度であり、「B:バイオ・化学部」は低めであった。そして、「学習は特にしなかった」を見ると「B:バイオ・化学部」が最も多く、学習時間を確保していないようであった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見の割合で見ると、「V:環境・建築学部」が最も多く、「E:工学部」「I:情報学部」と続いており、「B:バイオ・化学部」の低さが目立っていた。ただし、「B:バイオ・化学部」では「教科書・指導書はなかった」という意見も多く、他の学部と環境が異なっていることも考えられる。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も他の項目と同様に「V:環境・建築学部」で役立ったという意見が最も多く、次いで、「E:工学部」「I:情報学部」「B:バイオ・化学部」という順になっていた。



- 「G:学習支援計画書との一致」は、「沿っていた」では学部による差がほとんどない。「ほとんど沿っていた」を合わせた割合で見ても差はほとんどなく、わずかに「I:情報学部」が低かったが、どの学部でもしっかりと学習支援計画書に沿って授業が進められていることが分かった。
- 「H:授業の進捗の適切さ」も学部による差が少なかったが、「適切だった」「どちらかといえば適切だった」を合わせた割合で見ると、「V:環境・建築学部」がやや多かった。そして、「進捗は速かった」で比べると「B:バイオ・化学部」がやや多く、「V:環境・建築学部」でやや少ないという状況であった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」に関しては、まず、「相談しなかった」の割合を比較すると「B:バイオ・化学部」が最も多く、「V:環境・建築学部」が最も少なかった。「相談しなかった」の割合が異なるため評価の比較は難しいが、「B:バイオ・化学部」の評価が低く、「I:情報学部」もやや低い。他の2学部の評価はほとんど変わらなかった。



- 「J:教員の熱意」は「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」の合計で見るとあまり大きな差は見られなかったが、「感じ取れた」だけで比較すると、「V:環境・建築学部」「E:工学部」が高く、「I:情報学部」が続き、「B:バイオ・化学部」が最も低かった。学部によってわずかに差があるものの、どの学部も9割程度が教員の熱意を感じているようであった。
- 「K:この科目の満足度」は、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた割合で見ると大きな差はないが「B:バイオ・化学部」がやや少なかった。「満足している」だけを見ると学部による差が大きく、「V:環境・建築学部」の満足度が最も高いことが分かった。次いで、「I:情報学部」「E:工学部」と続いており、「B:バイオ・化学部」の満足度の低さが目立っていた。

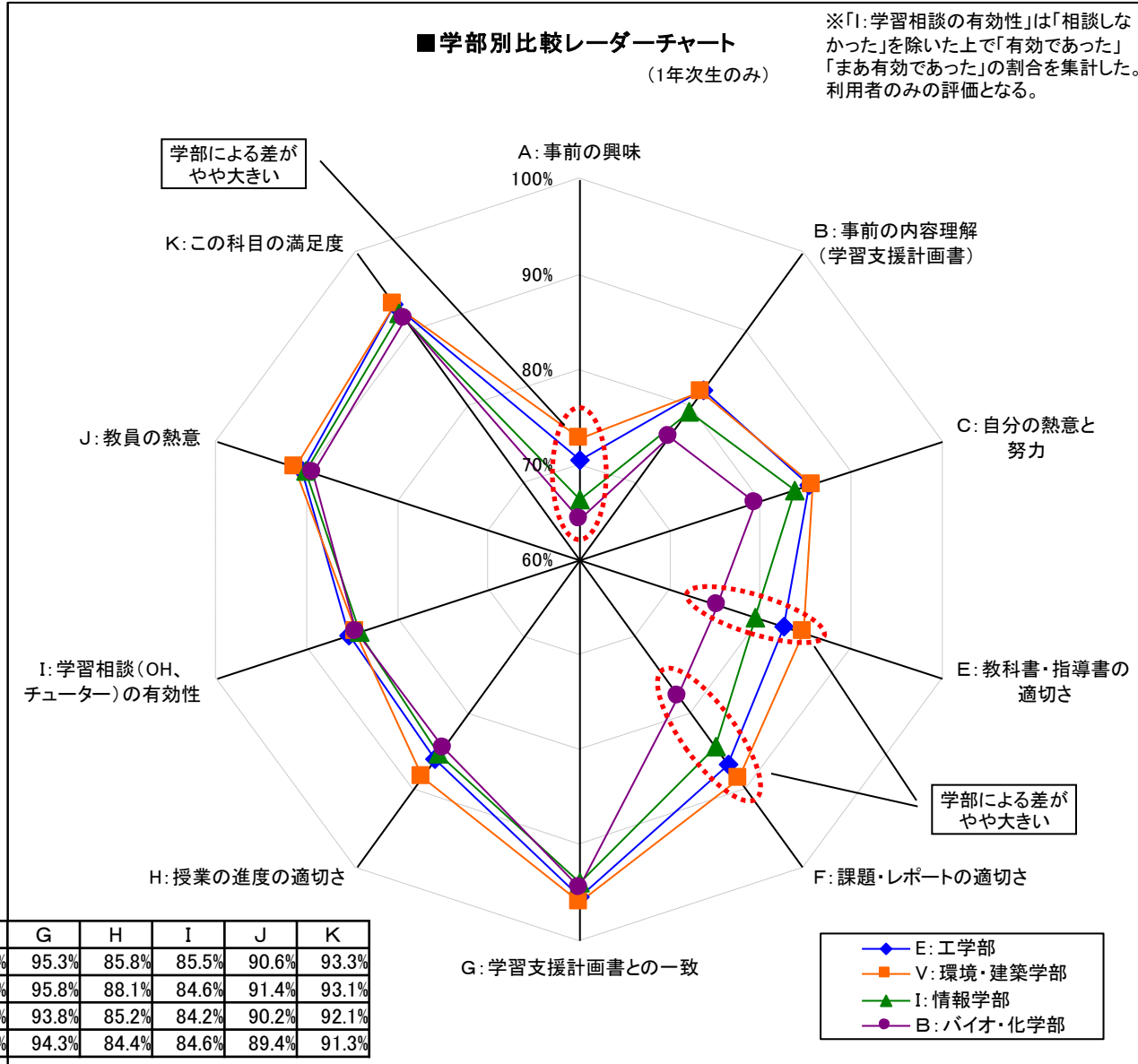


- 新学部体制の学部別に肯定的な意見の割合を比較したところ、右のレーダーチャートのようになった。
- 全体で見るとここまで見てきているようにほとんどの項目で「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が最も多く、「B:バイオ・化学部」で最も低いことが確認できる。
- 項目別に見ると「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」は学部による差が大きかった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」に関する学部の差は、学部による方針の違いなどが考えられるが、「A:事前の興味」で学部による差があるのは不思議であり、「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」など同様の傾向があることから、学部による熱意の差が現れているのではないと思われる。
- 最終的な評価である「K:この科目の満足度」は学部による差が少なかった。また、「J:教員の熱意」にも差が見られなかった。

■学部別比較レーダーチャート

(1年次生のみ)

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



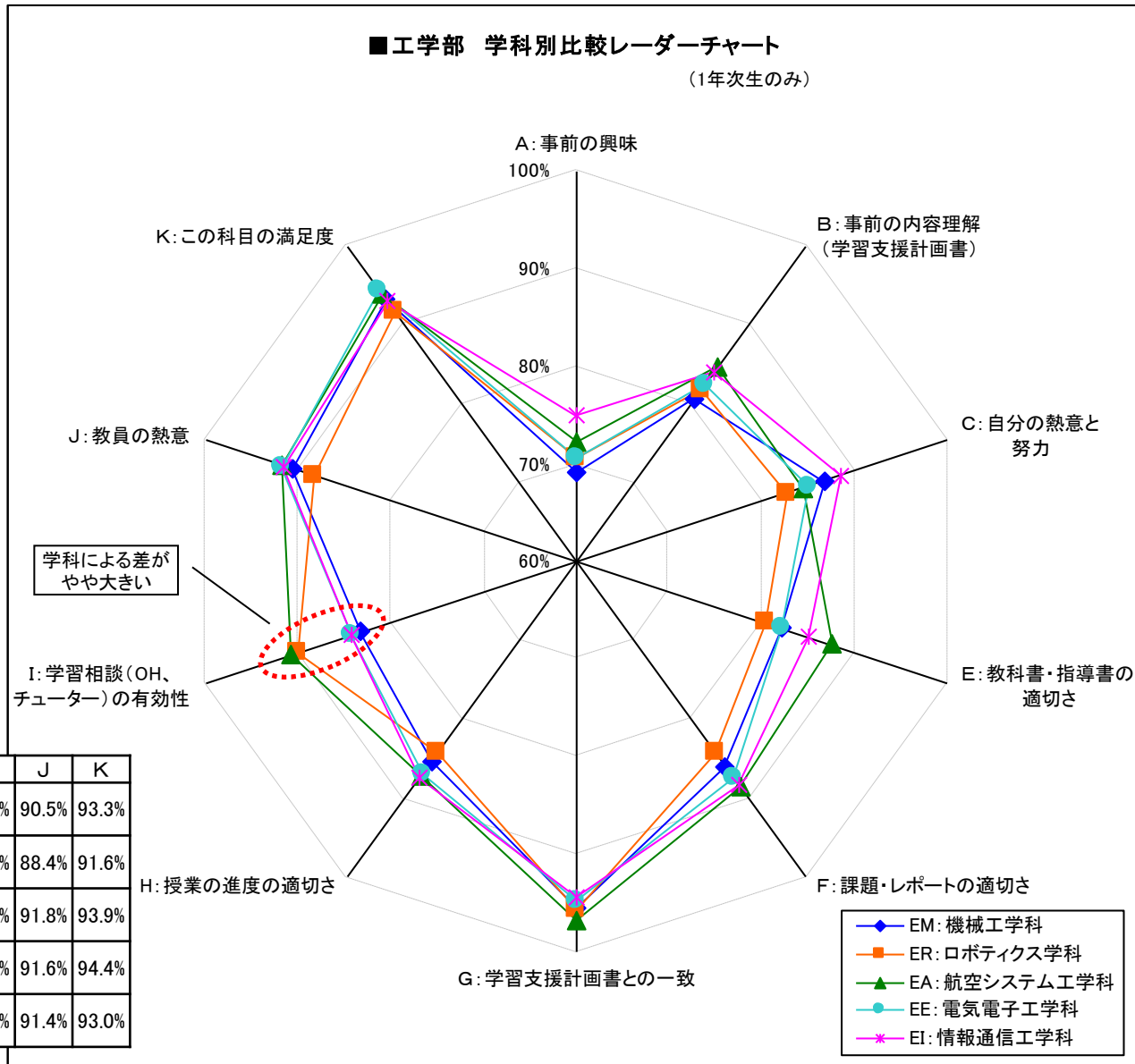
■学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E:工学部	70.6%	82.0%	85.4%	82.6%	86.4%	95.3%	85.8%	85.5%	90.6%	93.3%
V:環境・建築学部	72.8%	81.8%	85.7%	84.6%	88.4%	95.8%	88.1%	84.6%	91.4%	93.1%
I:情報学部	66.5%	79.3%	83.7%	79.4%	84.2%	93.8%	85.2%	84.2%	90.2%	92.1%
B:バイオ・化学部	64.3%	75.9%	79.4%	75.1%	77.6%	94.3%	84.4%	84.6%	89.4%	91.3%

- ◆ E:工学部
- V:環境・建築学部
- ▲ I:情報学部
- B:バイオ・化学部

- 学科別に比較を行うには学科の数が多いため、全体の比較を行わず学部毎に分けて学科の比較を行った。
- 工学部の5学科の差を見ると、全体的に差はそれほど大きくなく、特定の学科が全体的に高いといった特徴も見られなかった。
- 全体的に差は小さいものの「EA:航空システム工学科」がやや高めであり、「ER:ロボティクス学科」が低めであった。
- 項目別に見て学科による差が比較的大きかったのは「I:学習相談の有効性」であり、「EA:航空システム工学科」「ER:ロボティクス学科」が高く、この2学科ではOH(オフィスアワー)やチューターが有効に活用されている様子がうかがえる。
- 学科による差が少なかったのは「G:学習支援計画書との一致」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」の3項目であり、満足度としては学科による差はあまりないと言える。

■工学部 学科別比較レーダーチャート
(1年次生のみ)



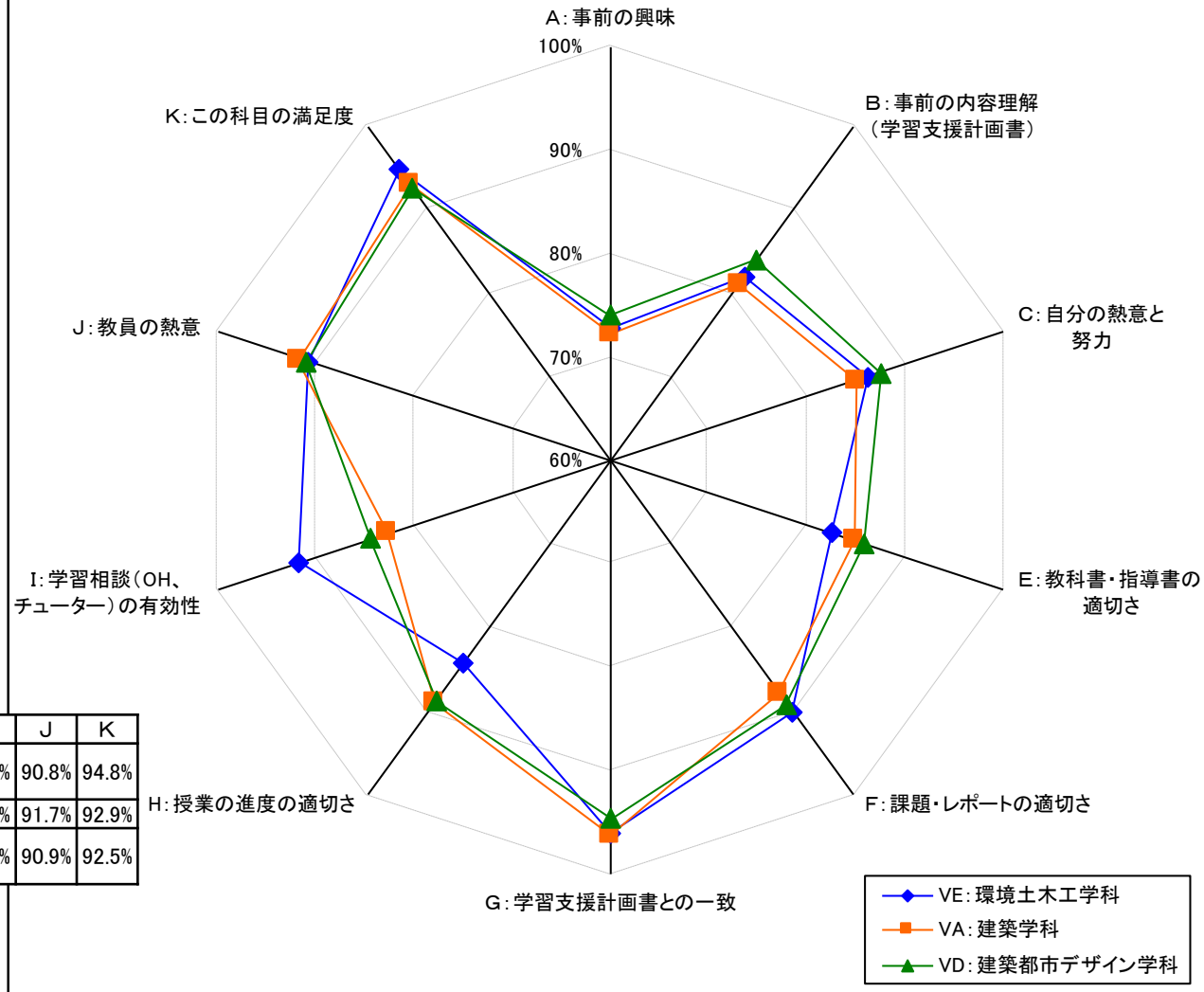
■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	69.1%	80.5%	86.6%	82.2%	85.9%	95.4%	85.1%	83.1%	90.5%	93.3%
ER: ロボティクス学科	70.6%	81.8%	82.7%	80.3%	84.1%	95.5%	84.0%	89.9%	88.4%	91.6%
EA: 航空システム工学科	72.3%	84.7%	84.4%	87.4%	88.5%	96.7%	87.1%	90.7%	91.8%	93.9%
EE: 電気電子工学科	70.6%	82.4%	85.1%	82.1%	87.3%	94.8%	86.9%	84.2%	91.6%	94.4%
EI: 情報通信工学科	75.0%	83.9%	88.4%	85.0%	88.3%	94.4%	87.2%	84.2%	91.4%	93.0%

- 環境・建築学部は学部別の比較では全体的に肯定的な意見が多く、良い状態にあるようであったが、その中の学科別に比較したところ、それほど大きな差は見られず、いずれの学科も肯定的な意見が多かった。
- 全体で見て特定の学科が高い、低いと言った特徴は見られなかったが、「VE:環境土木工学科」には少し特徴があり、「I:学習相談の有効性」が高く、「H:授業の進度の適切さ」が低かった。そして、差はわずかではあるが「K:この科目の満足度」も最も高かった。
- 「VA:建築学科」と「VD:建築都市デザイン学科」の評価はほとんど同じ傾向であり、授業の内容や方針が似通っているのではないかとと思われる。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

(1年次生のみ)



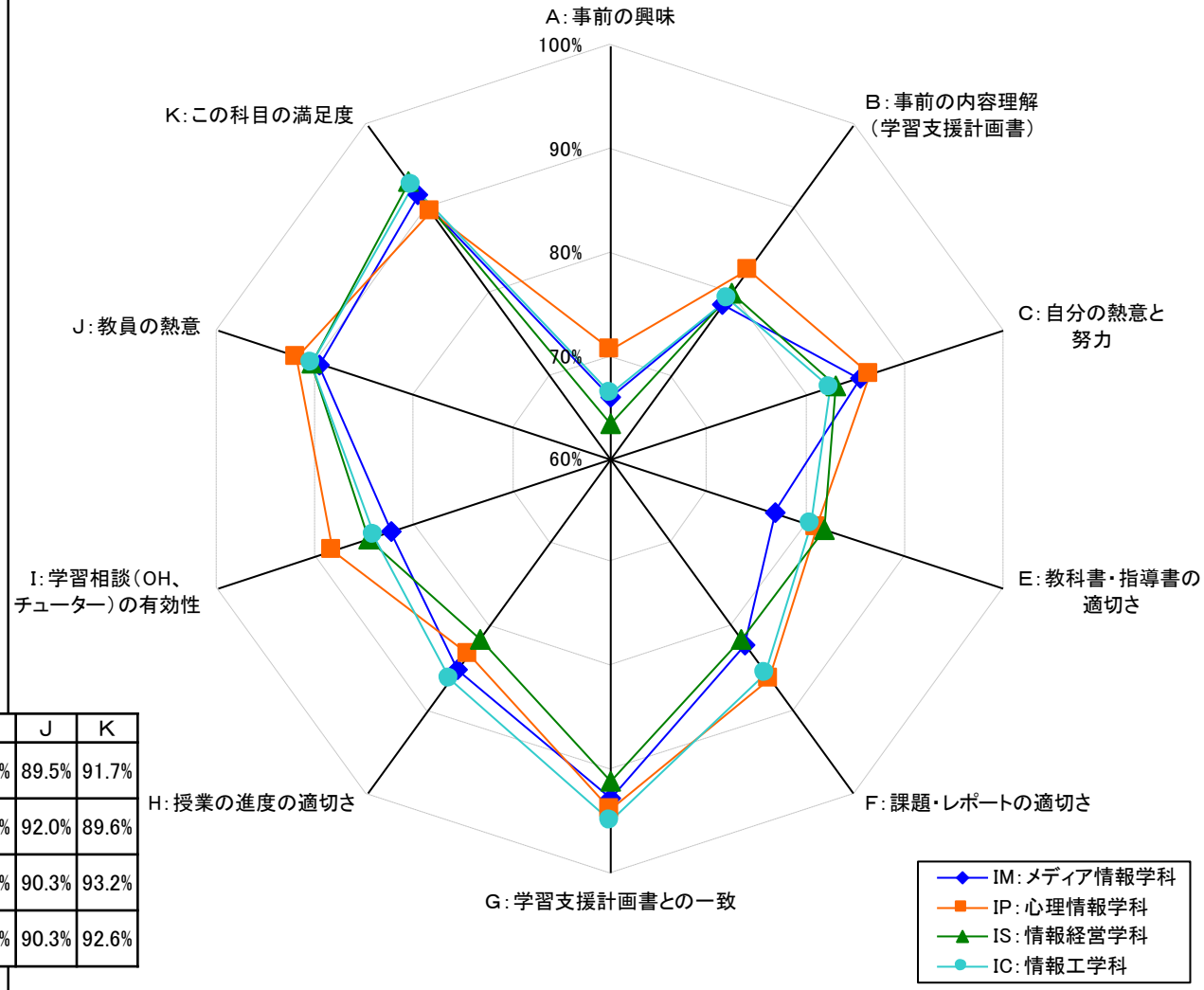
■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VE: 環境土木工学科	72.7%	82.0%	86.2%	82.5%	89.9%	96.0%	84.2%	91.7%	90.8%	94.8%
VA: 建築学科	72.3%	81.1%	85.0%	84.8%	87.8%	96.2%	88.9%	82.7%	91.7%	92.9%
VD: 建築都市デザイン学科	74.1%	83.9%	87.4%	85.8%	89.1%	94.4%	88.7%	84.5%	90.9%	92.5%

- 情報学部は4学科の比較であるが、差は少ないものの全体的に「IP:心理情報学科」と「IC:情報工学科」がやや高めであり、「IM:メディア情報学科」「IS:情報経営学科」が低めという傾向が見られた。ただし、差は少ないものの「IS:情報経営学科」は「K:この科目の満足度」は最も高かった。
- 学科別には「IP:心理情報学科」は[A:事前の興味]「B:事前の内容理解」[I:学習相談の有効性]がやや高めであり、積極的なようであるが、「K:この科目の満足度」は低めという特徴が見られた。

■情報学部 学科別比較レーダーチャート

(1年次生のみ)



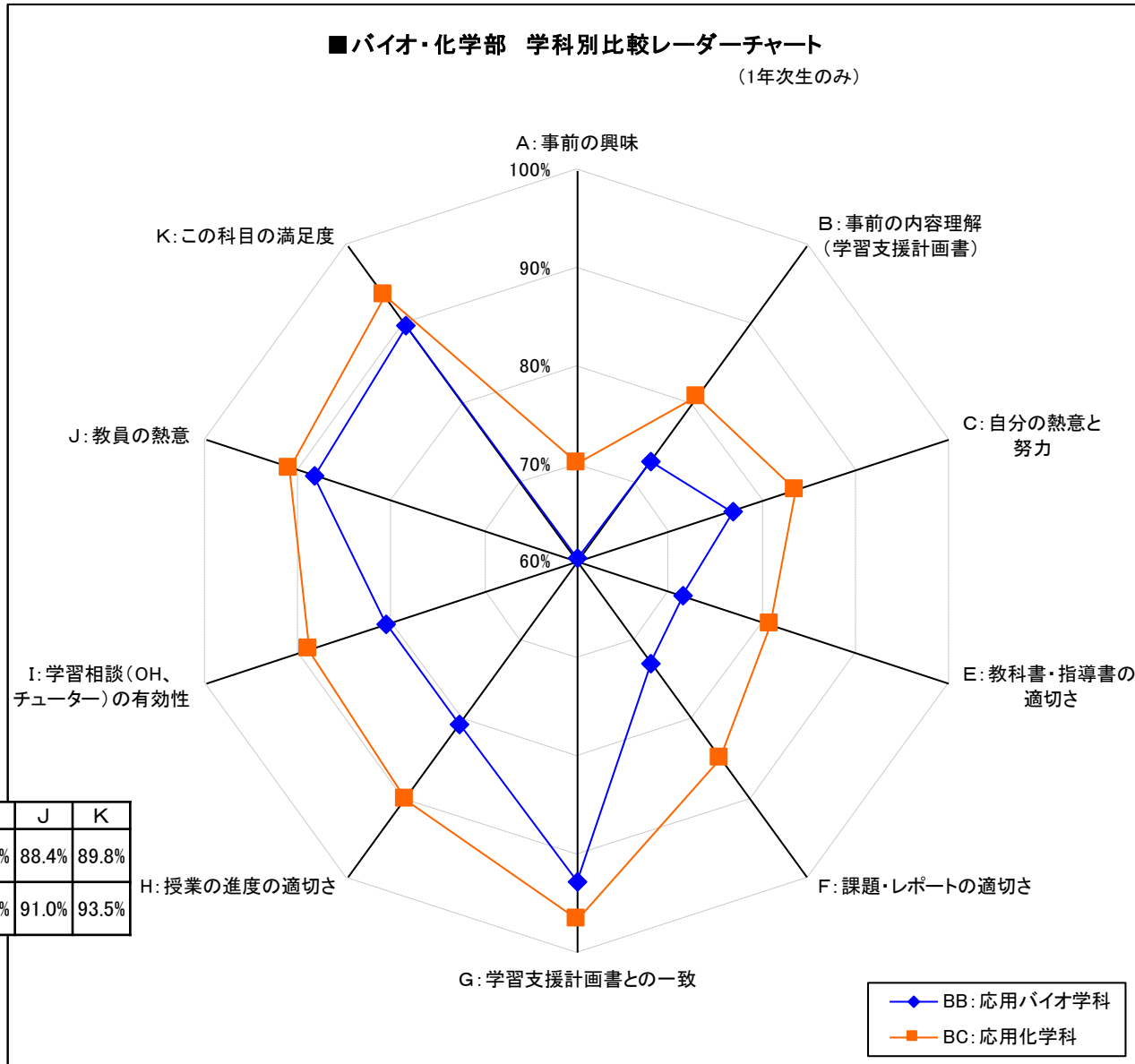
■情報学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
IM: メディア情報学科	66.1%	78.4%	85.4%	76.6%	82.0%	92.8%	85.0%	82.4%	89.5%	91.7%
IP: 心理情報学科	70.6%	82.6%	86.3%	81.1%	86.2%	93.7%	83.2%	88.2%	92.0%	89.6%
IS: 情報経営学科	63.4%	79.9%	82.9%	81.7%	81.4%	91.0%	81.5%	84.6%	90.3%	93.2%
IC: 情報工学科	66.4%	79.1%	82.3%	80.2%	85.6%	94.9%	86.4%	83.9%	90.3%	92.6%

- バイオ・化学部は2学科の比較であるが、その差は非常に大きかった。
- 全ての項目で「BC:応用化学科」が高く、「BB:応用バイオ学科」が低かった。
- 「BB:応用バイオ学科」は前項までの他学科と比べても全体的に非常に低く、特に「A:事前の興味」では肯定的な意見が60.5%と非常に低く、事前の興味を持っていない様子が見えられた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」「H:授業の進度の適切さ」「I:学習相談の有効性」の4項目の差も大きかった。
- 最終的な評価である「K:この科目の満足度」の差はそれほど大きくないものの、この項目も「BB:応用バイオ学科」の方が低かった。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート

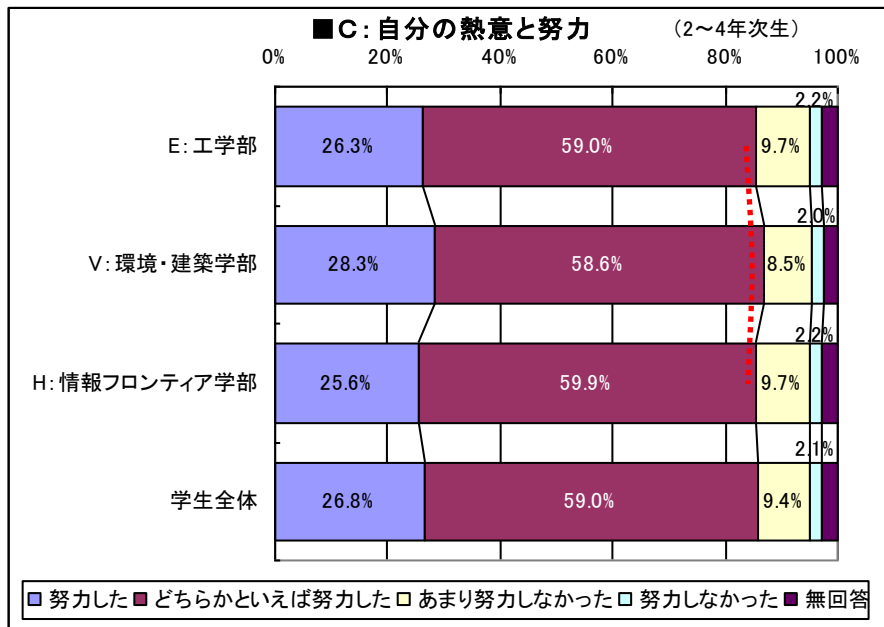
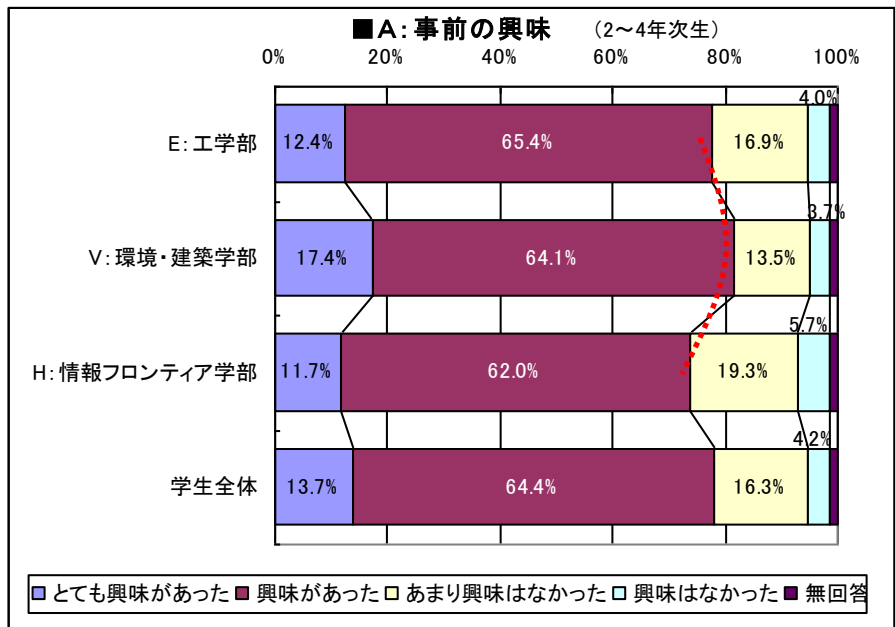
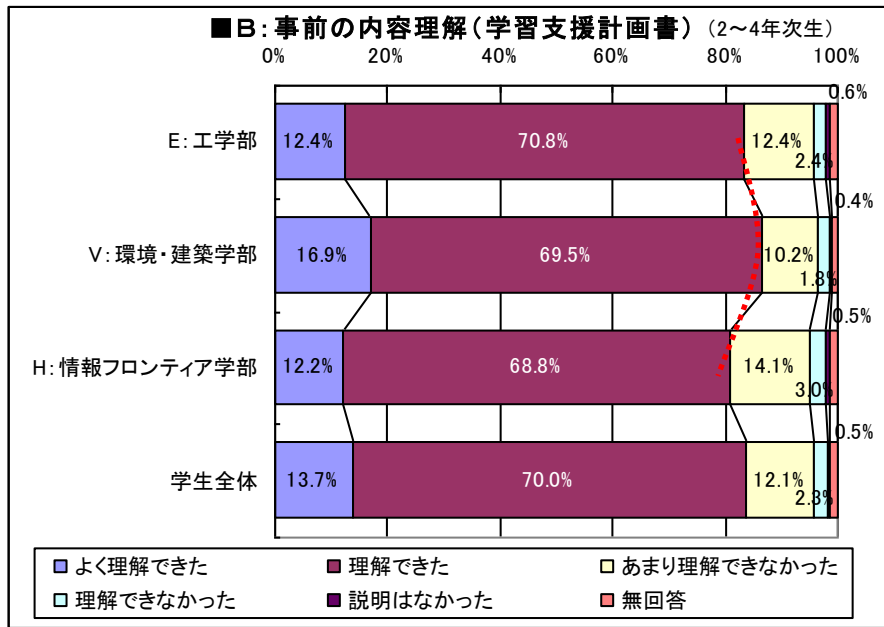
(1年生のみ)



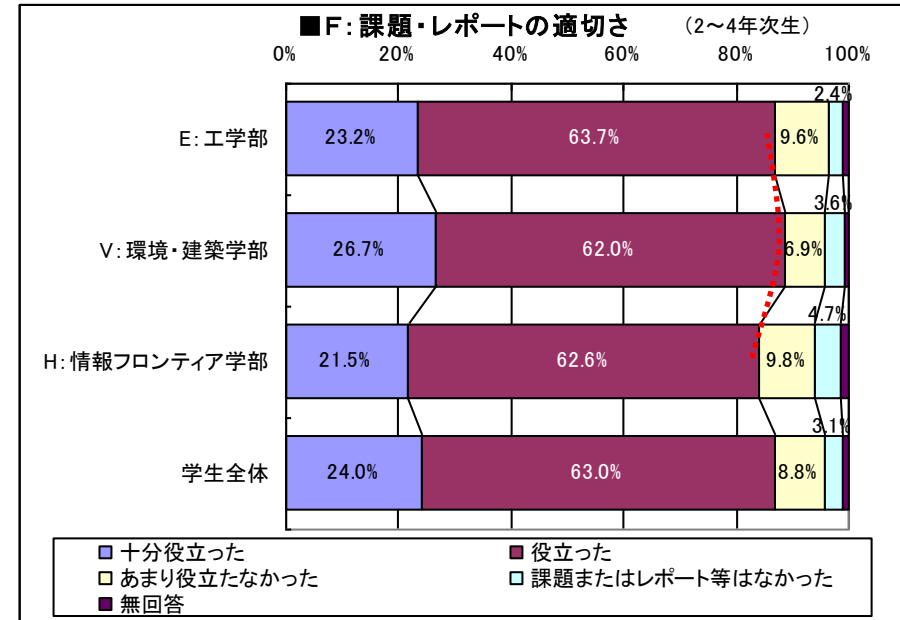
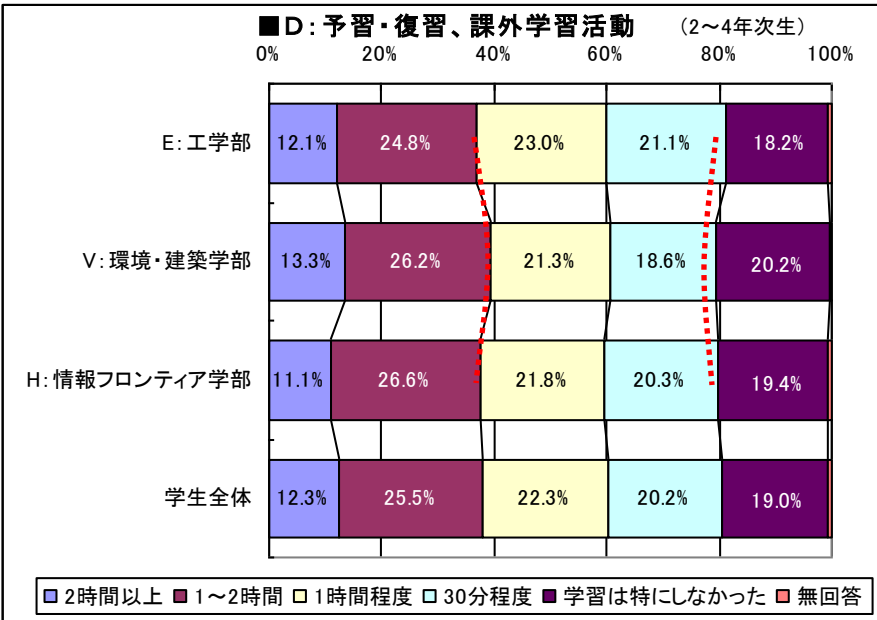
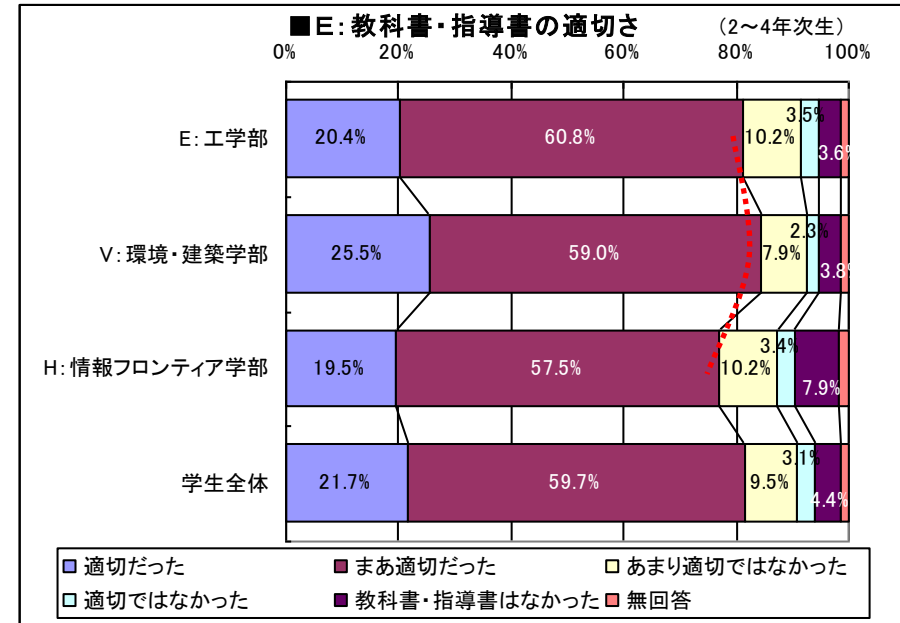
■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BB: 応用バイオ学科	60.5%	72.6%	76.8%	71.3%	72.7%	92.7%	80.6%	80.5%	88.4%	89.8%
BC: 応用化学科	70.1%	80.8%	83.3%	80.8%	84.8%	96.5%	89.9%	88.9%	91.0%	93.5%

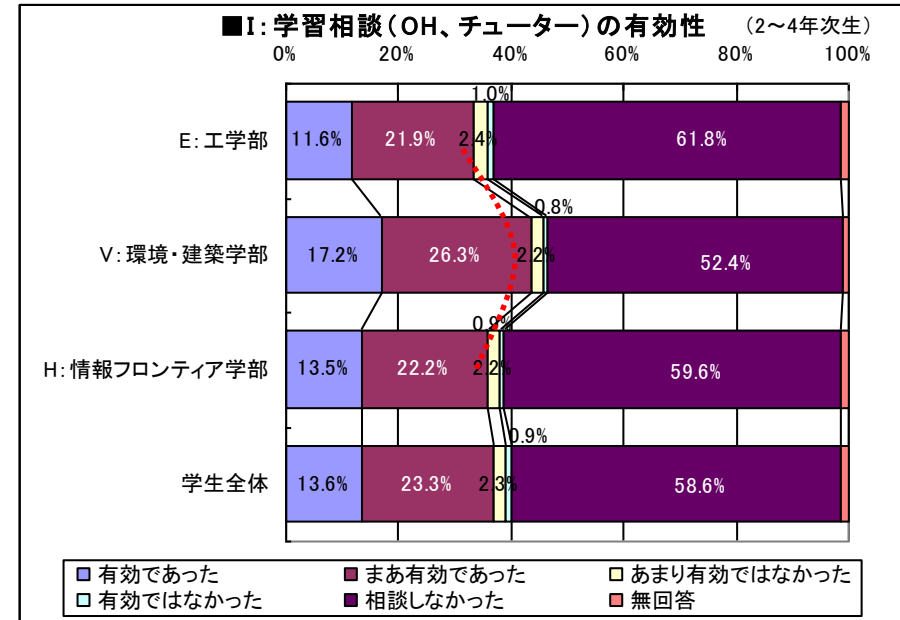
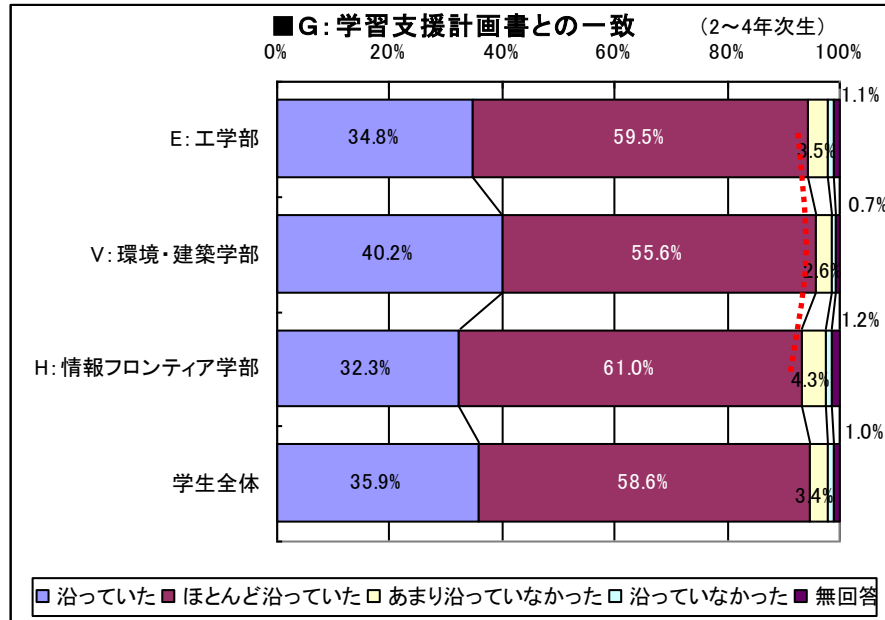
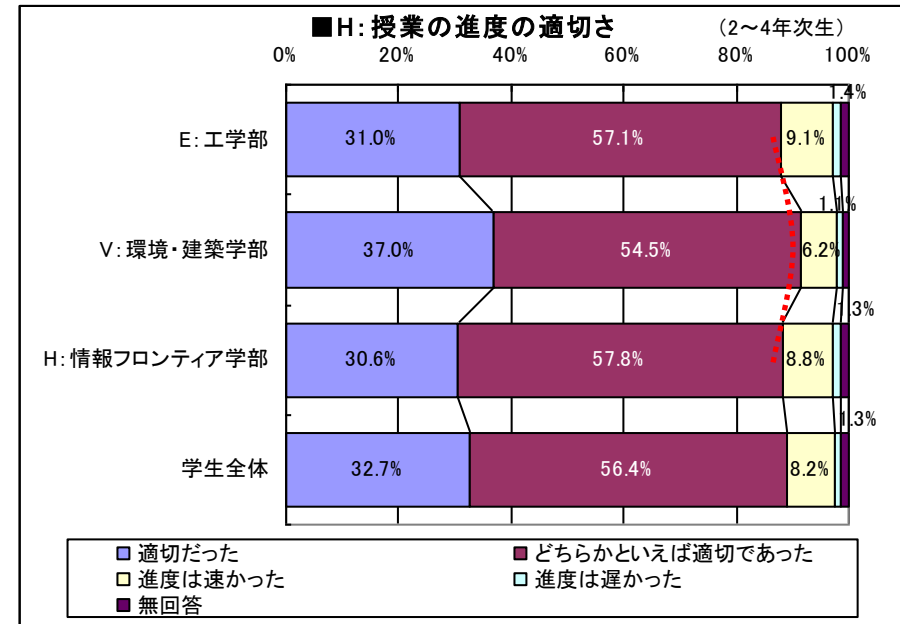
- 2年次生から4年次生は3つの旧学部体制で集計を行った。
- 「A:事前の興味」を「とても興味があった」と「興味があった」の合計で比較したところ、「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が最も多く、わずかではあるが「E:工学部」が「H:情報フロンティア学部」を上回っていた。
- 「B:事前の内容理解」も「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、事前の理解が進んでいるようであった。そして、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」と続いていた。
- 「C:自分の熱意と努力」は学部による差が非常に小さかったが、わずかに「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、熱意を持って努力しているようであり、「E:工学部」と「H:情報フロンティア学部」の間にはほとんど差が見られなかった。



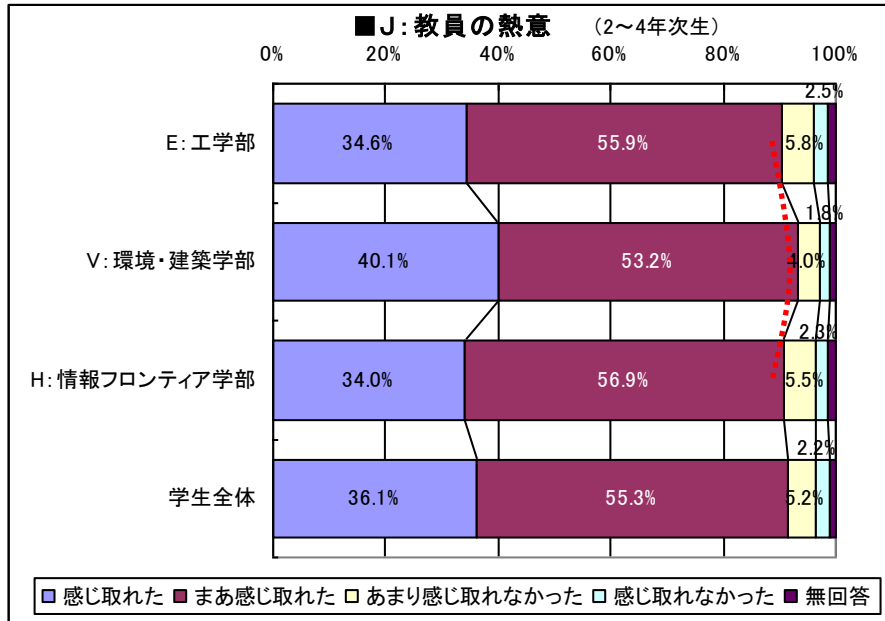
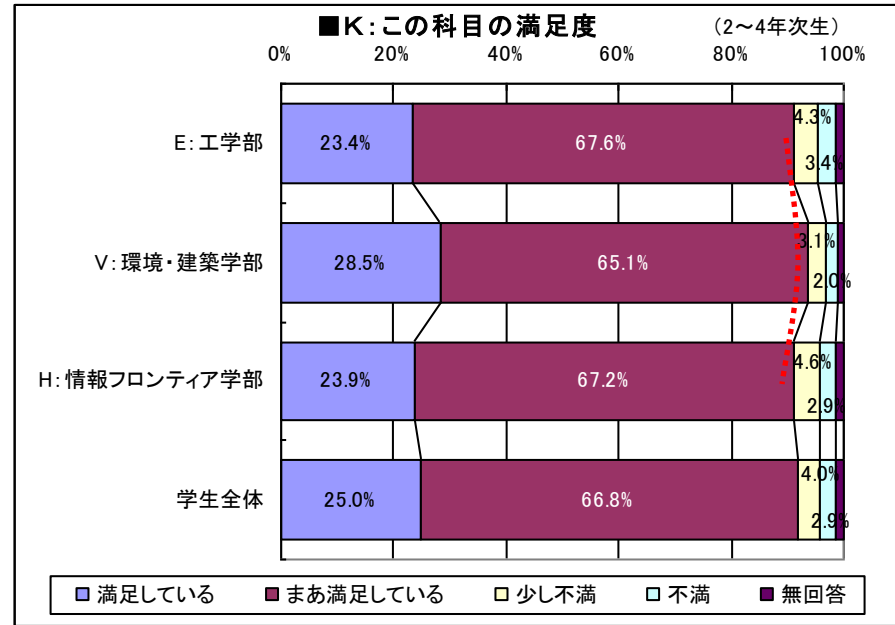
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「2時間以上」「1～2時間」までを合わせたものと比べると、差は大きくないが「V:環境・建築学部」が最も多く、「H:情報フロンティア学部」と「E:工学部」はほぼ同じであった。そして、「学習は特にしなかった」を見ると「V:環境・建築学部」がわずかに多く、この学科は予習・復習をしっかりとっている層とそうでない層の両者ともに多いことが分かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、内容が充実しているものと思われる。そして、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」と続いているが、「H:情報フロンティア学部」の評価の低さは目立っており、課題がありそうであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も「V:環境・建築学部」の評価が高く、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」と続いていた。ここでも「H:情報フロンティア学部」の低さが目立っており、教材や指導書、課題、レポートといった授業をサポートするツール類全般に課題があるのではないかとと思われる。



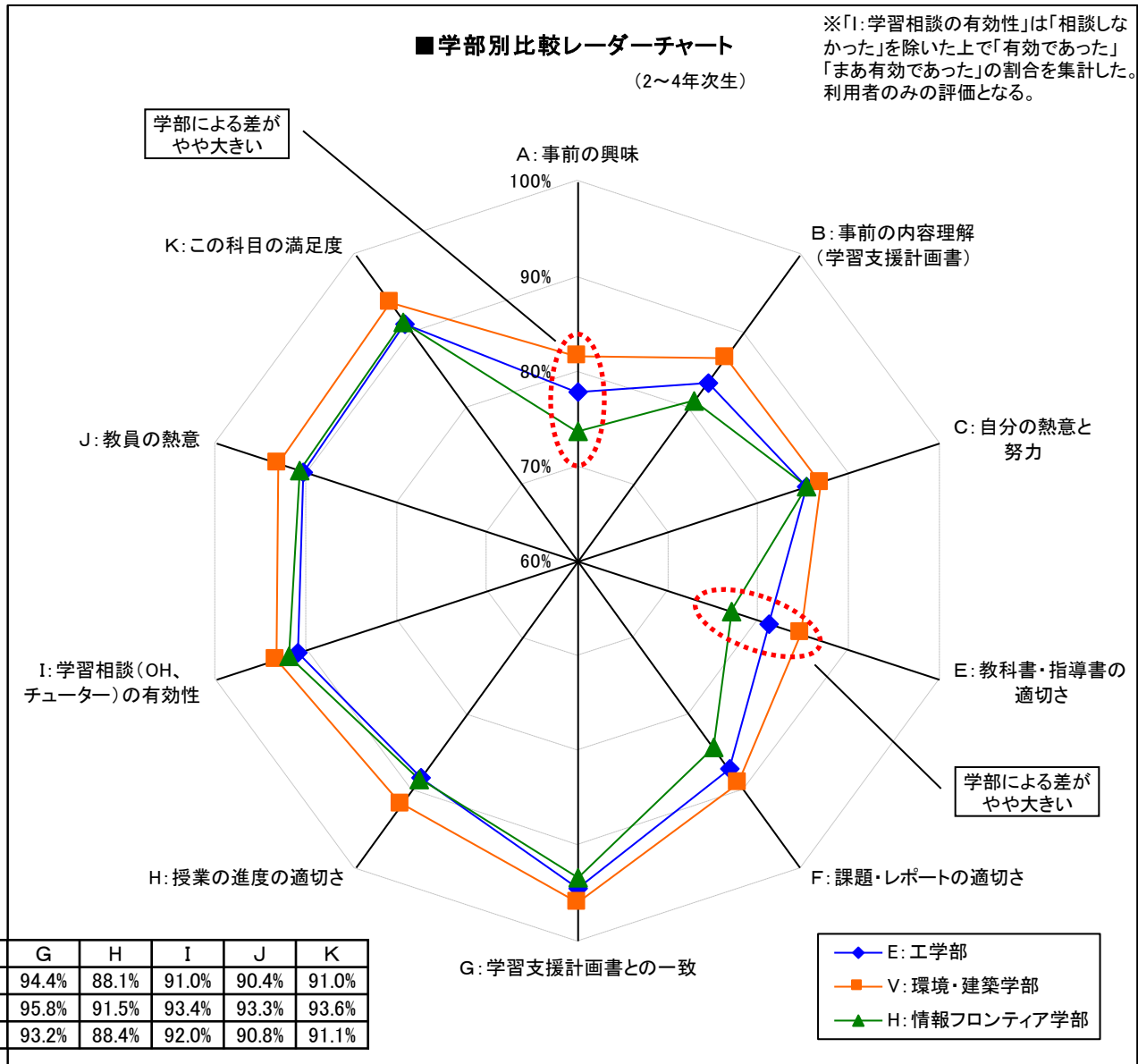
- 「G:学習支援計画書との一致」は「沿っていた」と「ほとんど沿っていた」を合わせたものと比べると学部による差がほとんどないが、「沿っていた」だけを見ると「V:環境・建築学部」の評価が高く、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」と続いており、学部間の差がはっきりと現れていた。
- 「H:授業の進捗の適切さ」は「V:環境・建築学部」の評価が高く、「E:工学部」と「H:情報フロンティア学部」はほぼ同様な傾向であった。そして、「進捗は速かった」を見ると「E:工学部」がやや多く、授業の進捗が速いと感じている学生が多いと言える。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」を見ると学部による差が大きい。「V:環境・建築学部」は52.4%で、最も多い「E:工学部」の61.8%と比べると9.4ポイントの差があった。内容の評価は比較が難しいが、「V:環境・建築学部」の評価が最も高く、この学部では「学習相談」がしっかり活用されている様子が見えられた。



- 「J:教員の熱意」を「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」の合計を見ると、どの学部ともに高く、差は少なかったが、「感じ取れた」だけを見ると「V:環境・建築学部」が高く、「E:工学部」と「H:情報フロンティア学部」にはほとんど差が見られなかった。
- 「K:この科目の満足度」も「満足している」と「まあ満足している」を合わせると学部の差は小さく、どの学部も高い満足度を示していた。ただし、「満足している」だけで比べると「V:環境・建築学部」の満足度が高く、「E:工学部」と「H:情報フロンティア学部」の間に差は見られなかった。

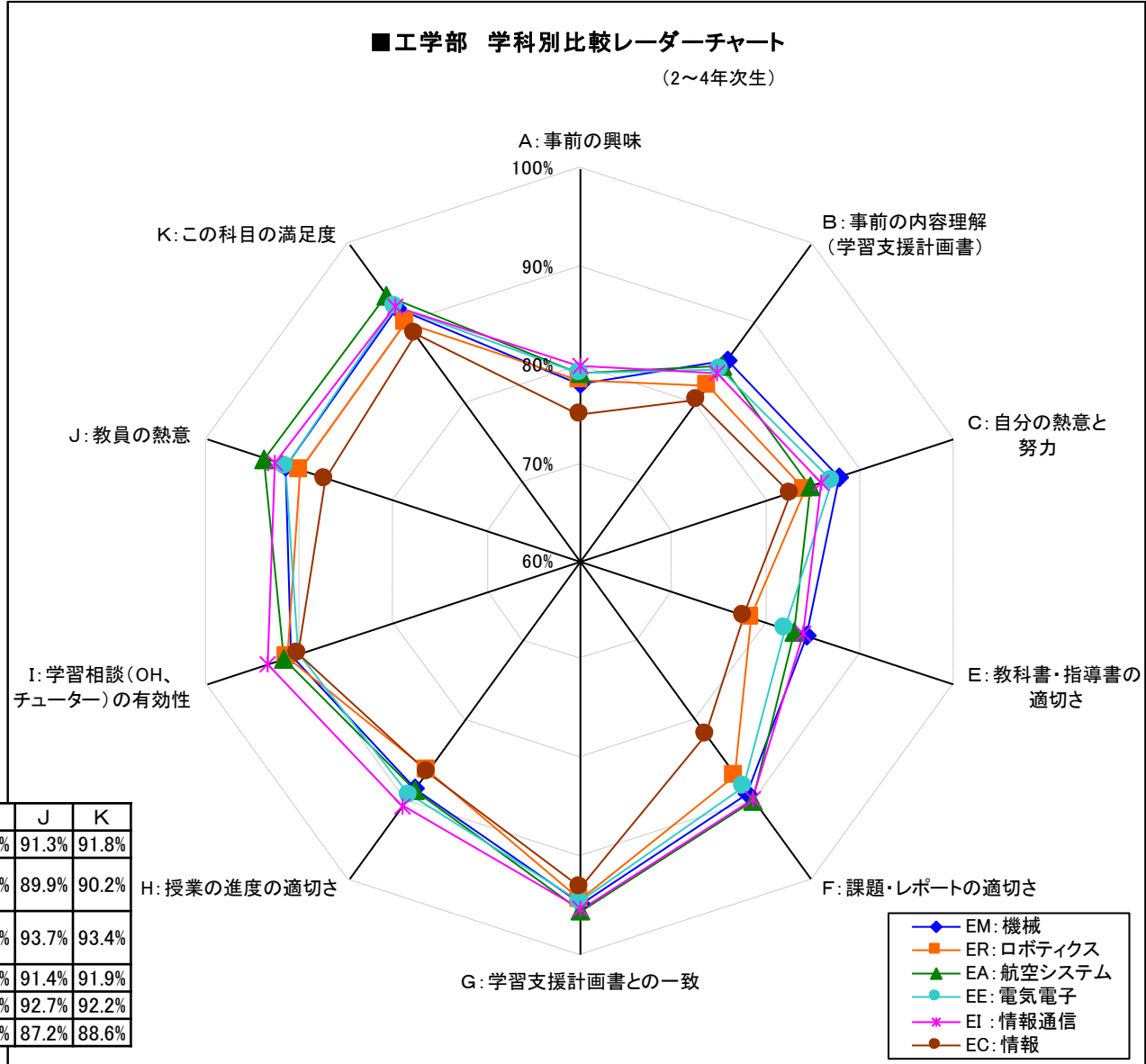


- 旧学部構成の3学部の比較をレーダーチャートで見ると右記のようになる。
- ここまでの個別の集計で見たように、全ての項目で「V:環境・建築学部」が肯定的な意見が最も多く、最も良い状態にあると言える。
- 「E:工学部」と「H:情報フロンティア学部」では、差が小さい項目もあるが全体的に「H:情報フロンティア学部」が低い項目が目についた。
- 学部によって差が大きかったのは「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」であり、いずれも「H:情報フロンティア学部」の評価の低さが目立っていた。



<4-6>旧学科での肯定的な意見の比較

- 旧学部は3つの学部に分け、その中の学科毎に比較を行った。
- 工学部は6学科の比較となるが、学科間の差はそれほど大きくなかった。
- 全体の傾向を見ると「EA:航空システム」「EI:情報通信」が全体的に高めであり、「EM:機械」は「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」が高く、授業への取り組み姿勢が積極的であった。
- 一方、「EC:情報」「ER:ロボティクス」が全体的に低い傾向が見られた。特に「EC:情報」は「A:事前の興味」「F:課題・レポートの適切さ」「J:教員の熱意」などの低さが目立っていた。



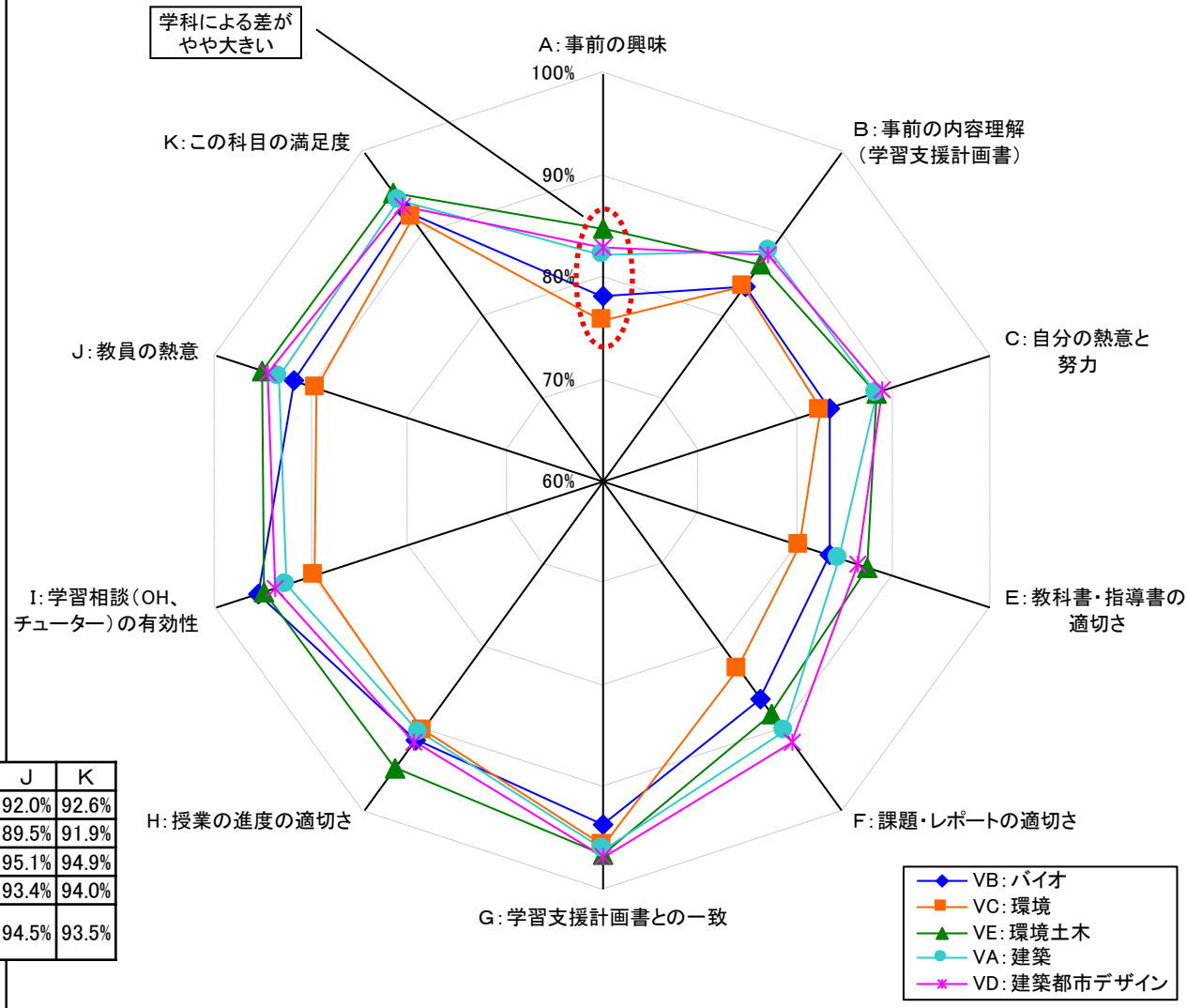
■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械	78.0%	85.4%	87.6%	84.1%	89.1%	94.7%	88.4%	90.9%	91.3%	91.8%
ER: ロボティクス	78.5%	82.1%	84.0%	78.2%	86.9%	94.4%	86.3%	91.2%	89.9%	90.2%
EA: 航空システム	79.2%	84.6%	84.7%	82.9%	89.9%	95.5%	88.7%	91.9%	93.7%	93.4%
EE: 電気電子	79.3%	84.1%	86.9%	81.9%	88.1%	94.6%	89.5%	90.2%	91.4%	91.9%
EI: 情報通信	79.9%	83.8%	85.8%	83.8%	89.7%	95.3%	90.8%	93.4%	92.7%	92.2%
EC: 情報	74.9%	80.2%	82.5%	77.6%	81.8%	93.1%	86.4%	90.1%	87.2%	88.6%

- 「環境・建築学部」は5学科の比較であるが、ここでもそれほど学科間の差は大きくなかった。
- 全体的に高かったのは「VE:環境土木」「VD:建築都市デザイン」「VA:建築」であり、差はそれほど大きくないが「VE:環境土木」は「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」「H:授業の進度の適切さ」が高めであった。
- 一方、全体的に低かったのは「VC:環境」であり、ほとんどの項目で肯定的な意見が最も少なかった。そして、「VB:バイオ」も低めであったが、「H:授業の進度の適切さ」「I:学習相談の有効性」などはやや高めであり、全てが低いわけではなかった。
- 学科による差は[A:事前の興味]でやや大きめであり、「VE:環境土木」「VD:建築都市デザイン」「VA:建築」の興味が強めで「VC:環境」「VB:バイオ」が低めであり、全体傾向と一致していた。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

(2~4年次生)



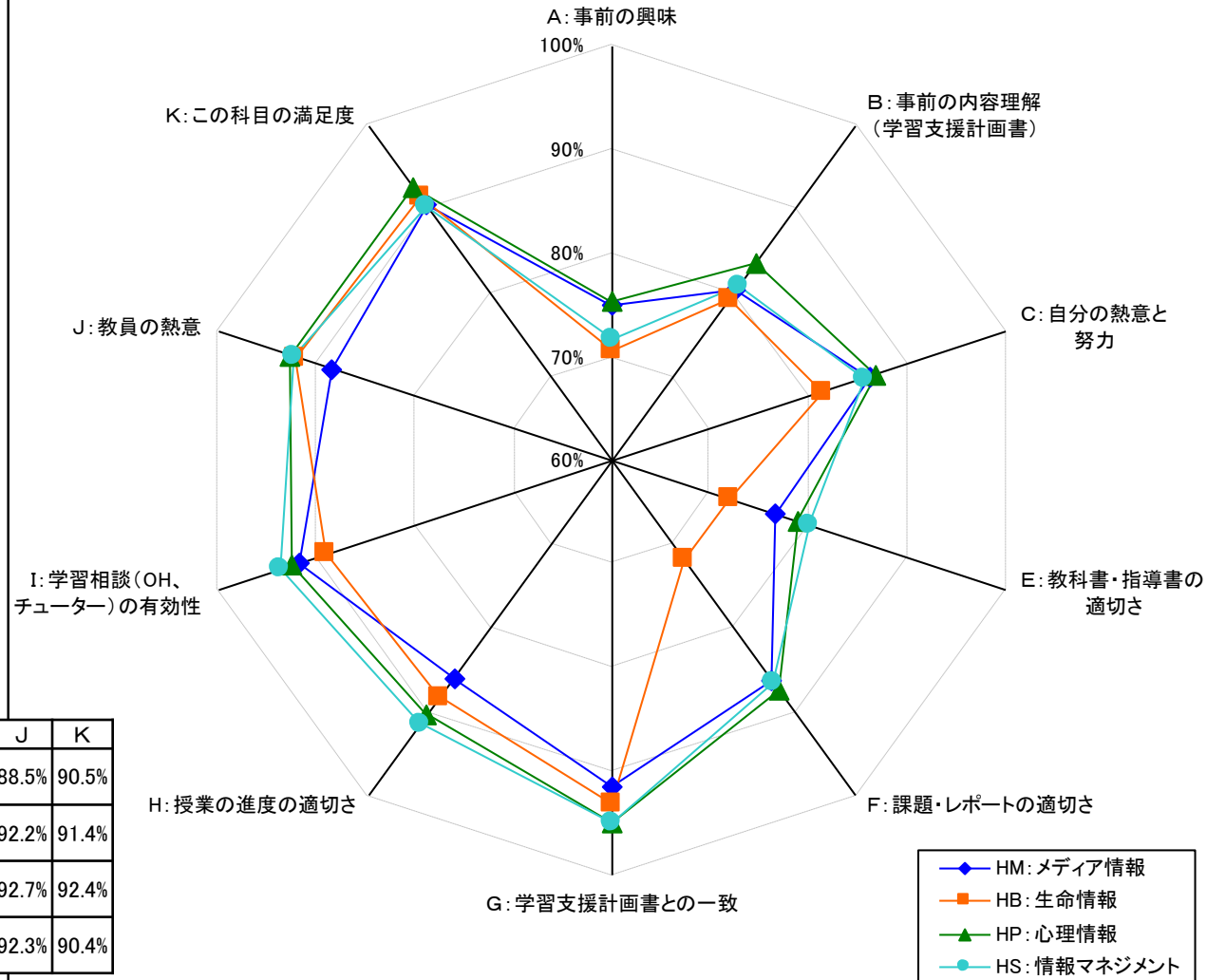
■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VB: バイオ	78.2%	83.7%	83.3%	83.3%	86.2%	93.6%	91.2%	95.4%	92.0%	92.6%
VC: 環境	75.9%	83.6%	82.4%	80.2%	82.5%	95.6%	90.2%	89.7%	89.5%	91.9%
VE: 環境土木	84.7%	86.3%	88.0%	87.1%	88.0%	96.5%	94.7%	94.8%	95.1%	94.9%
VA: 建築	82.1%	87.8%	88.0%	84.2%	90.3%	95.9%	90.5%	92.7%	93.4%	94.0%
VD: 建築都市デザイン	83.0%	87.3%	88.9%	86.2%	91.6%	96.8%	91.5%	93.7%	94.5%	93.5%

- 「情報フロンティア学部」は4つの学科であるが、他の2学部と比べると一部の項目で学科による差が大きかった。
- 全体の傾向で見るといくつかの項目で「HB:生命情報」が非常に低い点が目立っていた。それは「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」であり、「HB:生命情報」では授業で使う教材に課題があるのではないかとと思われる。
- 他の3学科にはそれほど差がなかったが、「HM:メディア情報」は「H:授業の進度の適切さ」「J:教員の熱意」がやや低く、教員の授業の進め方に少し不満を持っているようであった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

(2~4年生)

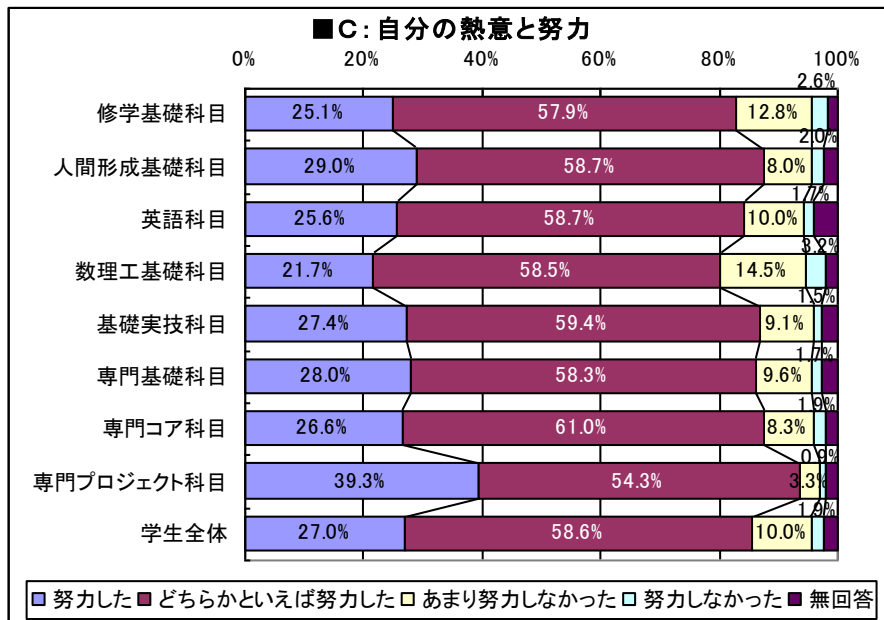
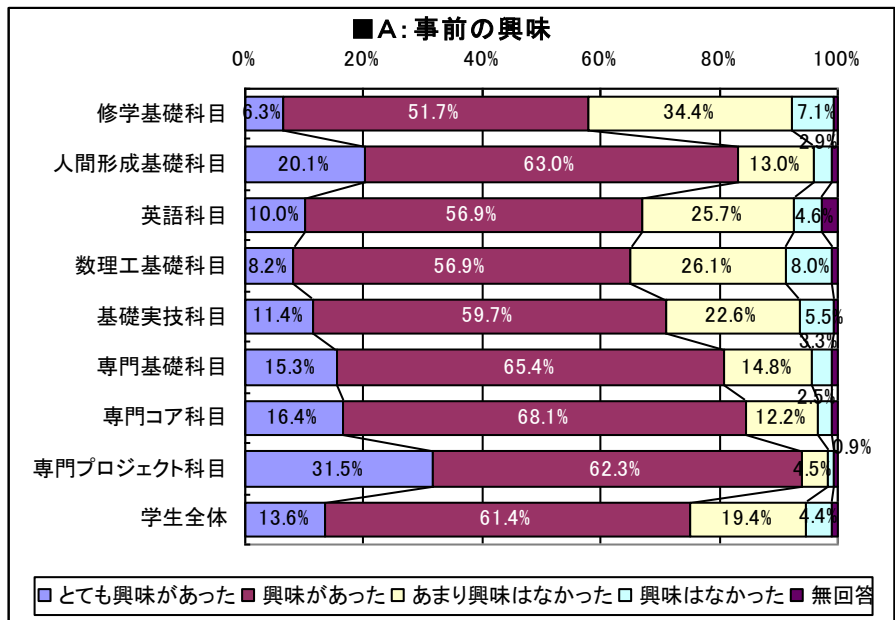
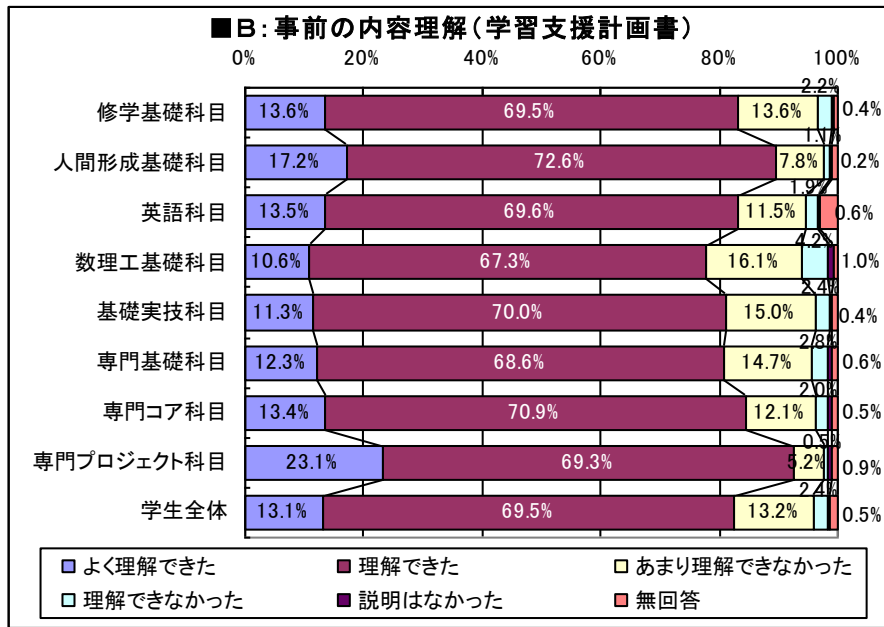


■情報フロンティア学部 学科別比較

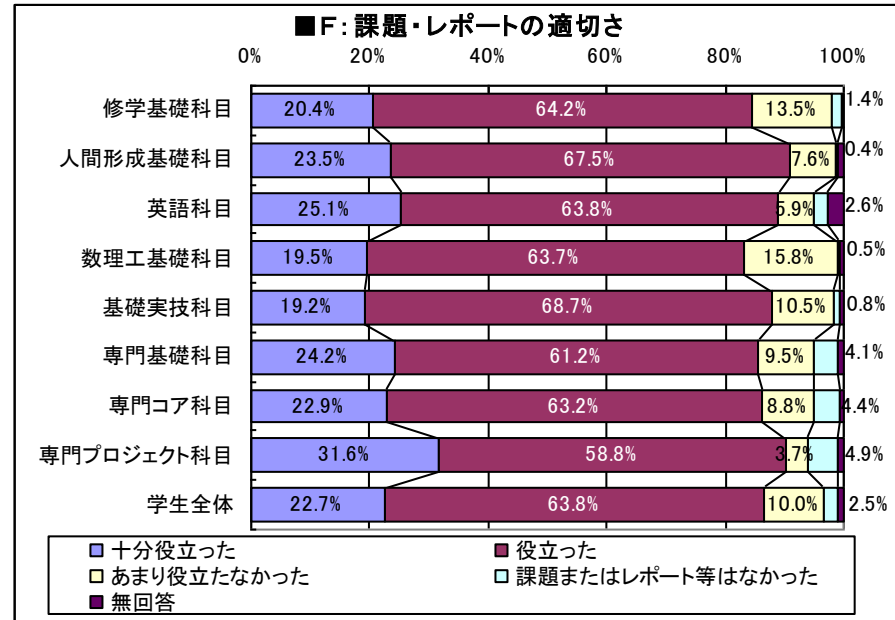
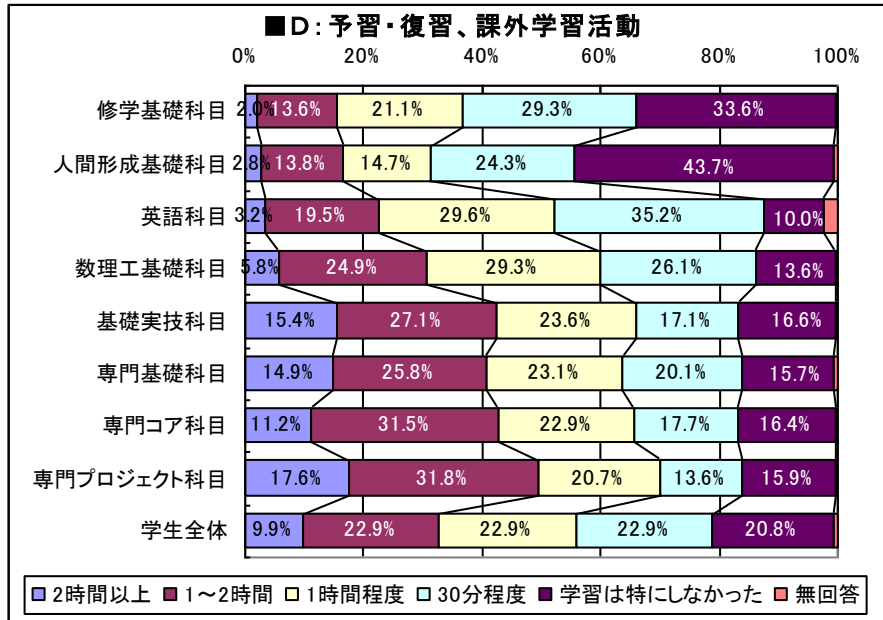
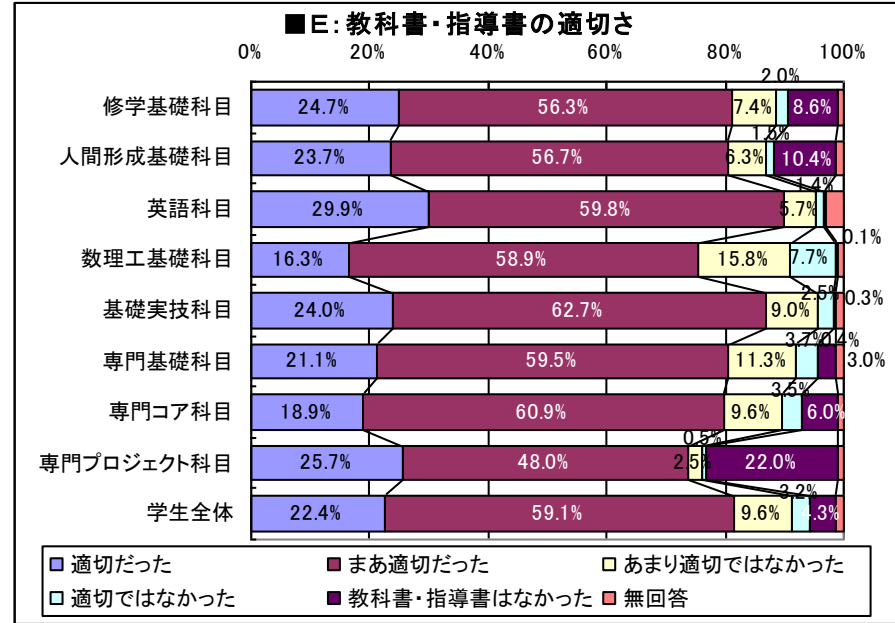
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
HM: メディア情報	75.0%	80.2%	86.1%	76.4%	86.0%	91.5%	86.0%	91.8%	88.5%	90.5%
HB: 生命情報	70.6%	79.1%	81.5%	71.8%	71.6%	93.1%	88.1%	89.0%	92.2%	91.4%
HP: 心理情報	75.3%	83.6%	86.7%	78.8%	87.3%	94.9%	90.3%	92.4%	92.7%	92.4%
HS: 情報マネジメント	71.7%	80.8%	85.6%	79.9%	86.5%	94.8%	91.5%	93.5%	92.3%	90.4%

<5>科目区分別の分析

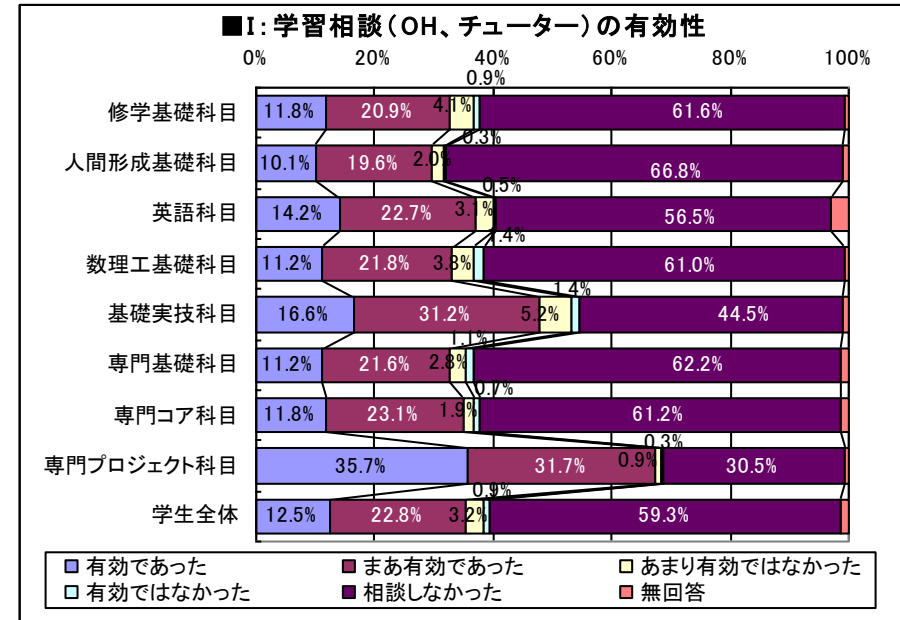
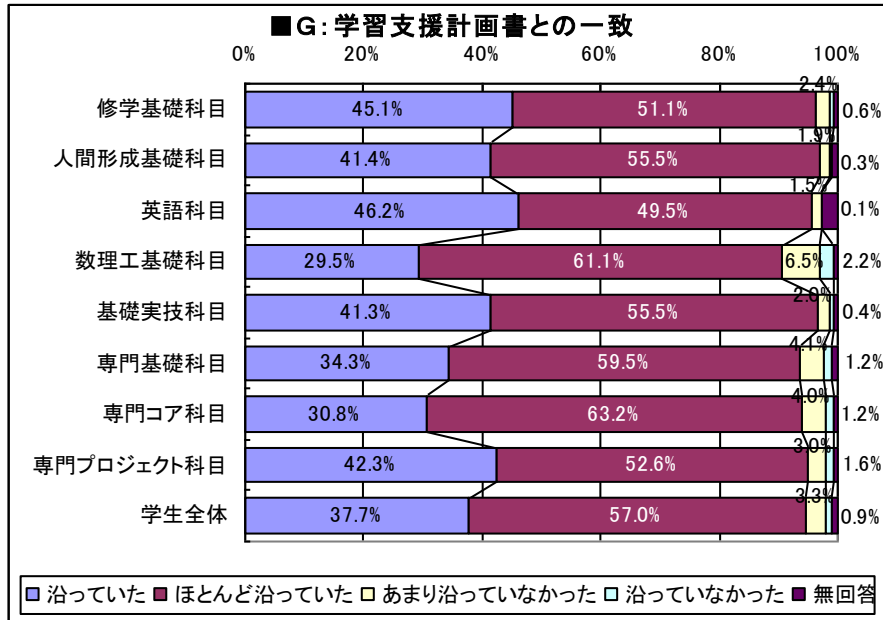
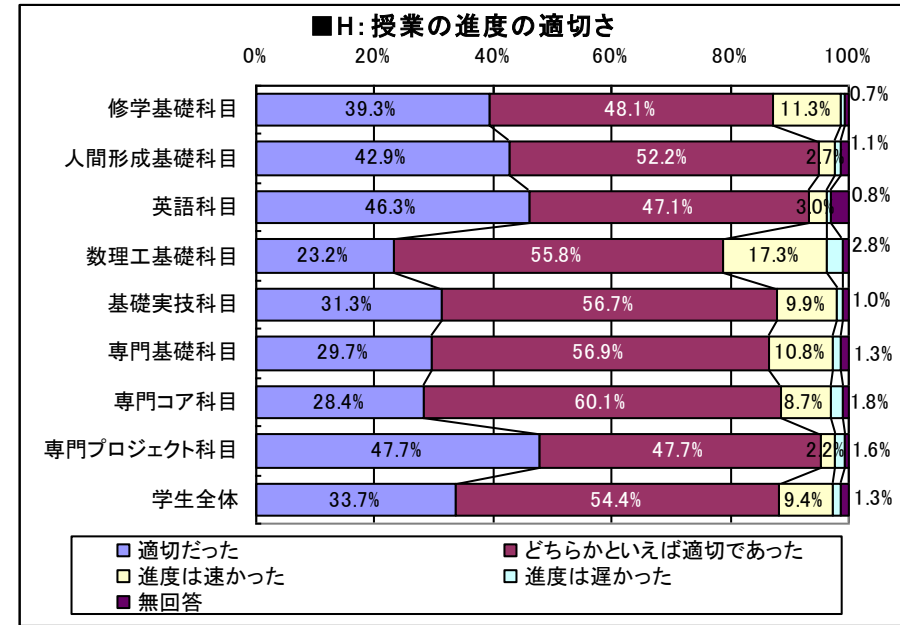
- 学部・学科構成の変更に伴って、科目区分も名称などが変更になっているが、全体を新しい科目区分に統一して集計を行っている。従って旧「外国語科目」は「英語科目」に追加、旧「工学基礎科目」は「数理工基礎科目」に追加、「工学基礎実技科目」は「基礎実技科目」に追加している。
- 「A:事前の興味」を科目区分別に比較すると、「専門プロジェクト科目」「人間形成基礎科目」「専門基礎科目」で肯定的な意見が多く、事前に強い興味を持っているようであり、「修学基礎科目」「数理工基礎科目」「英語科目」「基礎実技科目」への事前の興味は低めであった。
- 「B:事前の内容理解」は科目区分による差は小さいが、「専門プロジェクト科目」「人間形成基礎科目」がやや高かった。一方、「数理工基礎科目」はやや低く、事前の理解が進んでいないようであった。
- 「C:自分の熱意と努力」でも「専門プロジェクト科目」が高く、特に「努力した」が39.3%と、非常に高い点が目立っていた。一方、低かったのは「数理工基礎科目」であった。



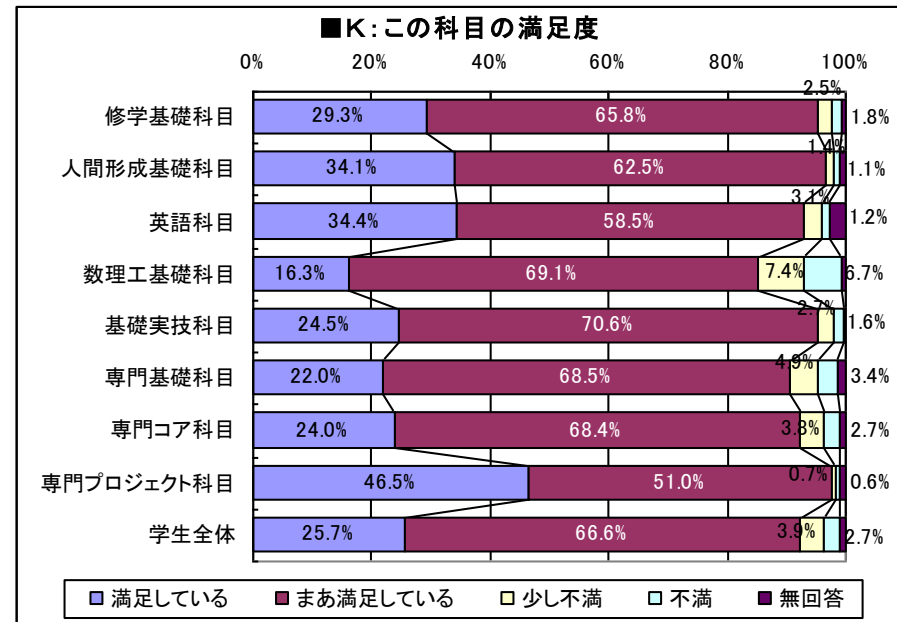
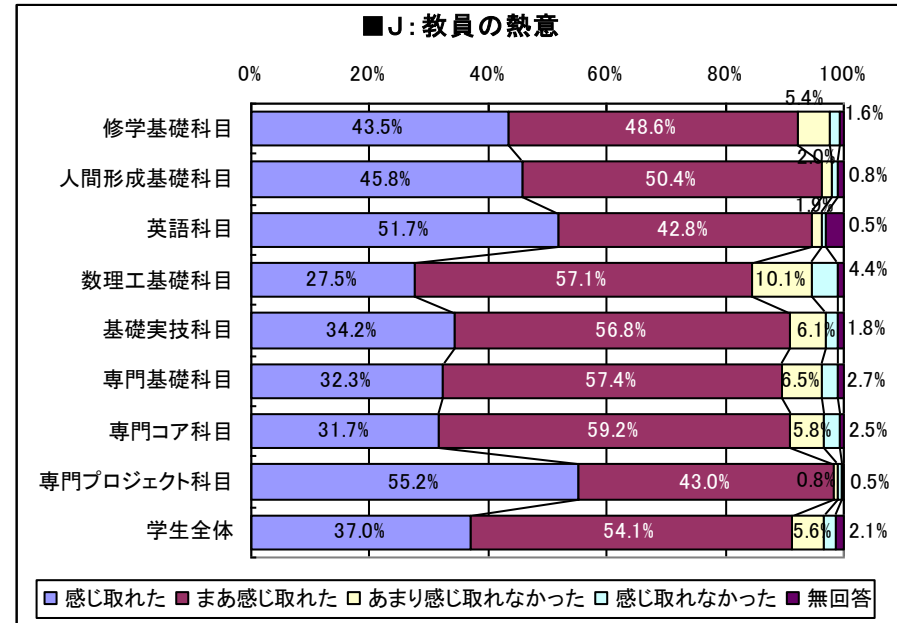
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は科目区分による差が大きく、「人間形成基礎科目」「修学基礎科目」では「学習は特にしなかった」が多く、「英語科目」「数理工基礎科目」は「学習は特にしなかった」は少ないものの、充てている時間は短めであった。そして、「専門プロジェクト科目」にはしっかりと時間を充てられている傾向が見られた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では、「英語」と「基礎実技科目」で肯定的な意見が多く、教材の評価が高いことが分かった。そして、「専門プロジェクト科目」では「教科書・指導書はなかった」という回答が多く、「数理工基礎科目」では評価がやや低めであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」の「十分役立った」を見ると、「専門プロジェクト科目」の評価が最も高かった。肯定的な意見は「英語科目」「人間形成基礎科目」でも多く、課題やレポート類がしっかりしているものと思われる。そして、差はそれほど大きくないものの、「数理工基礎科目」「修学基礎科目」でやや評価が低かった。



- 「G:学習支援計画書との一致」は全体的に肯定的な意見が多いが、「沿っていた」だけを見ると科目区分による差ははっきりしており、「英語科目」「修学基礎科目」はしっかり沿っており、「数理工基礎科目」「専門コア科目」はやや課題があるように思われた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は科目区分による評価に差があり、「専門プロジェクト科目」「人間形成基礎科目」「英語科目」の進度は適切であったが、「数理工基礎科目」はやや速めと言えそうであった。
- 「I:学習相談の有効性」では、まず「相談しなかった」が「専門プロジェクト科目」「基礎実技科目」で少なく、これらの科目区分では積極的に学習相談が活用されていることが分かった。また、「専門プロジェクト科目」では「有効であった」が35.7%であり、有効活用している様子が見えかけた。
- その他の科目区分では6割前後が「相談しなかった」と答えており、評価には大きな差は見られなかった。



- 「J:教員の熱意」は科目区分による差ははっきりしており、「専門プロジェクト科目」「人間形成基礎科目」「英語科目」「修学基礎科目」では好意的な意見が多く、教員の熱意をしっかりと感じているようであった。一方、「数理工基礎科目」「基礎実技科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」はやや低めであった。特に「感じ取れた」だけで比べると差ははっきりしており、後者の4つの科目区分でも教員の熱意を感じていないわけではないが、前者の4つとは差が見られた。
- 「K:この科目の満足度」も科目区分による差ははっきりしており、「専門プロジェクト科目」では「満足している」が46.5%と、強い満足感を感じていた。「人間形成基礎科目」「英語科目」「修学基礎科目」も「満足している」が3割前後を占めており、満足度は高いと言える。
- 一方、「数理工基礎科目」「基礎実技科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」も満足度は決して低くはないが、「満足している」は2割前後であり、前の4つの科目区分と比べると強い満足感を得ているとは言えない。



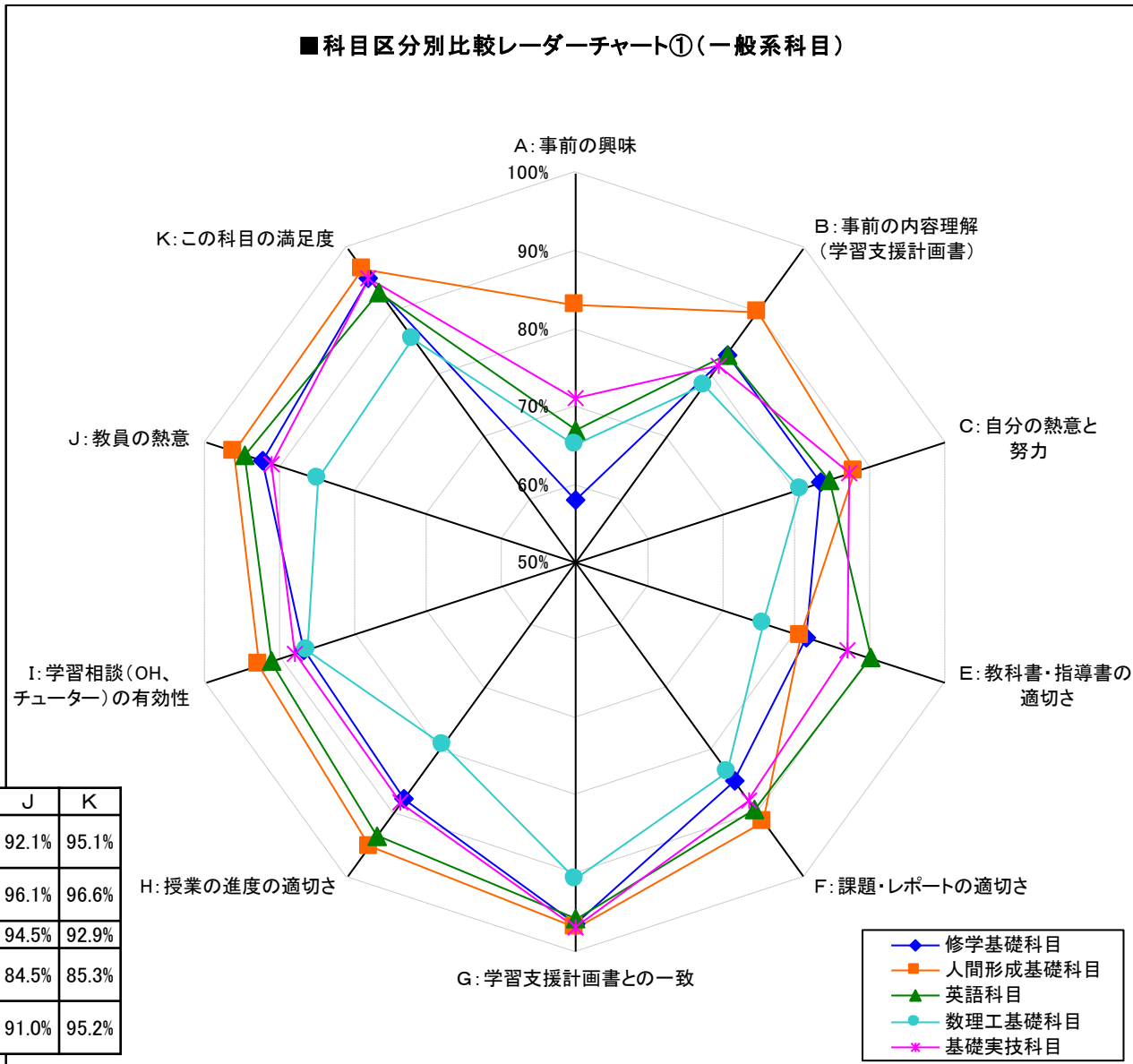
<5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- すべての科目区分を比べると数が多すぎるため、一般系の5科目と専門系の3科目に分けて学科同士の比較を行った。
- 一般系の5科目は下記の通りであるが、全体的に「人間形成基礎科目」で肯定的な意見が多く、「数理工基礎科目」で少ない傾向が見られた。
- 「人間形成基礎科目」は「A:事前の興味」が非常に高い点が特徴的で、「B:事前の内容理解」も高いが、「E:教科書・指導書の適切さ」が低いという傾向が見られた。
- 「数理工基礎科目」はほとんどの項目で最も低かったが、特に「H:授業の進度の適切さ」「G:学習支援計画書との一致」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」の低さが目立っており、授業の進度が速くてついていけず、不満につながっているのではないかとと思われる。
- 「修学基礎科目」は「A:事前の興味」が非常に低い点が特徴的であったが、「K:この科目の満足度」は高めであり、興味は持てないものの結果的には満足していると言えそうであった。

■一般系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	58.0%	83.1%	83.0%	81.1%	84.6%	96.2%	87.3%	86.8%	92.1%	95.1%
人間形成基礎科目	83.0%	89.7%	87.7%	80.4%	91.0%	96.9%	95.0%	92.6%	96.1%	96.6%
英語科目	66.9%	83.1%	84.3%	89.8%	88.9%	95.7%	93.3%	91.2%	94.5%	92.9%
数理工基礎科目	65.1%	77.9%	80.2%	75.3%	83.1%	90.5%	79.0%	86.3%	84.5%	85.3%
基礎実技科目	71.1%	81.3%	86.8%	86.7%	87.9%	96.8%	88.0%	87.9%	91.0%	95.2%

■科目区分別比較レーダーチャート①(一般系科目)

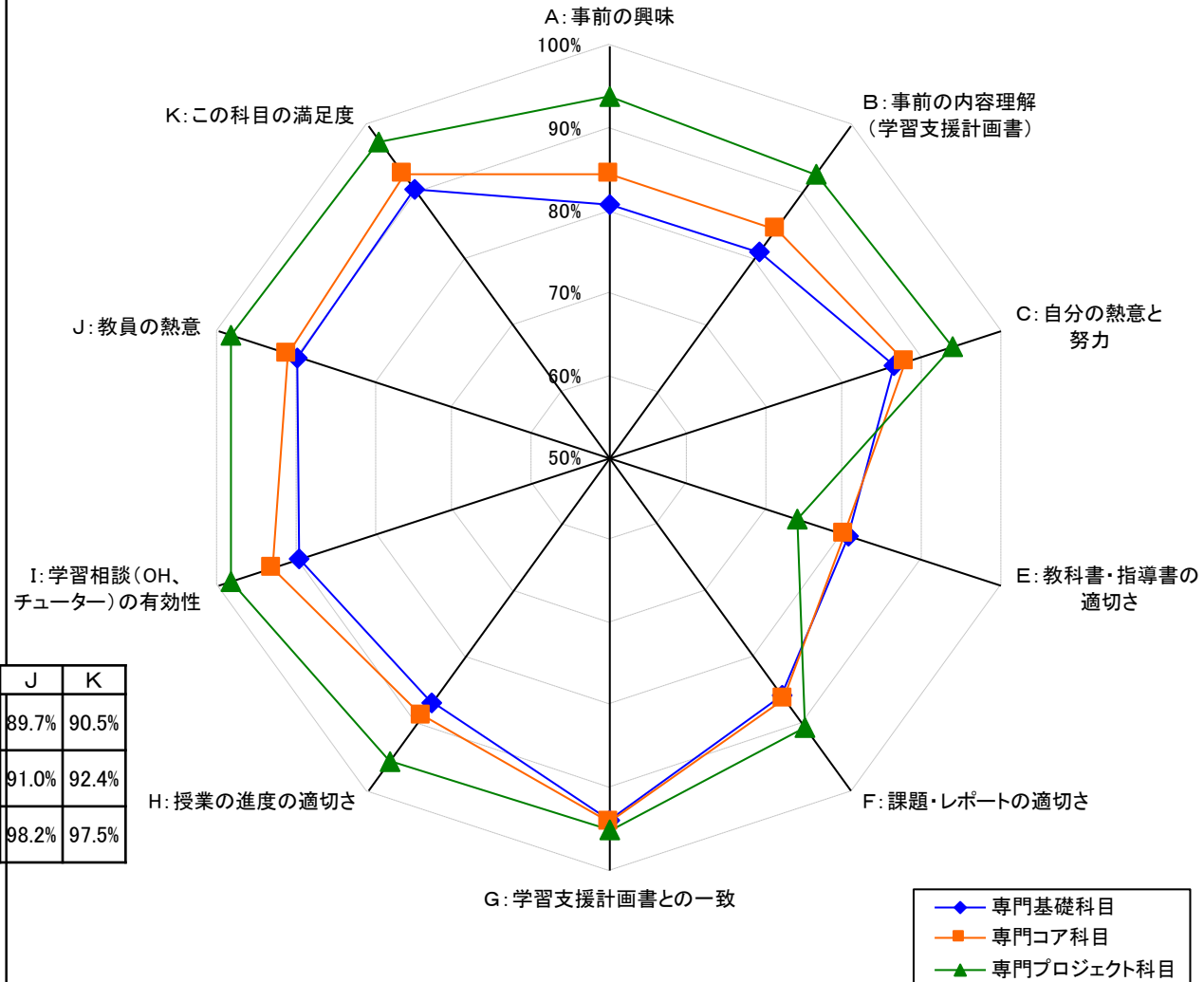


- 「専門系」は3つの科目で比較しているが、前項と比べると全体的に「A:事前の興味」が非常に高い点が特徴的であり、専門科目には強い興味を持って取り組んでいることが分かる。
- 科目別には「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見が多く、「E:教科書・指導書の適切さ」では評価は低いものの、「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」をはじめとして、「K:この科目の満足度」まで、非常に高い評価であり、全科目区分の中で最もしっかりと取り組んでいる分野と言える。
- 「専門コア科目」「専門基礎科目」も全体的に肯定的な意見が多く、非常に良い状態にあると言えるが、「専門系」の中では「専門コア科目」の方が高い評価であり、満足度も高く、「専門基礎科目」はわずかに低い評価となっていた。

■ 専門系科目の評価比較

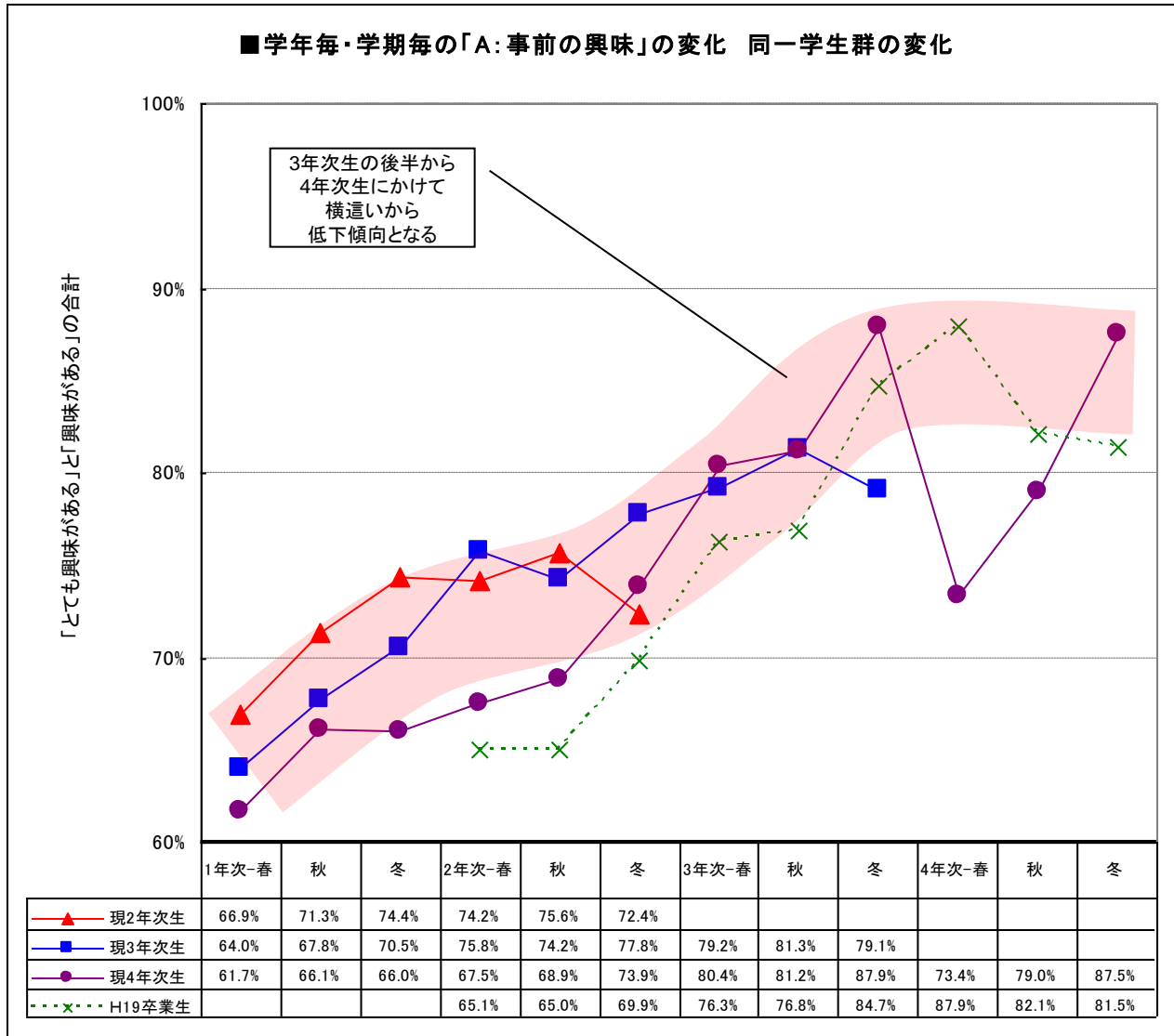
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
専門基礎科目	80.7%	80.9%	86.2%	80.5%	85.4%	93.7%	86.6%	89.5%	89.7%	90.5%
専門コア科目	84.5%	84.4%	87.7%	79.8%	86.0%	94.0%	88.4%	93.0%	91.0%	92.4%
専門プロジェクト科目	93.9%	92.5%	93.7%	73.7%	90.4%	94.8%	95.4%	98.1%	98.2%	97.5%

■ 科目区分別比較レーダーチャート②(専門系科目)



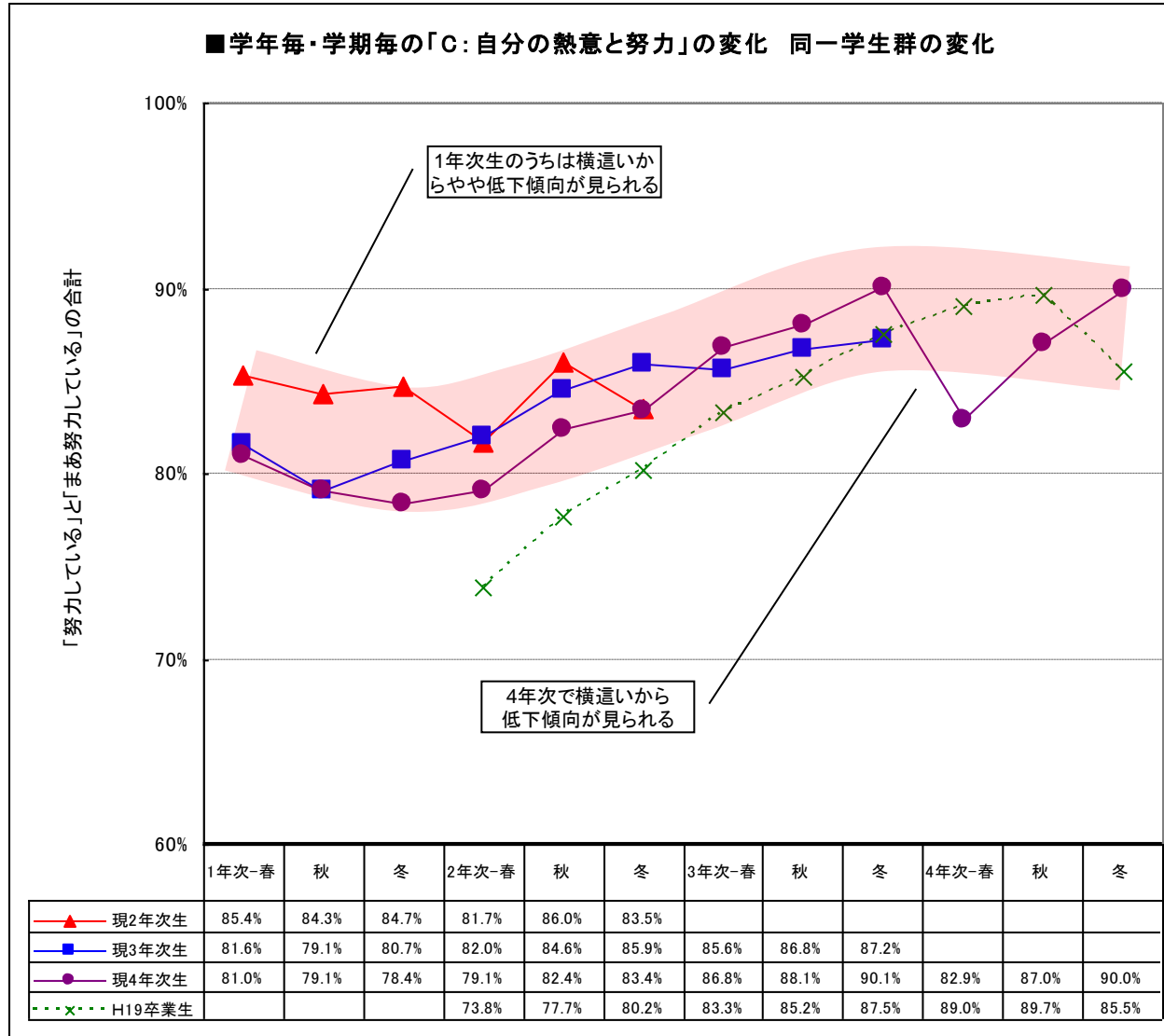
<6> 同一学生群の分析

- ここまでに学年毎、学部毎などの差を見てきたが、同一学生群ではどのような変化をしているのか、主な指標に関して確認した。
- 「A:事前の興味」に関しては、学生群は異なっても1年次生から3年次生にかけてはほぼ右肩上がりであり興味が強まっていることが確認できる。
- そして、4年次生になると一気に低下したり、横這いとなり、それまでの変化とは違う傾向が見られた。
- これらの変化を見ると、授業に対する事前の興味は、低学年では低いものの、学年が上がるに連れて上昇しており、徐々に学生の興味を惹くことができていると言える。
- 4年次生では、割合は分からないが再履修などがあるために興味の低下が見られるのではないかと考えられるが、これらの要因に関しては更なる情報収集が必要と言える。

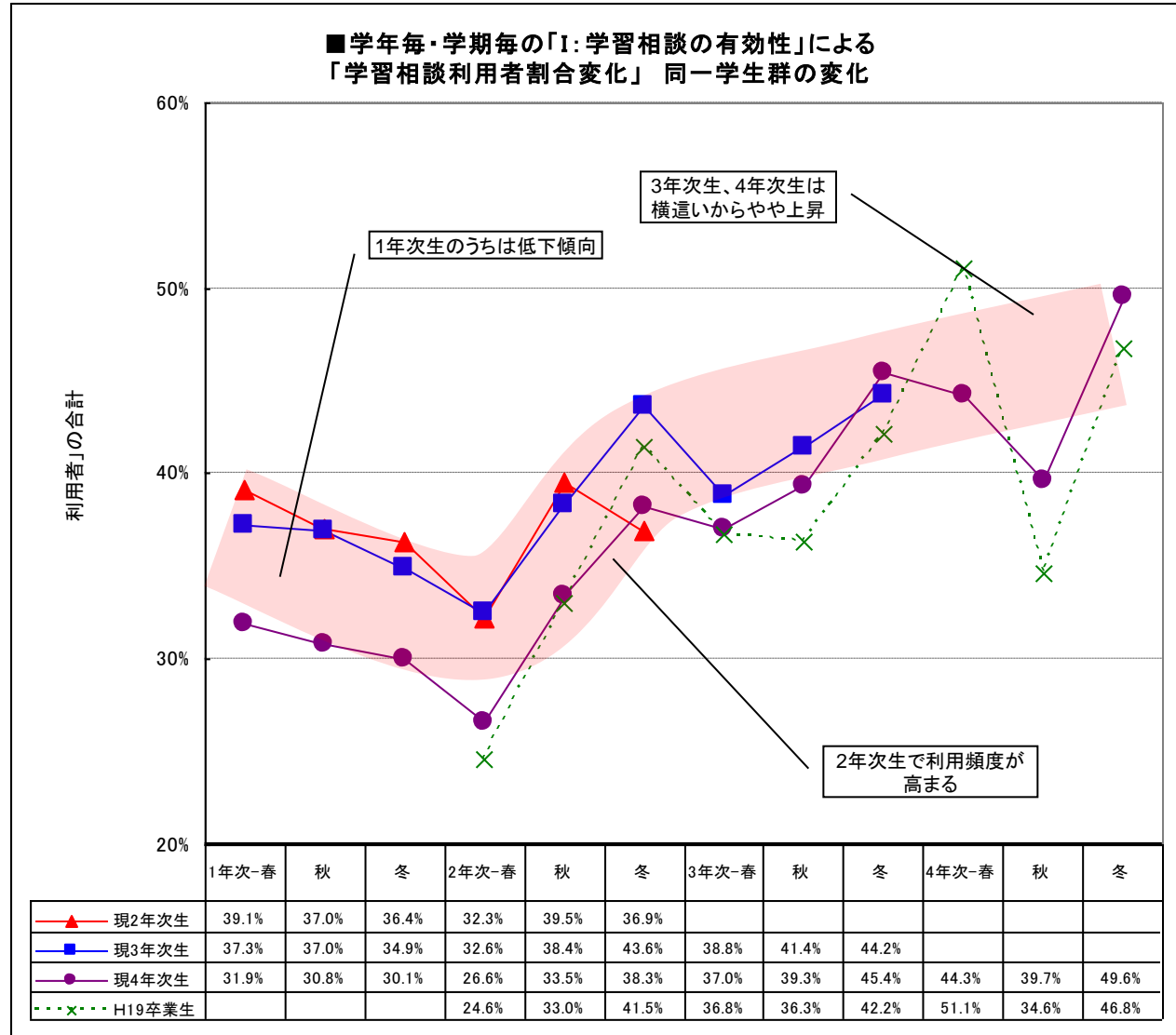


- 次に代表的な指標である「C:自分の熱意と努力」を見ると、全体的に緩やかではあるが徐々に熱意と努力が強まり、積極性が増している傾向がうかがえた。
- 1年次生の段階ではほぼ横這いで、春から秋にかけては低下の傾向も見られたが、これは入学直後に安心して気が抜けているのではないかとと思われる。ただし、それほど大きな低下ではない。
- 2年次生から3年次生にかけては徐々に肯定的な意見が増加しており、学生の積極性が増している様子が見える。もう少し積極性を期待したいところではあるが、現段階でも悪い状態ではないと言える。
- 4年次生の段階を見るには2学年分のデータしかないためはっきりしたことは言えないが、低下する部分も見られ、再履修による積極性の低下や、卒業確定による気のゆるみなどもあるのではないかとと思われる。

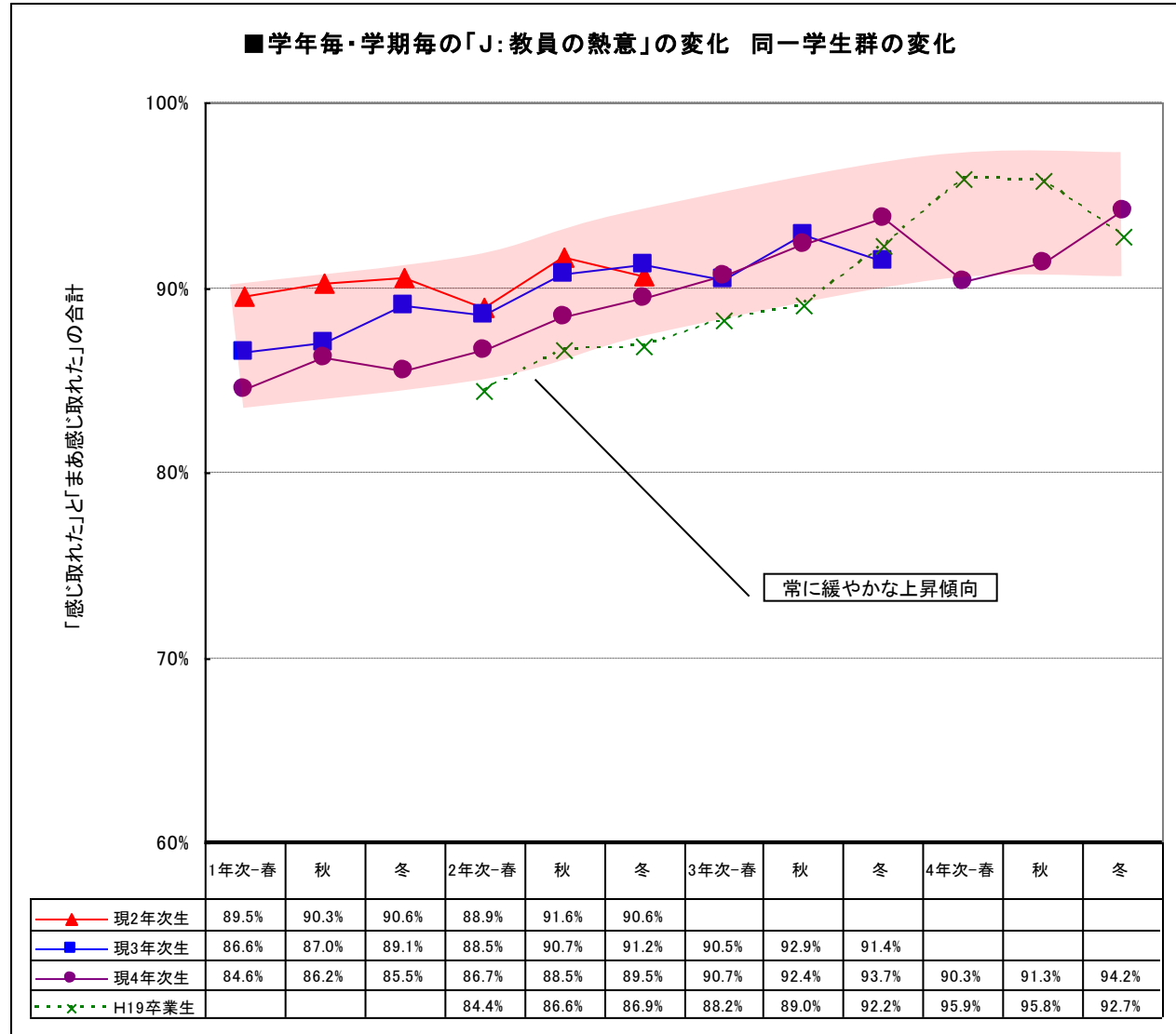
■ 学年毎・学期毎の「C:自分の熱意と努力」の変化 同一学生群の変化



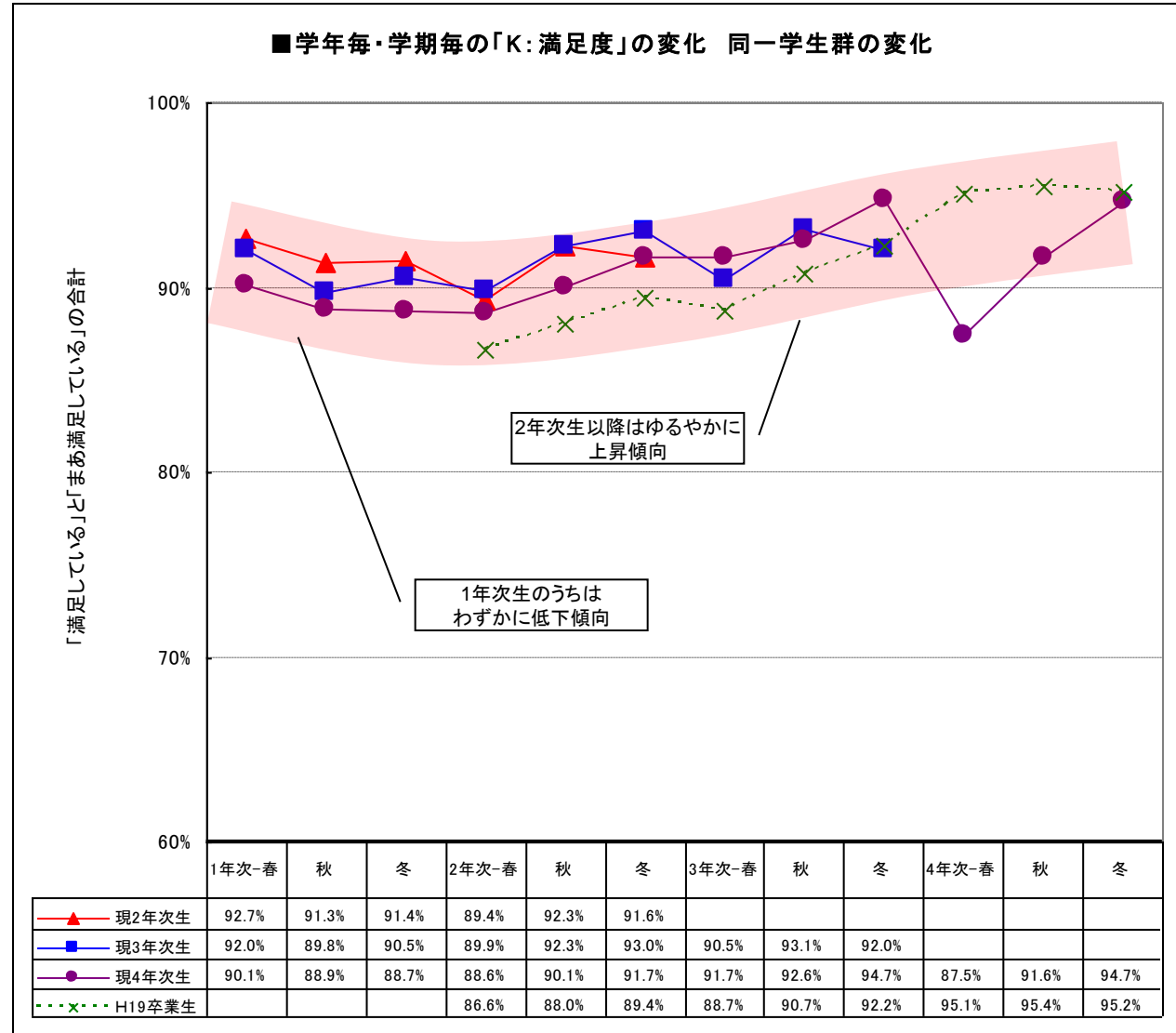
- 「I:学習相談の有効性」に関しては内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認したところ、他の指標のように一定の変化ではなく、上下動が激しかった。
- 1年次生のうちは、いずれの学生群も低下傾向にあり、理由は不明であるが学習相談の利用者が少なくなっていくようであった。
- 2年次生では例外はあるが学習相談の利用率は一気に上がっており、相談を必要とする授業が増加しているものと思われる。
- 2年次生から3年次生にかけては少し利用率が低下し、3年次生の間はやや利用率が上がっていた。4年次生での変化は学生群によって異なっており、一定の変化は見られなかった。



- 「J:教員の熱意」は入学直後から9割前後が肯定的な意見であり、多くの学生が教員の熱意を感じており、学年が上がるにつれて緩やかに肯定的な意見が増加する傾向が見られた。
- 4つの学生群でいずれも1年次生から2年次生、3年次生にかけて緩やかに肯定的な意見が増加しており、教員の熱意を徐々に強く感じている様子がうかがえた。
- 4年次生の段階は2つの学生群しかサンプルがないが、上下動はあるものの、ほぼ横這い状態であり、4年次生になっても継続的に教員の熱意を感じ続けているようであった。



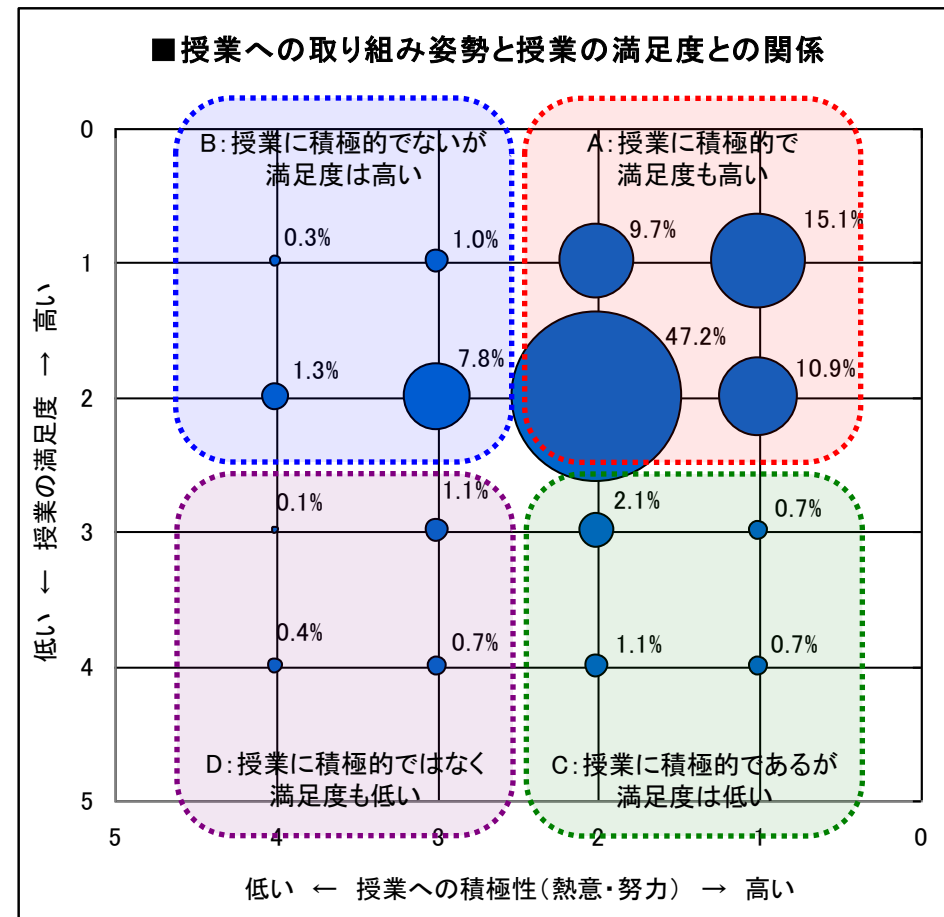
- 授業に対する最終的な評価である「K:この科目の満足度」に関しても、入学直後から9割前後が肯定的な意見で満足度は高いが、学年が上がるにつれて非常に緩やかではあるが満足度が増していく傾向が見られた。
- 入学直後の満足度は、2年次生にかけてわずかではあるが低下する傾向も見られたが、ほぼ横這いであり、2年次生、3年次生にかけても横這いからわずかに上昇という傾向であり、全体としては大きな変化は見られなかった。
- 4年次生ではH19卒業の学生群は引き続き満足度が増していたが、現4年生は4年次生になった段階で満足度が大きく低下し、その後、一気に向上して3年次生の冬と同じレベルに戻っていた。
- 4年次生での変化は説明ができない点があるものの、全体を通してみると満足度は高いままの状態であり、緊急に対処すべき課題はなさそうであった。



＜7＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

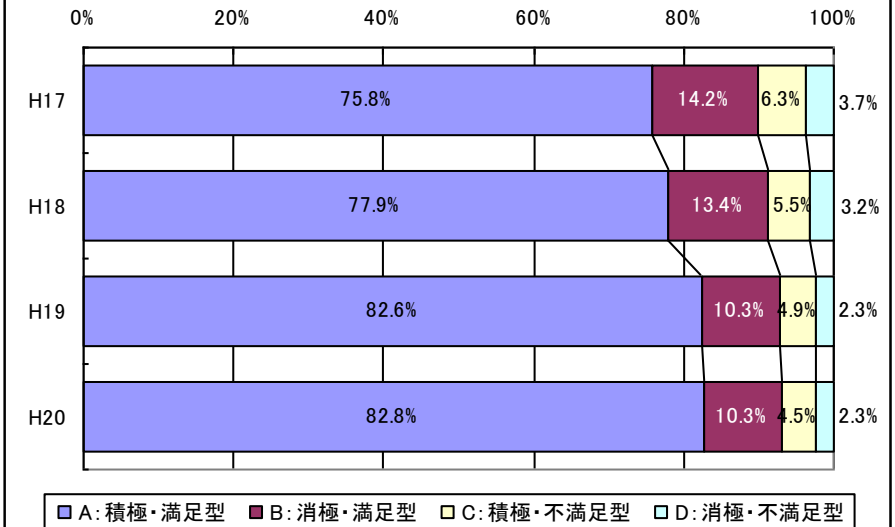
- 「C:自分の熱意と努力」と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、学生を4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A」の「授業に積極的で満足度も高い」という最も良い状態にある学生は全体の82.8%であった。中でも満足度も積極性もいずれも最も高いという学生は15.1%であった。
- 「B」の「授業に積極的ではないが満足度は高い」という学生は10.3%であった。これらの学生は自らは積極性を持っていないが教員の指導などによって授業についていくことができおり、結果的に満足しているものと思われる。
- 「C」の「授業に積極的であるが満足度は低い」という学生は4.5%であった。これらの学生は授業についていけなかったり、積極的に取り組んだものの期待はずれを感じているといった状況が考えられるが、この満足度の低さが「あきらめ」となってしまうまいよう、しっかりしたサポートが必要と言える。
- 「D」の「授業に積極的ではなく満足度も低い」という学生は全体の2.3%と非常に少なかったが、最も大きな課題を抱えている学生群であると言える。これらの学生の指導には何らかの成功体験を積ませるといったことがスタートになるのではないと思われる。



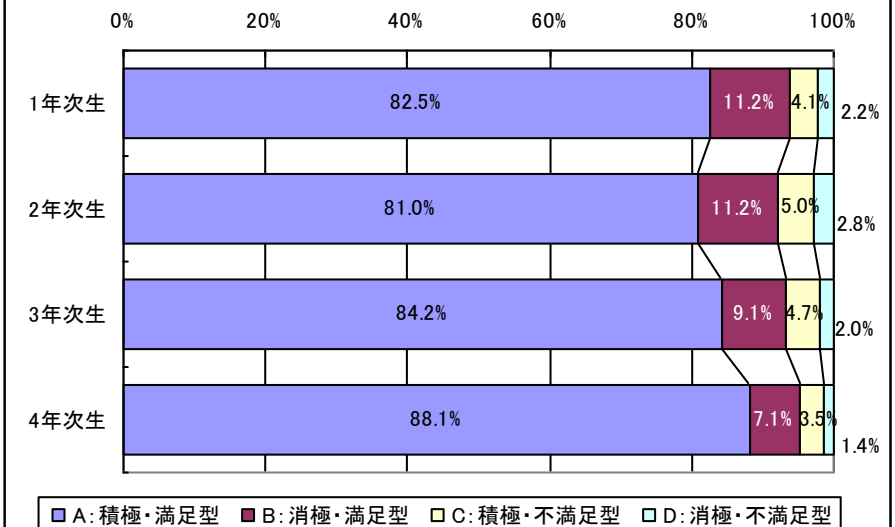
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	82.8%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	10.3%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	4.5%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	2.3%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で見た4グループの割合の経年変化を見たところ、今回の結果は前回のH19とほとんど同じであり、「A:積極・満足型」が82.8%と大多数を占めており、「D:消極・不満足型」は2.3%にとどまった。
- H17からH19にかけては「A:積極・満足型」が増加する傾向で、良い状態となっていたが、今回は横這いであり、良い状態を維持していると言える。
- 学年別の比較をすると、「A:積極・満足型」は4年次生で88.1%と最も多く、次いで3年次生が84.2%、1年次生が82.5%であり、2年次生が81.0%と最も少なかった。
- 2年次生は「B:消極・満足型」は1年次生と変わらないものの、「C:積極・不満足型」「D:消極・不満足型」がやや多めであり、授業自体への不満を感じているようであった。

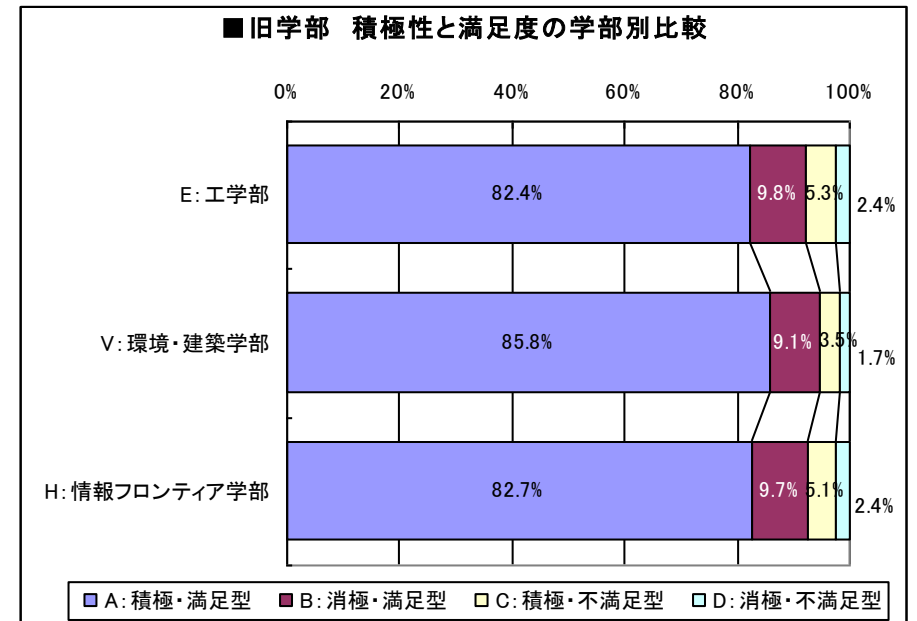
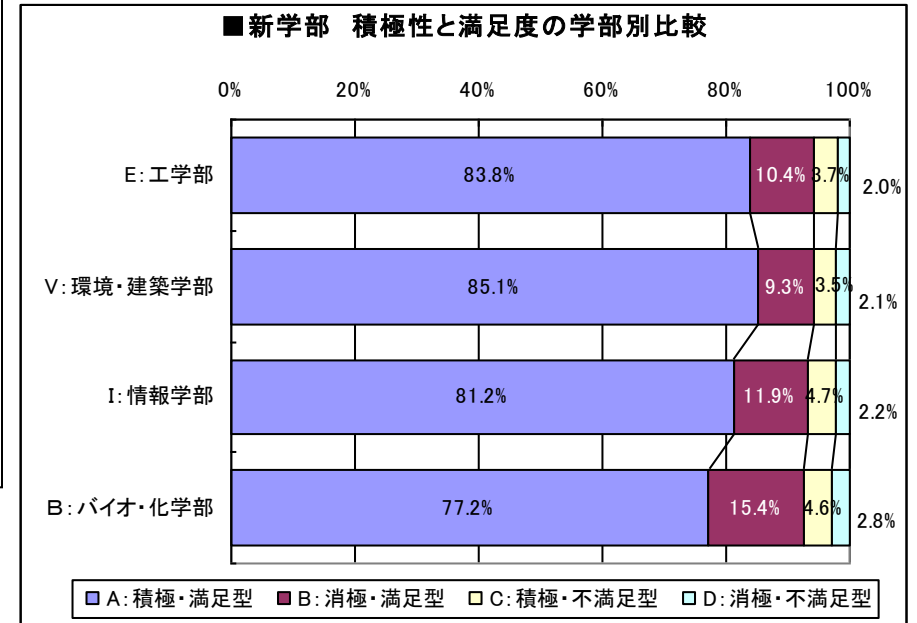
■ 積極性と満足度の経年変化



■ 積極性と満足度の学年別比較



- 新学部体制の4学部で比較したところ、「A:積極・満足型」は「V:環境・建築学部」で最も多く、次いで「E:工学部」「I:情報学部」と続いており、「B:バイオ・化学部」では77.2%と、「V:環境・建築学部」よりも7.9ポイント少なかった。
- 新学部では上記以外に「B:消極・満足型」の差が大きく、「B:バイオ・化学部」は「B:消極・満足型」が多い点が特徴的であり、積極的になれていないものの、不満を感じている訳ではないようであった。
- 旧学部体制の3学部では学部間の差がそれほどなかったが、「A:積極・満足型」は「V:環境・建築学部」が85.8%で最も多く、「H:情報フロンティア学部」は82.7%、「E:工学部」は82.4%とほとんど差はなかった。
- 「B:消極・満足型」も9%台でほとんど差はなく、学部間の差は小さいと言える。



<8> 全体のまとめ

今回の全体傾向、経年変化、学年別比較、同一学生群の分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

授業に満足している学生は92.0%と満足度は高く、学生、教員共に熱意を持って授業に取り組んでいると言える。ただし、授業を受ける前の準備や学習相談の活用がやや低調と言える。

- ◆ 全体の92.0%は授業に満足していると答えていた。
- ◆ 事前に興味を持っていた学生は74.9%、事前に内容を理解していた学生は82.4%であり、他の指標と比べると事前準備がやや弱いと言える。
- ◆ 授業に対して熱意を持って努力をしていた学生は85.0%、授業を通して教員の熱意を感じていた学生は91.0%であり、学生、教員共に熱意を持って授業に取り組んでいたと言える。
- ◆ 「学習支援計画書」「教科書」「課題・レポート」など、サポートツール類には8割が満足していたが、「学習相談」の利用者は4割にとどまっていた。

【学年別比較で確認できた事】

「1年次生」から「2年次生」にかけて少しモチベーション低下があるが、高学年ほど授業に対する取り組み姿勢が積極的になっており、授業の満足度、自分の熱意共に「4年次生」が最も高い。

- ◆ 「授業の満足度」と「自分の熱意と努力」は「1年次生」から「2年次生」にかけて低下傾向が見られる。
- ◆ 「事前の興味」「事前の内容理解」は学年が上がるほど肯定的な意見が増加しており、高学年ほど事前の心構えができていたようであった。
- ◆ 「授業の満足度」「自分の熱意と努力」を含め、ほとんどの項目で「4年次生」が最も高かった。特に「予習・復習時間」が多くて「学習相談の有効性」の評価が非常に高く、しっかりと勉強に取り組んでいる様子が見える。

【経年変化で確認できた事】

「授業の満足度」をはじめとして、ほとんどの項目で前回とほぼ同じ結果であったが、予習・復習、課外学習の時間はやや減少し、「学習相談」の利用率はわずかに増加していた。

- ◆ 授業に対する満足度は、前回調査(H19)とほぼ同じであり、H15からの上昇傾向は止まっていた。
- ◆ 他のほとんどの設問でも前回調査とほぼ同じ評価であり、全体的に肯定的意見が多いものの上昇傾向は止まっていた。
- ◆ 前回と比べて変化があったのは「予習・復習、課外学習の時間」と「学習相談の利用者割合」であり、前者に関しては「学習は特にしなかった」がわずかに増加し、学習時間も減少する傾向が見られた。一方、「学習相談」の利用者割合はわずかにあるが前回調査を上回っていた。

【同一学生群で確認できた事】

同一学生群の変化を見ると、どの学生群でも入学直後から1年間は満足度、熱意が低下する傾向が見られ、この1年間にモラルの低下などの変化があるものと思われる。

- ◆ 同一学生群の意識変化を追うと、「事前の興味」はどの学生群においても高学年ほど急速に興味が強くなっていた。
- ◆ 「満足度」は「1年次生」の間は横這いからやや低下傾向にあったが、それ以降は徐々に増す傾向が見られた、「自分の熱意と努力」にも同じような変化が見られた。
- ◆ 「教員の熱意」に関しては、どの学生群でも高学年ほど強く感じるようになっていた。
- ◆ 「学習相談」の利用者は「1年次生」から「2年次生」にかけて大きく減少していた。

【新学部別比較で確認できた事】

新構成の学部では「環境・建築学部」が良い状態で、
「バイオ・化学部」が全体的に低めであった。
満足度には差はないが、事前の興味には大きな差が見られた。

- ◆ 新構成の学部では、全体的に「環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、特に「事前の興味」が強い点が目立っていた。
- ◆ 「環境・建築学部」に次いで、「工学部」「情報学部」と徐々に肯定的な意見が減っており、「バイオ・化学部」は全体的に低めであった。
- ◆ 「満足度」や「教員の熱意」などは学部による差が見られなかったが、「事前の興味」や「事前の内容の理解」「自分の熱意と努力」などは学部による差が大きく、心構えの違いが見られた。
- ◆ 「教科書・指導書の適切さ」「課題・レポートの適切さ」も学部による差が大きく、「バイオ・化学部」の低さが目立っていた。

【旧学部別比較で確認できた事】

旧構成の学部では「環境・建築学部」が良い状態であり、
「工学部」「情報フロンティア学部」と続いていた。
そして、「事前の興味」「教科書・指導書」に差が見られた。

- ◆ 旧構成の学部では「環境・建築学部」が全般的に高く、良い状態にあるものと思われる。次いで、差は大きくないが「工学部」「情報フロンティア学部」と続いていた。
- ◆ 学部による差が大きかったのは「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」であり、評価は上記と同じ順であった。
- ◆ 「学習相談」の利用率にも差があり、「環境・建築学部」では「相談しなかった」が52.4%であったが、「情報フロンティア学部」では59.6%、「工学部」では61.8%であった。

【新学科別比較で確認できた事】

「工学部」「環境・建築学部」では学科の差が見られなかったが、
「学習相談」の利用状況にやや差が見られた。「バイオ・化学部」の
「応用バイオ学科」は事前の興味をはじめ、全体的に低かった。

- ◆ 「工学部」では、学科毎の差は大きくないが「航空システム工学科」がやや高め、「ロボティクス学科」がやや低めであった。
- ◆ 「環境・建築学部」は全体的に肯定的な意見が多く、学科による差は見られなかったが、「環境土木工学科」は「学習相談」を有効活用していた。
- ◆ 「情報学部」は「心理情報学科」「情報工学科」がやや高めであるが差は少なく、差が特に目立った項目は見られなかった。
- ◆ 「バイオ・化学部」は2学科であるが学科間の差が大きく、「応用バイオ学科」が全体的に非常に低い点が目立っていた。特に「事前の興味」は全学科の中で最も低く、興味を持っていない様子がうかがえた。

【旧学科別比較で確認できた事】

3学部共に学科間の差は少なかったが、「事前の興味」は学科による差がやや大きめであった。そして、「情報フロンティア学部」の
「生命情報」で学習サポートツールの評価が低い点が目立っていた。

- ◆ 「工学部」では学科間の差は小さいものの、「航空システム」「情報通信」が全体的にやや高く、「情報」「ロボティクス」が低めであった。特に「情報」は「事前の興味」「課題・レポートの適切さ」が低かった。
- ◆ 「環境・建築学部」も学科間の差は小さいが、「環境土木」「建築都市デザイン」「建築」が高めで、「事前の興味」は学科間の差がやや大きめであった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」は学科間の差がやや大きく、「生命情報」で「教科書・指導書」「課題・レポート」が非常に低く、授業をサポートするツール類の評価が低いのではないかと考えられた。

【科目区分別比較で確認できた事】

一般科目では「人間形成基礎科目」、専門系科目では「専門プロジェクト科目」の評価が高かった。そして、専門系科目に対する事前の興味が非常に強いことが分かった。

- ◆ 科目区分別に比較すると「事前の興味」の差が大きく、「専門プロジェクト科目」「専門コア科目」「人間形成基礎科目」「専門基礎科目」に対しては事前の興味が強い傾向が見られた。
- ◆ 「一般科目」の中では「人間形成基礎科目」で肯定的な意見が多く、「数理工基礎科目」で少ない傾向が見られた。そして、「事前の興味」は科目区分による差が大きく、「人間形成基礎科目」の高さが目立っていた。
- ◆ 「専門系科目」は「専門プロジェクト科目」の評価が非常に高かった。そして、すべての科目区分で「事前の興味」が非常に強い点が特徴的であり、専門科目には強い興味を持って取り組んでいることが確認できた。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は昨年より0.2ポイント増加して82.8%で、新旧共に「環境・建築学部」が良い状態であり、新学部の「バイオ・化学部」に課題がありそうであった。

- ◆ 積極性と満足度の指標で見ると、最も良い状態である「積極・満足型」が82.8%で、昨年より0.2ポイント増加していた。
- ◆ 課題を抱えていそうな層として、積極的だが満足が得られない層が4.5%、消極的で満足できていないという層が2.3%であった。
- ◆ 「積極・満足型」は「2年次生」でやや少なく、「4年次生」で最も多かった。また、新学部では「環境・建築学部」で多く「バイオ・化学部」で少なく、旧学部では「環境・建築学部」で多く、残りの2学部は同程度であった。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようなになる。

- 授業に満足している学生は92.0%と満足度は高く、学生、教員共に熱意を持って授業に取り組んでいると言える。ただし、授業を受ける前の準備や学習相談の活用がやや低調と言える。
- 「授業の満足度」をはじめとして、ほとんどの項目で前回とほぼ同じ結果であったが、予習・復習、課外学習の時間はやや減少し、「学習相談」の利用率はわずかに増加していた。
- 「1年次生」から「2年次生」にかけて少しモチベーション低下があるが、高学年ほど授業に対する取り組み姿勢が積極的になっており、授業の満足度、自分の熱意共に「4年次生」が最も高い。
- 同一学生群の変化を見ると、どの学生群でも入学直後から1年間は満足度、熱意が低下する傾向が見られ、この1年間にモラルの低下などの変化があるものと思われる。
- 新構成の学部では「環境・建築学部」が良い状態で、「バイオ・化学部」が全体的に低めであった。満足度には差はないが、事前の興味には大きな差が見られた。
- 旧構成の学部では「環境・建築学部」が良い状態であり、「工学部」「情報フロンティア学部」と続いていた。そして、「事前の興味」「教科書・指導書」に差が見られた。
- 一般科目では「人間形成基礎科目」、専門系科目では「専門プロジェクト科目」の評価が高かった。そして、専門系科目に対する事前の興味が非常に強いことが分かった。
- 「積極・満足型」は昨年より0.2ポイント増加して82.8%で、新旧共に「環境・建築学部」が良い状態であり、新学部の「バイオ・化学部」に課題がありそうであった。



- ❖ 前回までは学生の満足度、事前の興味、積極性が年々増してくる傾向にあったが、今回は大きな変化がなく、ほぼ前回と同じ傾向であった。全体の9割以上が授業に満足する状況は変わっておらず、緊急度の高い課題は見あたらないと言える。
- ❖ 授業の評価が高い属性である「4年次生」「環境・建築学部」「専門系科目」などに共通なのは「事前の興味」「事前の内容理解」が高い点であった。事前のオリエンテーションやシラバスなどでの効果的な事前の情報提供が更なる満足度の向上につながるものと思われる。また、「1年次生」の後半のモチベーション低下を防ぐことも全体の満足度向上につながると思われる。
- ❖ 授業アンケートは同一内容で4年間実施しており、現在の調査項目に関する回答傾向はつかめて学生の考え方も分かっているため、「事前の興味を持たせる方法」など、テーマを変えていくことも必要かと思われる。